

は じ め に

我が国においては、少子高齢化や国内経済活動の成熟化など社会経済情勢の急速な変化に対応していく上で、男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現が、緊急な課題となっております。

このような状況にかんがみ、男女共同参画社会の実現を 21 世紀の我が国社会を決定する最重要課題と位置付け、社会のあらゆる分野において、男女共同参画社会の形成の促進に関する施策の推進を図っていくことが重要であるとして、平成 11（1999）年 6 月に「男女共同参画社会基本法」が制定され、翌年には「男女共同参画基本計画」が策定されました。

また、兵庫県においては、平成 13（2001）年に「ひょうご男女共同参画プラン 21」が策定され、翌平成 14（2002）年には「男女共同参画社会づくり条例」が施行されたところであります。

本市におきましては、平成 5（1993）年に策定した「川西市女性プラン」に基づき、男女共同参画社会の実現に向けた様々な取り組みを推進してまいりました。このプランが平成 15（2003）年 3 月末をもって計画期間を終了することから、新たに、第 2 期の行動計画となる「川西市男女共同参画プラン」を策定し、平成 15 年 4 月から、男女の自立と平等による共同参画社会の実現をめざして、諸施策を展開しているところであります。

この度、平成 19 年度がこのプランの中間見直しの時期にあたることから、プラン改定の基礎資料としていくために「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施し、市民意識を的確に把握し変革の時代に整合したプランの見直しを行い、男女共同参画社会の実現に向けてあらゆる分野において諸施策を推進してまいりたいと考えております。

最後になりましたが、本調査にあたりご協力をいただきました市民の皆様をはじめ、貴重なご意見をいただきました川西市男女共同参画審議会委員の皆様にご心から厚くお礼申し上げます。

平成 18（2006）年 3 月

川西市男女共同参画推進本部長

川西市長



目 次

アンケート調査

I. 調査の概要.....	1
1. 調査の目的.....	2
2. 調査概要.....	2
3. 回収結果.....	2
4. 報告書の見方.....	7
II. アンケート結果.....	9
1. 回答者の属性.....	10
(1) 性別構成.....	10
(2) 年齢構成.....	10
(3) 結婚.....	11
(4) 家族構成.....	11
2. 男女の地位について.....	12
(1) 男女の地位の平等感.....	12
3. 結婚と家庭生活について.....	16
(1) 結婚・離婚・家庭についての意識（全体）.....	16
(2) 結婚・離婚についての意識（年齢階層別）.....	17
(3) 家庭についての意識（年齢階層別）.....	23
(4) 家庭内の家事について.....	29
4. 子育てについて.....	30
(1) 子育てについての意識.....	30
5. 介護について.....	37
(1) 介護の経験.....	37
(2) 介護者の希望.....	40
6. 仕事について.....	42
(1) 就労の状況.....	42
(2) 育児休業・介護休業について.....	53

7. 家庭生活と地域活動について	59
(1) 家庭生活・地域活動について	59
8. 性と人権について	62
(1) セクハラ、DVについての意識	62
(2) セクハラ、DV被害の経験について	63
(3) メディアの中の性表現について	70
(4) 子どもへの性教育について	75
9. 男女共同参画政策について	76
(1) 「ことがら」や「ことば」の認知度	76
(2) 「男女共同参画社会」の実現のために	80
(3) 「川西市男女共同参画センター」の認知度	81
(4) 「川西市男女共同参画センター」への希望	82
Ⅲ. 自由回答	83
自由回答（抜粋）	84

結果の考察

男女共同参画に関する市民意識調査の結果と課題	93
1. 回収率の低下	93
2. 性別役割分担についての揺れ	93
3. 男女共同参画についての周知の課題	94

資 料

アンケート調査票	97
----------------	----

I . 調査の概要

1. 調査の目的

このアンケート調査は、平成 15 年度よりスタートしている「川西市男女共同参画プラン～男女の自立と平等による共同参画をめざして～」の見直しを行うにあたり、川西市民の「男女共同参画」に関する意識の実態を把握し、その基礎資料とする。

2. 調査概要

- (1) 調査対象 : 川西市に居住している満 16 歳以上の市民
- (2) 抽出法 : 住民基本台帳（平成 17 年 7 月 1 日現在）から層化二段無作為抽出
- (3) 調査期間 : 平成 17 年 7 月 15 日（金）～平成 17 年 8 月 1 日（月）
- (4) 調査方法 : 調査票による本人記入方式。郵送による配布・回収（ハガキによる督促 1 回）

3. 回収結果

回収状況

	配布数	有効回収数	有効回収率
女性	1,000	524	52.4%
男性	1,000	386	38.6%
合計	2,000	937	46.9%

※有効回収数の合計には、性別不詳 27 が含まれている。

表 1 は男女別、年齢階層別の回答数、表 2 は男女別、年齢階層別の抽出数、表 3 は男女別、年齢階層別の母集団数である。

表 2 と表 3 を比較すると、各性・年齢階層においてその構成比にはほぼ大きな差がないことから、母集団に対して偏りのないよう標本が抽出されたことがわかる。

表 1 をみると、全体的に 10 歳代、20 歳代の若年層の構成比が小さく、回答率が低くなっている。また、50 歳代後半から 60 歳代の年齢階層で構成比が大きくなり、回答率が高くなっている。比較検討の際にはこれらの回答数の偏りを考慮する必要がある。

表 1 回答数の性別・年齢構成

	項目	16 歳～ 19 歳	20 歳～ 24 歳	25 歳～ 29 歳	30 歳～ 34 歳	35 歳～ 39 歳	40 歳～ 44 歳	45 歳～ 49 歳	50 歳～ 54 歳
全 体	回答数	21	33	34	63	73	56	55	69
	(%)	2.3	3.6	3.7	6.9	8.0	6.2	6.1	7.6
女 性	回答数	12	16	18	37	48	33	36	51
	(%)	2.3	3.1	3.4	7.1	9.2	6.3	6.9	9.7
男 性	回答数	9	17	16	26	25	23	19	18
	(%)	2.3	4.4	4.1	6.7	6.5	6.0	4.9	4.7

	項目	55 歳～ 59 歳	60 歳～ 64 歳	65 歳～ 69 歳	70 歳～ 75 歳	75 歳～ 79 歳	80 歳以 上	年齢不詳	合計
全 体	回答数	111	130	107	67	57	31	3	910
	(%)	12.2	14.3	11.8	7.4	6.3	3.4	0.3	100.0
女 性	回答数	67	66	59	31	31	19	0	524
	(%)	12.8	12.6	11.3	5.9	5.9	3.6	0.0	100.0
男 性	回答数	44	64	48	36	26	12	3	386
	(%)	11.4	16.6	12.4	9.3	6.7	3.1	0.8	100.0

表 2 抽出数の性別・年齢構成

	項目	16 歳～ 19 歳	20 歳～ 24 歳	25 歳～ 29 歳	30 歳～ 34 歳	35 歳～ 39 歳	40 歳～ 44 歳	45 歳～ 49 歳	50 歳～ 54 歳
全 体	抽出数	83	144	133	199	179	134	124	144
	(%)	4.2	7.2	6.7	10.0	9.0	6.7	6.2	7.2
女 性	抽出数	37	71	64	102	84	61	62	78
	(%)	3.7	7.1	6.4	10.2	8.4	6.1	6.2	7.8
男 性	抽出数	46	73	69	97	95	73	62	66
	(%)	4.6	7.3	6.9	9.7	9.5	7.3	6.2	6.6

	項目	55 歳～ 59 歳	60 歳～ 64 歳	65 歳～ 69 歳	70 歳～ 75 歳	75 歳～ 79 歳	80 歳以 上	合計
全 体	抽出数	199	193	176	117	97	78	2000
	(%)	10.0	9.7	8.8	5.9	4.9	3.9	100.0
女 性	抽出数	102	92	89	54	51	53	1000
	(%)	10.2	9.2	8.9	5.4	5.1	5.3	100.0
男 性	抽出数	97	101	87	63	46	25	1000
	(%)	9.7	10.1	8.7	6.3	4.6	2.5	100.0

表3 母集団の性別・年齢構成
(平成17年4月1日現在)

	項目	16歳～ 19歳	20歳～ 24歳	25歳～ 29歳	30歳～ 34歳	35歳～ 39歳	40歳～ 44歳	45歳～ 49歳	50歳～ 54歳
全体	母集団	6,254	8,930	9,870	13,385	11,849	9,644	8,512	10,183
	(%)	4.5	6.5	7.2	9.7	8.6	7.0	6.2	7.4
女性	母集団	3,055	4,625	5,243	6,885	6,014	4,858	4,478	5,365
	(%)	4.2	6.4	7.3	9.5	8.3	6.7	6.2	7.4
男性	母集団	3,199	4,305	4,627	6,500	5,835	4,786	4,034	4,818
	(%)	4.9	6.6	7.1	10.0	8.9	7.3	6.2	7.4

	項目	55歳～ 59歳	60歳～ 64歳	65歳～ 69歳	70歳～ 74歳	75歳～ 79歳	80歳以上	合計
全体	母集団	13,503	13,385	11,356	8,508	5,858	6,252	137,489
	(%)	9.8	9.7	8.3	6.2	4.3	4.5	100.0
女性	母集団	7,256	7,059	5,717	4,336	3,185	4,198	72,274
	(%)	10.0	9.8	7.9	6.0	4.4	5.8	100.0
男性	母集団	6,247	6,326	5,639	4,172	2,673	2,054	65,215
	(%)	9.6	9.7	8.6	6.4	4.1	3.1	100.0

表4 調査時点の川西市の人口
(平成17年7月1日現在)

全体	総人口	161,116
	(%)	100.0
女性	女性	83,765
	(%)	52.0
男性	男性	77,351
	(%)	48.0

標本誤差

今回の調査は、標本調査であるので、回答者のデータが市民の意識として十分信頼の置けるものであるかどうかをみる。

調査精度として、比率の推定の標本誤差をみるが、信頼度 95%レベルにおいた場合、これは統計学理論から次のように与えられる。

$$E = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P \times (1-P)}{n}}$$

E：標本誤差

N：母集団の大きさ

n：標本の大きさ

P：あるカテゴリについての、母集団での回答率

この式の意味は、求める母集団におけるあるカテゴリ（注目した特性、多くの場合、調査項目と一致）の比率Pが、標本調査で得られた比率pの前後±Eの範囲に入っていると判断して95%間違いないということである。

主要な標本における比率の標本誤差E（信頼度 95%レベル）【5歳階級別】

母集団		P (%)	5.0%	10.0%	15.0%	20.0%	25.0%	30.0%	35.0%	40.0%	45.0%	50.0%
137,489		n数	95.0%	90.0%	85.0%	80.0%	75.0%	70.0%	65.0%	60.0%	55.0%	50.0%
全 体		2000	0.9	1.3	1.6	1.7	1.9	2.0	2.1	2.1	2.2	2.2
性別	女性	524	1.9	2.6	3.1	3.4	3.7	3.9	4.1	4.2	4.3	4.3
	男性	383	2.2	3.0	3.6	4.0	4.3	4.6	4.8	4.9	5.0	5.0
性・年代別	(女性)											
	16歳～19歳	12	12.3	17.0	20.2	22.6	24.5	25.9	27.0	27.7	28.1	28.3
	20歳～24歳	16	10.7	14.7	17.5	19.6	21.2	22.5	23.4	24.0	24.4	24.5
	25歳～29歳	18	10.1	13.9	16.5	18.5	20.0	21.2	22.0	22.6	23.0	23.1
	30歳～34歳	37	7.0	9.7	11.5	12.9	14.0	14.8	15.4	15.8	16.0	16.1
	35歳～39歳	48	6.2	8.5	10.1	11.3	12.2	13.0	13.5	13.9	14.1	14.1
	40歳～44歳	33	7.4	10.2	12.2	13.6	14.8	15.6	16.3	16.7	17.0	17.1
	45歳～49歳	36	7.1	9.8	11.7	13.1	14.1	15.0	15.6	16.0	16.2	16.3
	50歳～54歳	51	6.0	8.2	9.8	11.0	11.9	12.6	13.1	13.4	13.7	13.7
	55歳～59歳	67	5.2	7.2	8.5	9.6	10.4	11.0	11.4	11.7	11.9	12.0
	60歳～64歳	66	5.3	7.2	8.6	9.6	10.4	11.1	11.5	11.8	12.0	12.1
	65歳～69歳	59	5.6	7.7	9.1	10.2	11.0	11.7	12.2	12.5	12.7	12.8
	70歳～75歳	31	7.7	10.6	12.6	14.1	15.2	16.1	16.8	17.2	17.5	17.6
	75歳～79歳	31	7.7	10.6	12.6	14.1	15.2	16.1	16.8	17.2	17.5	17.6
	80歳以上	19	9.8	13.5	16.1	18.0	19.5	20.6	21.4	22.0	22.4	22.5

主要な標本における比率の標本誤差 E（信頼度 95%レベル）【5 歳階級別】

母集団		P (%)	5.0%	10.0%	15.0%	20.0%	25.0%	30.0%	35.0%	40.0%	45.0%	50.0%
		n 数	95.0%	90.0%	85.0%	80.0%	75.0%	70.0%	65.0%	60.0%	55.0%	50.0%
性・年代別	(男性)											
	16 歳～19 歳	9	14.2	19.6	23.3	26.1	28.3	29.9	31.2	32.0	32.5	32.7
	20 歳～24 歳	17	10.4	14.3	17.0	19.0	20.6	21.8	22.7	23.3	23.6	23.8
	25 歳～29 歳	16	10.7	14.7	17.5	19.6	21.2	22.5	23.4	24.0	24.4	24.5
	30 歳～34 歳	26	8.4	11.5	13.7	15.4	16.6	17.6	18.3	18.8	19.1	19.2
	35 歳～39 歳	25	8.5	11.8	14.0	15.7	17.0	18.0	18.7	19.2	19.5	19.6
	40 歳～44 歳	23	8.9	12.3	14.6	16.3	17.7	18.7	19.5	20.0	20.3	20.4
	45 歳～49 歳	19	9.8	13.5	16.1	18.0	19.5	20.6	21.4	22.0	22.4	22.5
	50 歳～54 歳	18	10.1	13.9	16.5	18.5	20.0	21.2	22.0	22.6	23.0	23.1
	55 歳～59 歳	44	6.4	8.9	10.5	11.8	12.8	13.5	14.1	14.5	14.7	14.8
	60 歳～64 歳	64	5.3	7.3	8.7	9.8	10.6	11.2	11.7	12.0	12.2	12.2
	65 歳～69 歳	48	6.2	8.5	10.1	11.3	12.2	13.0	13.5	13.9	14.1	14.1
	70 歳～75 歳	36	7.1	9.8	11.7	13.1	14.1	15.0	15.6	16.0	16.2	16.3
	75 歳～79 歳	26	8.4	11.5	13.7	15.4	16.6	17.6	18.3	18.8	19.1	19.2
	80 歳以上	12	12.3	17.0	20.2	22.6	24.5	25.9	27.0	27.7	28.1	28.3

参考：主要な標本における比率の標本誤差 E（信頼度 95%レベル）【10 歳階級別】

母集団		P (%)	5.0%	10.0%	15.0%	20.0%	25.0%	30.0%	35.0%	40.0%	45.0%	50.0%
137,489		n 数	95.0%	90.0%	85.0%	80.0%	75.0%	70.0%	65.0%	60.0%	55.0%	50.0%
全 体		2000	0.9	1.3	1.6	1.7	1.9	2.0	2.1	2.1	2.2	2.2
性 別	女性	524	1.9	2.6	3.1	3.4	3.7	3.9	4.1	4.2	4.3	4.3
	男性	383	2.2	3.0	3.6	4.0	4.3	4.6	4.8	4.9	5.0	5.0
性・年代別	(女性)											
	10 歳代	12	12.3	17.0	20.2	22.6	24.5	25.9	27.0	27.7	28.1	28.3
	20 歳代	34	7.3	10.1	12.0	13.4	14.6	15.4	16.0	16.5	16.7	16.8
	30 歳代	85	4.6	6.4	7.6	8.5	9.2	9.7	10.1	10.4	10.6	10.6
	40 歳代	69	5.1	7.1	8.4	9.4	10.2	10.8	11.3	11.6	11.7	11.8
	50 歳代	118	3.9	5.4	6.4	7.2	7.8	8.3	8.6	8.8	9.0	9.0
	60 歳代	125	3.8	5.3	6.3	7.0	7.6	8.0	8.4	8.6	8.7	8.8
	70 歳代	62	5.4	7.5	8.9	10.0	10.8	11.4	11.9	12.2	12.4	12.4
	80 歳代以上	19	9.8	13.5	16.1	18.0	19.5	20.6	21.4	22.0	22.4	22.5
	(男性)											
	10 歳代	9	14.2	19.6	23.3	26.1	28.3	29.9	31.2	32.0	32.5	32.7
	20 歳代	33	7.4	10.2	12.2	13.6	14.8	15.6	16.3	16.7	17.0	17.1
	30 歳代	51	6.0	8.2	9.8	11.0	11.9	12.6	13.1	13.4	13.7	13.7
	40 歳代	42	6.6	9.1	10.8	12.1	13.1	13.9	14.4	14.8	15.0	15.1
	50 歳代	62	5.4	7.5	8.9	10.0	10.8	11.4	11.9	12.2	12.4	12.4
	60 歳代	112	4.0	5.6	6.6	7.4	8.0	8.5	8.8	9.1	9.2	9.3
	70 歳代	62	5.4	7.5	8.9	10.0	10.8	11.4	11.9	12.2	12.4	12.4
	80 歳代以上	12	12.3	17.0	20.2	22.6	24.5	25.9	27.0	27.7	28.1	28.3

4. 報告書の見方

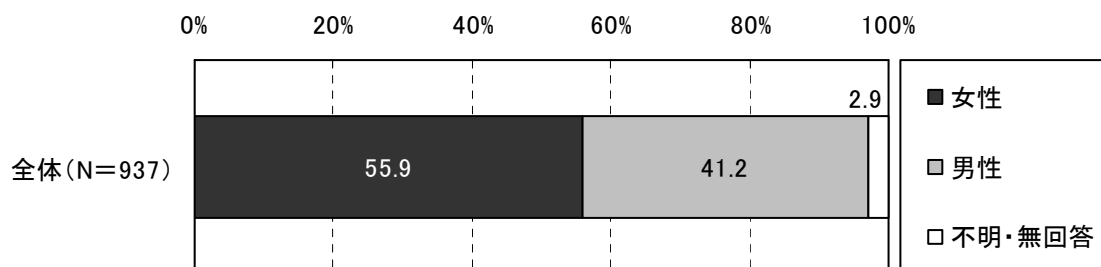
- (1) 集計結果はすべて小数点以下第2位を四捨五入しており、比率の合計が100%にならないことがある。
- (2) 複数回答の設問の場合、集計結果の合計が100%を超える。
- (3) グラフ及び表のサンプル数(N数)は、有効標本数(集計対象者総数)を表している。
- (4) 年齢別のクロス集計の場合、男性については合計値に年齢不詳分を含んでいる。

Ⅱ. アンケート結果

1. 回答者の属性

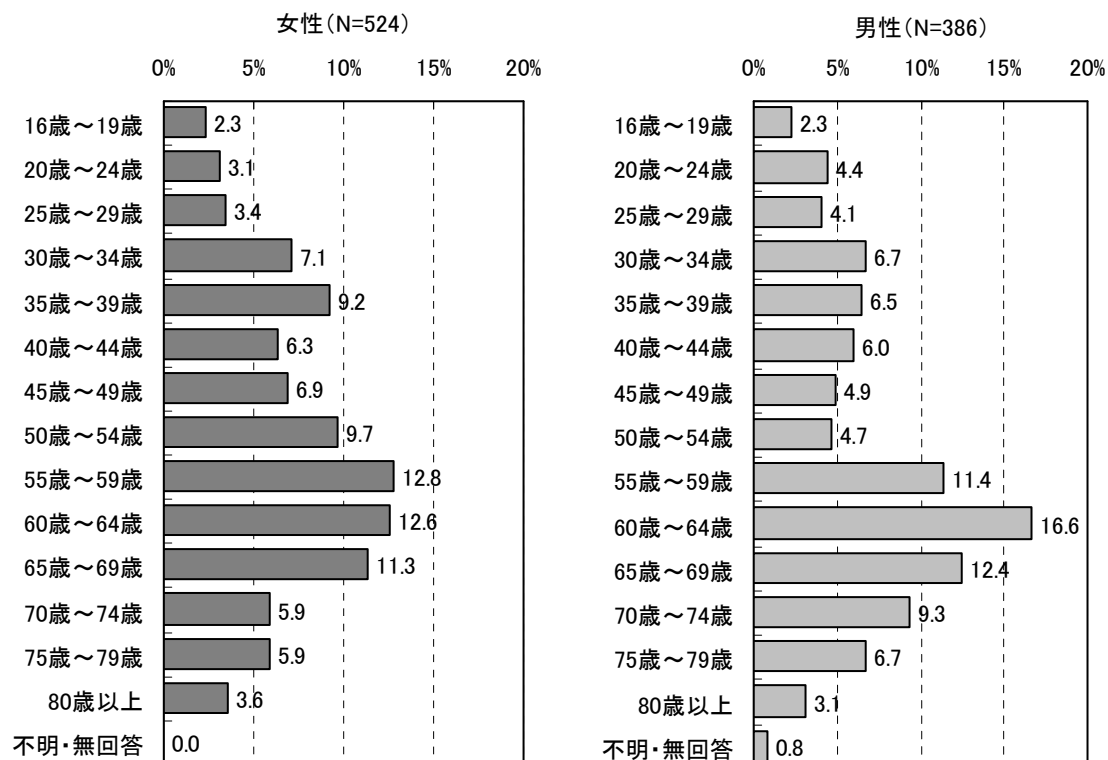
(1) 性別構成

◆あなたの性別は。(自認する性でもけっこうです)(単数回答)



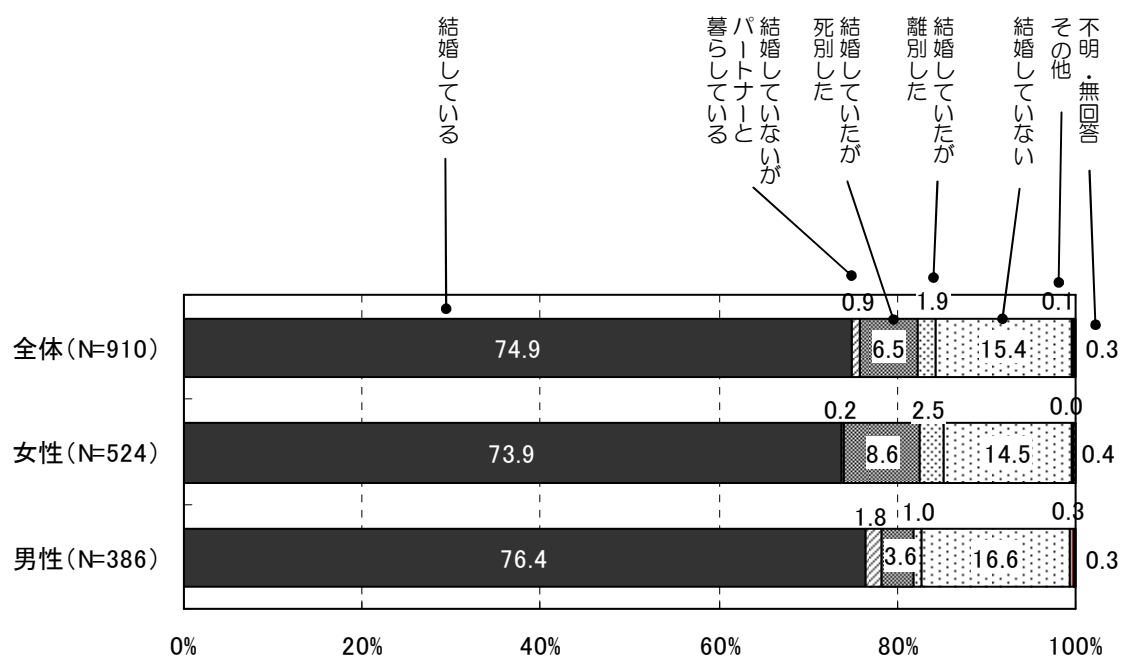
(2) 年齢構成

◆あなたのお年は満何歳ですか。(単数回答)



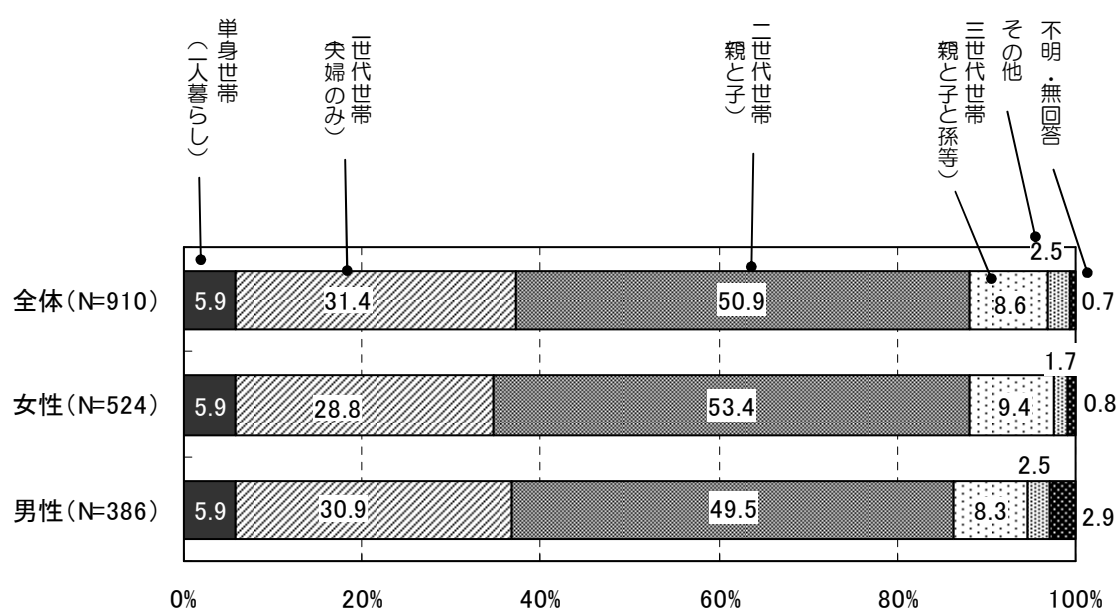
(3) 結婚

◆あなたは結婚していらっしゃいますか。(単数回答)



(4) 家族構成

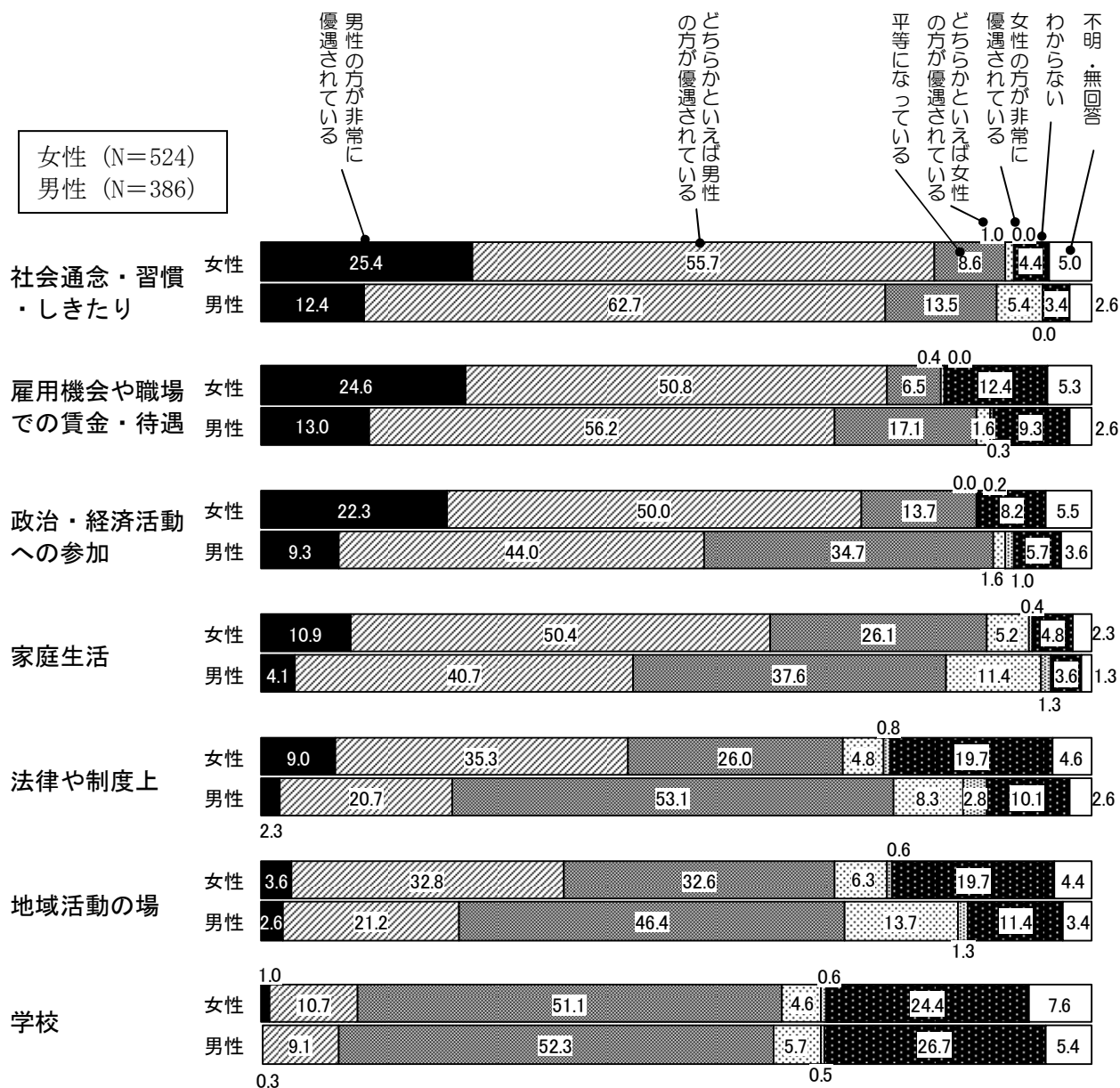
◆あなたが同居している家族の構成は。(単数回答)



2. 男女の地位について

(1) 男女の地位の平等感

問1 以下のような面で、男女の地位が平等になっていると思いますか。(単数回答)

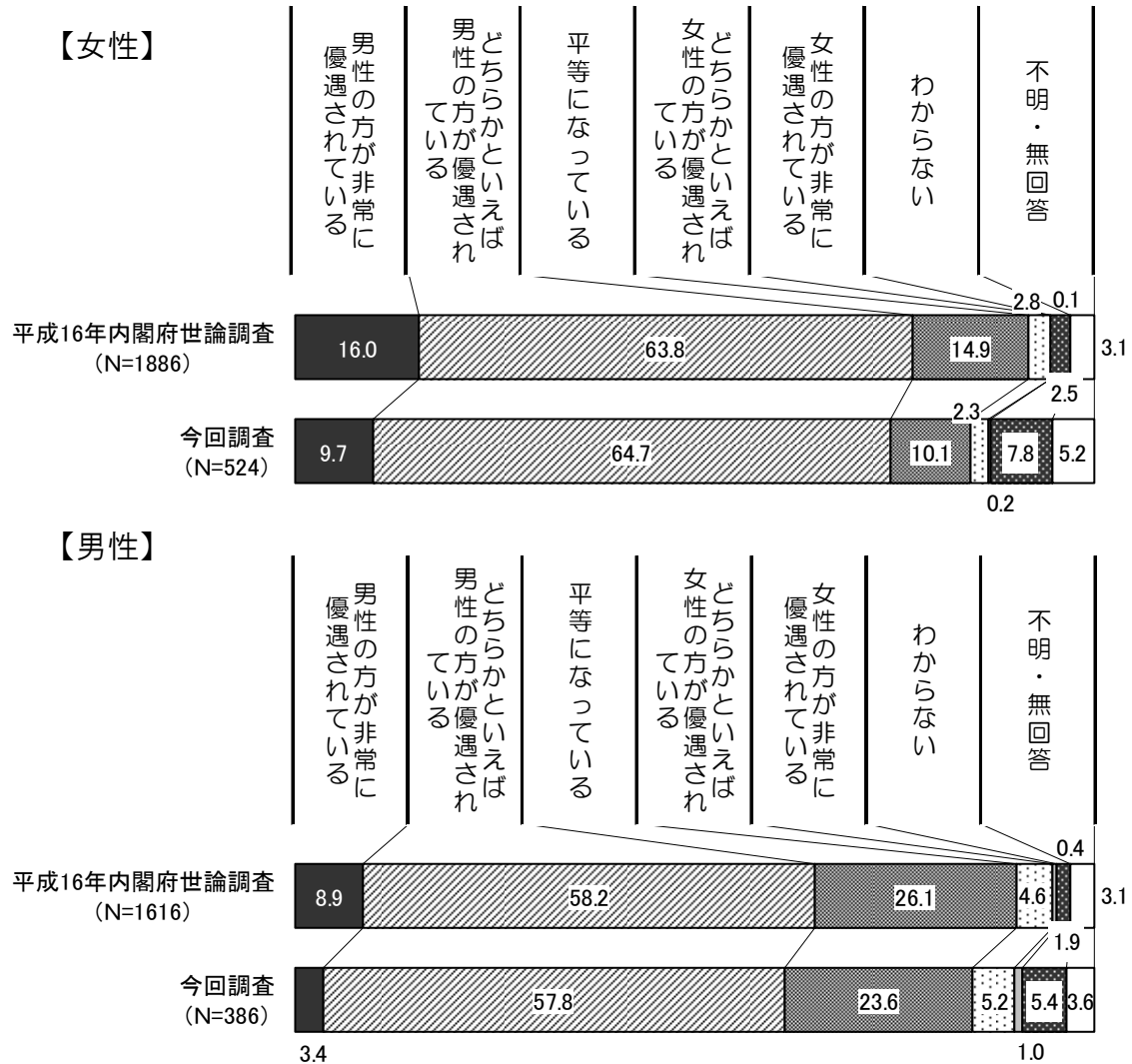


●どの分野においても不平等感は女性の方が多い

男女の地位の平等感についてたずねたところ、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた、「男性の方が優遇されている」と回答した割合は、女性・男性ともに『社会通念・習慣・しきたり』で最も多く、女性が81.1%、男性が75.1%であり、どの分野においても、男性より女性の方が多くなっている。

内閣府世論調査との比較

社会全体における男女の地位の平等感について

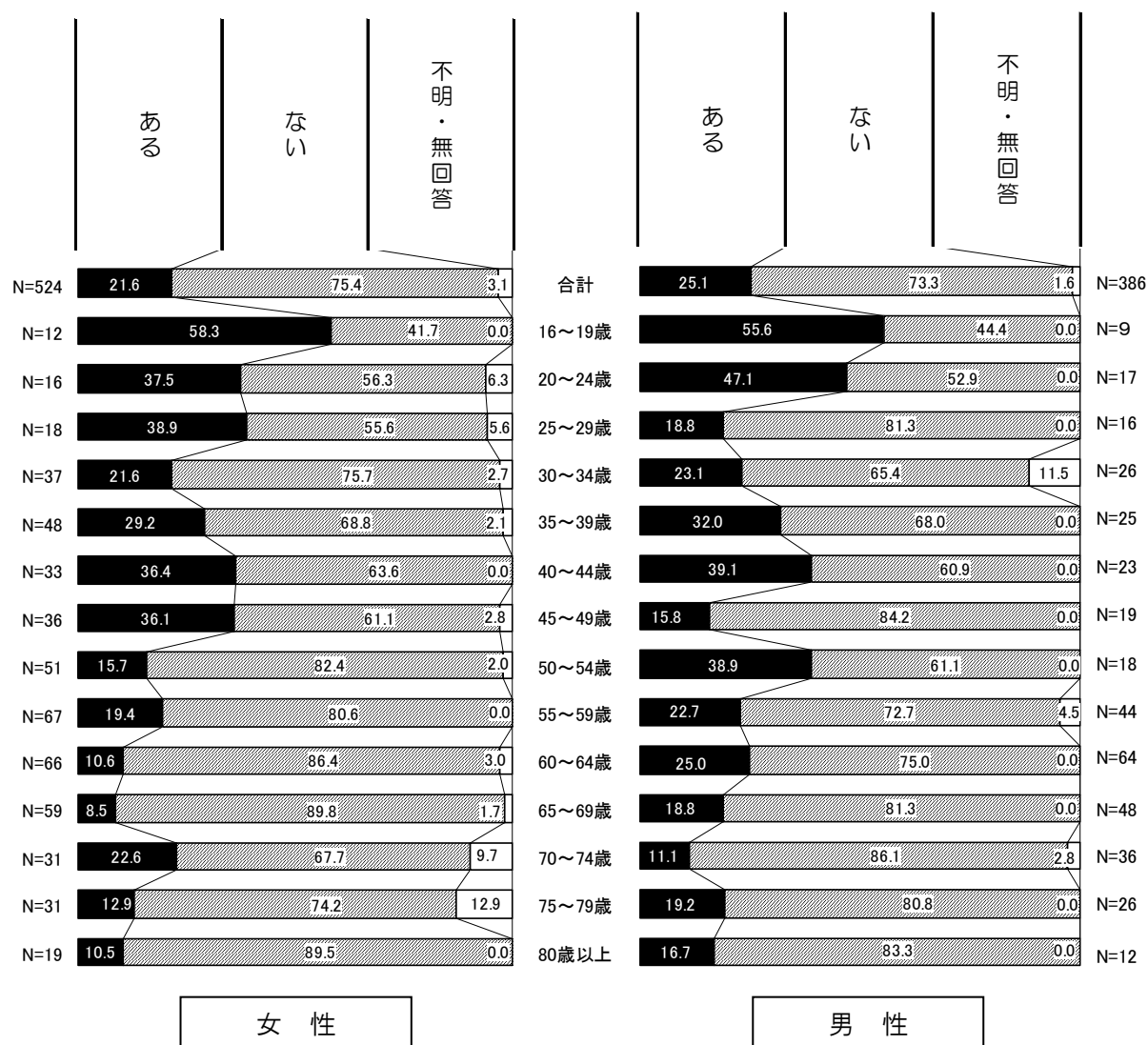


平成16年11月に内閣府が行った「男女共同参画社会に関する世論調査」（以後内閣府世論調査という。）と今回の調査を比較すると、「社会全体における男女の地位の平等感について」では、今回調査の女性は内閣府世論調査と比べて、「男性の方が非常に優遇されている」が6.3ポイント少なく、「平等」も4.8ポイント少なくなっている。

男性は、「男性の方が非常に優遇されている」が5.5ポイント少なく、「平等」も2.5ポイント少なくなっている。

今回調査では、社会全体における「平等」意識は、女性では10.1%で、男性では23.6%であり、女性の方が13.5ポイント少なく、男性が女性の2倍以上となっている。また、内閣府世論調査においても同様の傾向が見られ、女性は14.9%、男性は26.1%と、女性の方が11.2ポイント少なくなっている。

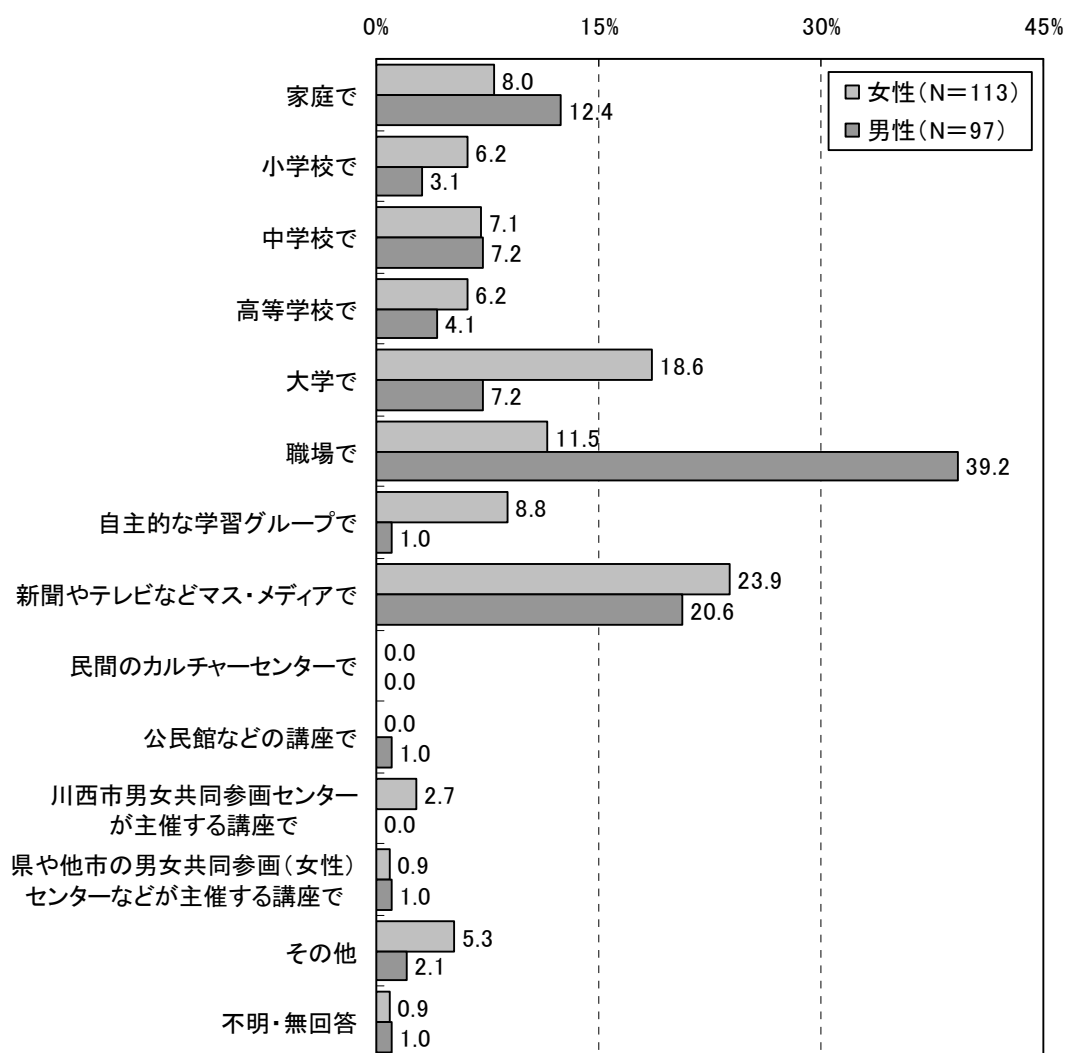
問2 あなたは、ジェンダー問題や男女共同参画ということがどういうものなのかということを、学んだり、教えられたりしたことがありますか（単数回答）



●「学んだり、教えられたりしたことがある」は若年層に多い

社会的性別を意味するジェンダーの問題や男女共同参画について学んだり、教えられたりしたことがあるかについてたずねたところ、「ある」との回答は女性・男性ともに年齢階層が上がるにつれ少なくなっており、若年層で「学んだり、教えられたりしたこと」が多い。合計では、男性が25.1%、女性が21.6%と、男性の方が「ある」との回答が多くなっている。

問3 問2で「ある」と答えた方だけに質問します。それはどこですか。（複数回答）



●自治体等が行っている講座での学びは男女とも非常に少ない

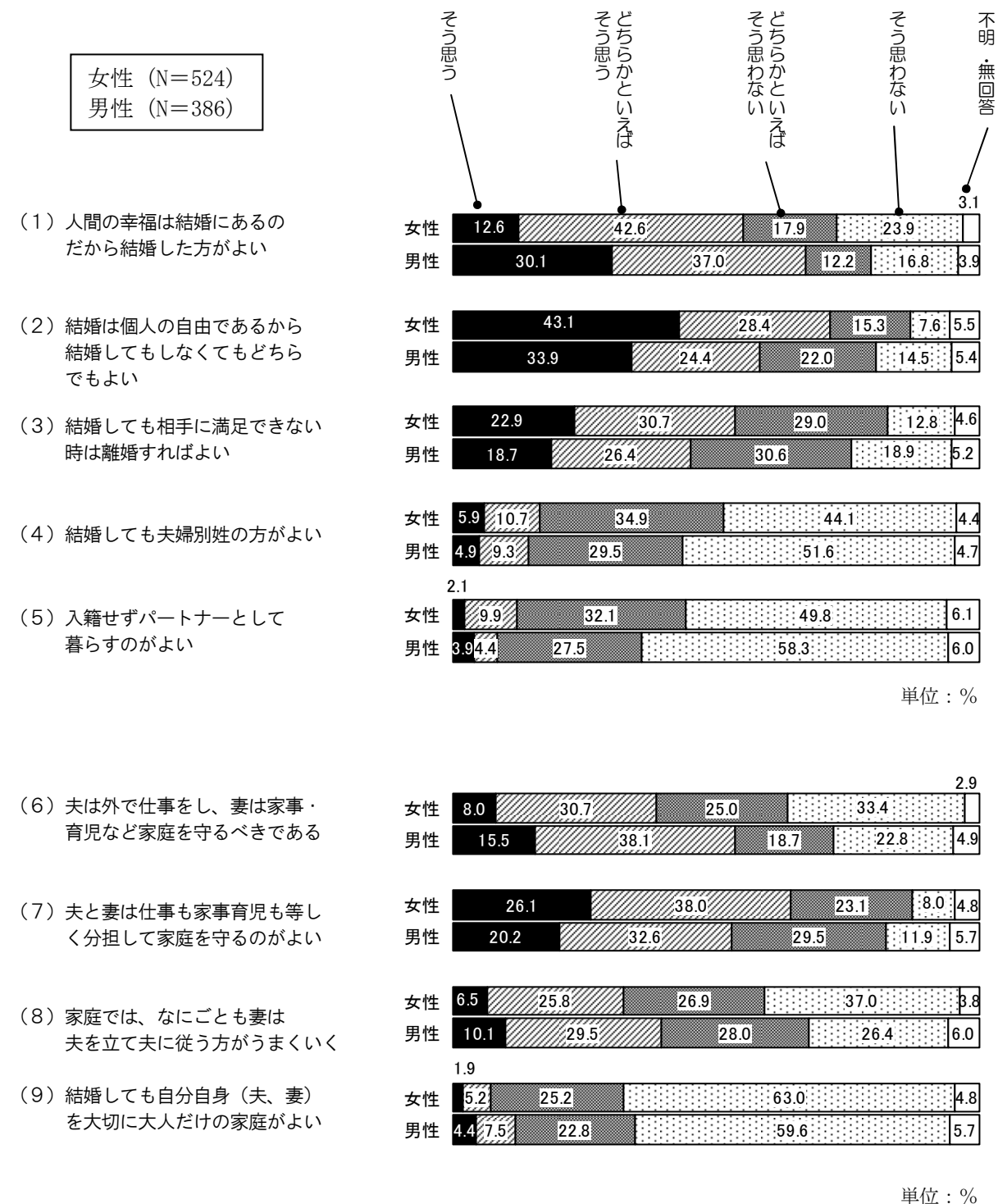
ジェンダーや男女共同参画について学んだり、教えられたりした場所については、男性では、「職場」が最も多く、39.2%であり、女性では「新聞やテレビなどマス・メディアで」が最も多く、23.9%となっている。

また、「公民館などの講座で」の学びは女性では0.0%、男性では1.0%、「川西市男女共同参画センターが主催する講座で」での学びは女性では2.7%、男性では0.0%と非常に少なくなっている。

3. 結婚と家庭生活について

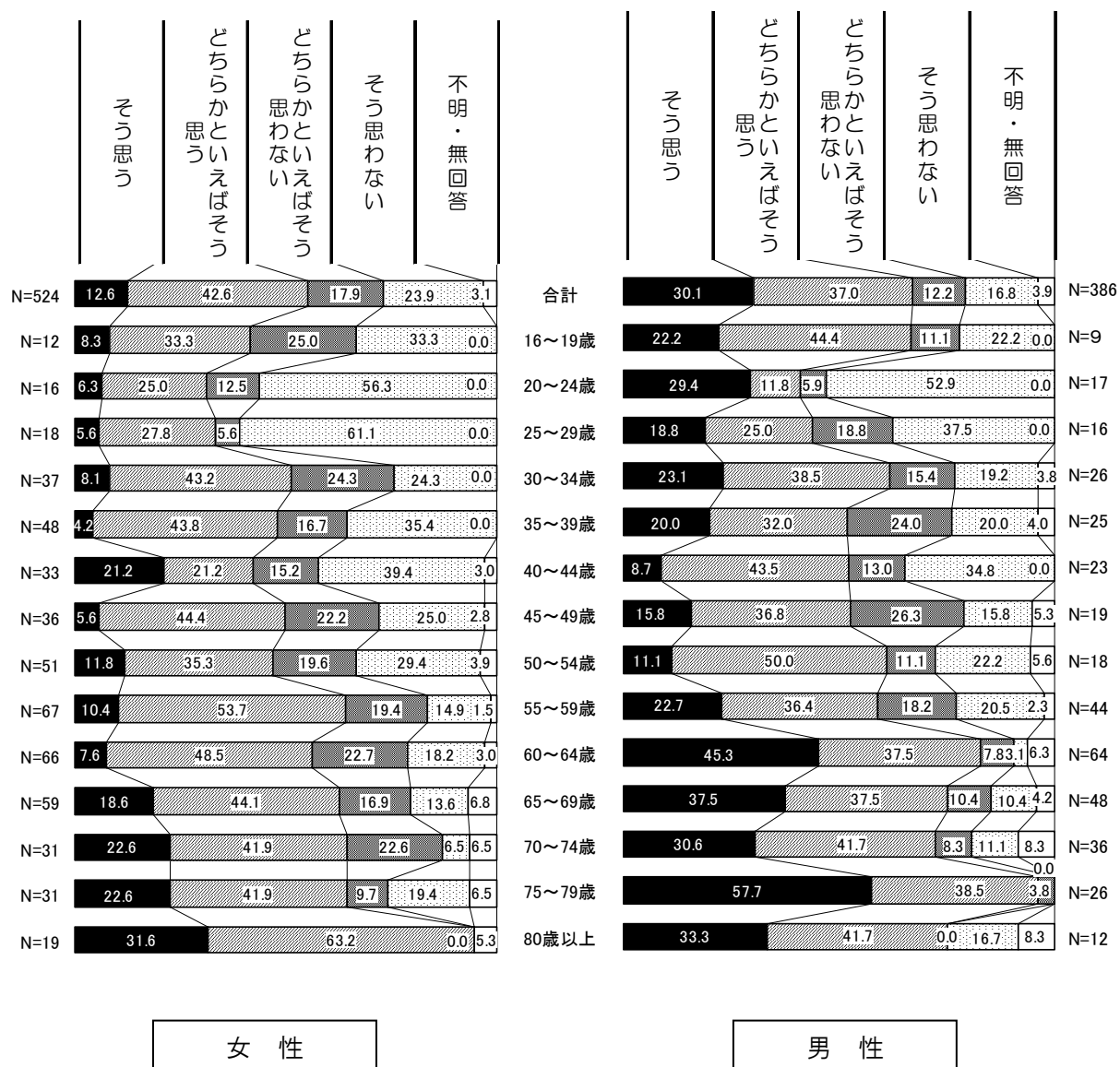
(1) 結婚・離婚・家庭についての意識（全体）

問4 あなたは結婚・離婚・家庭についてどう思いますか。（単数回答）



(2) 結婚・離婚についての意識（年齢階層別）

問4（1） 「人間の幸福は結婚にあるのだからした方がよい」という考えについてどう思いますか。（単数回答）

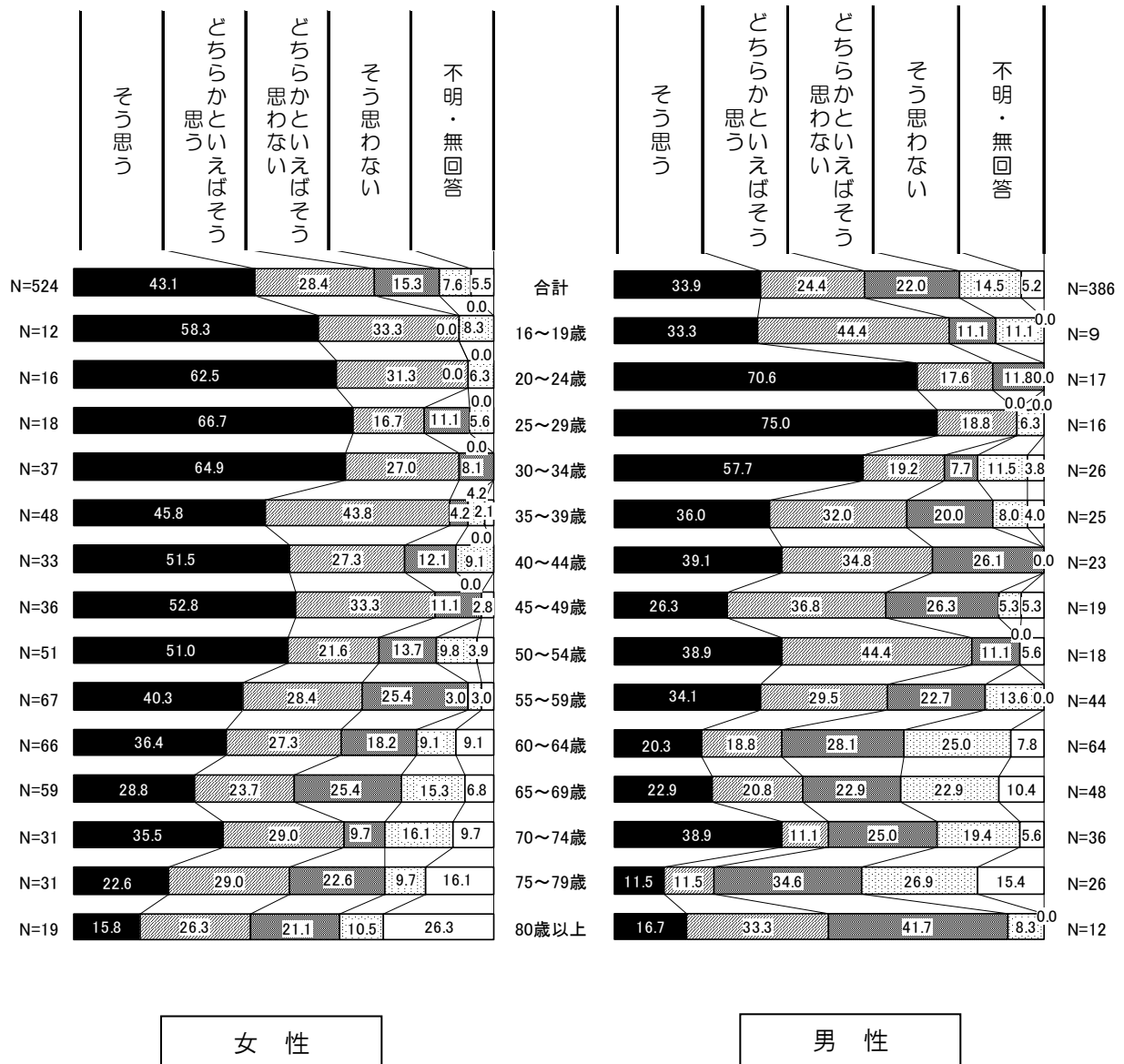


●肯定的な意見は年齢階層が上がるにつれ増えている

「人間の幸福は結婚にあるのだからした方がよい」という考えについて、女性、男性ともに肯定的な意見は年齢が上がるにつれ増えており、特に男性でその傾向が顕著になっている。

また、反対に否定的な意見は20歳～24歳の女性では68.8%、男性では58.8%、25歳～29歳の女性では66.7%、男性では56.3%と20歳代で多くなっている。

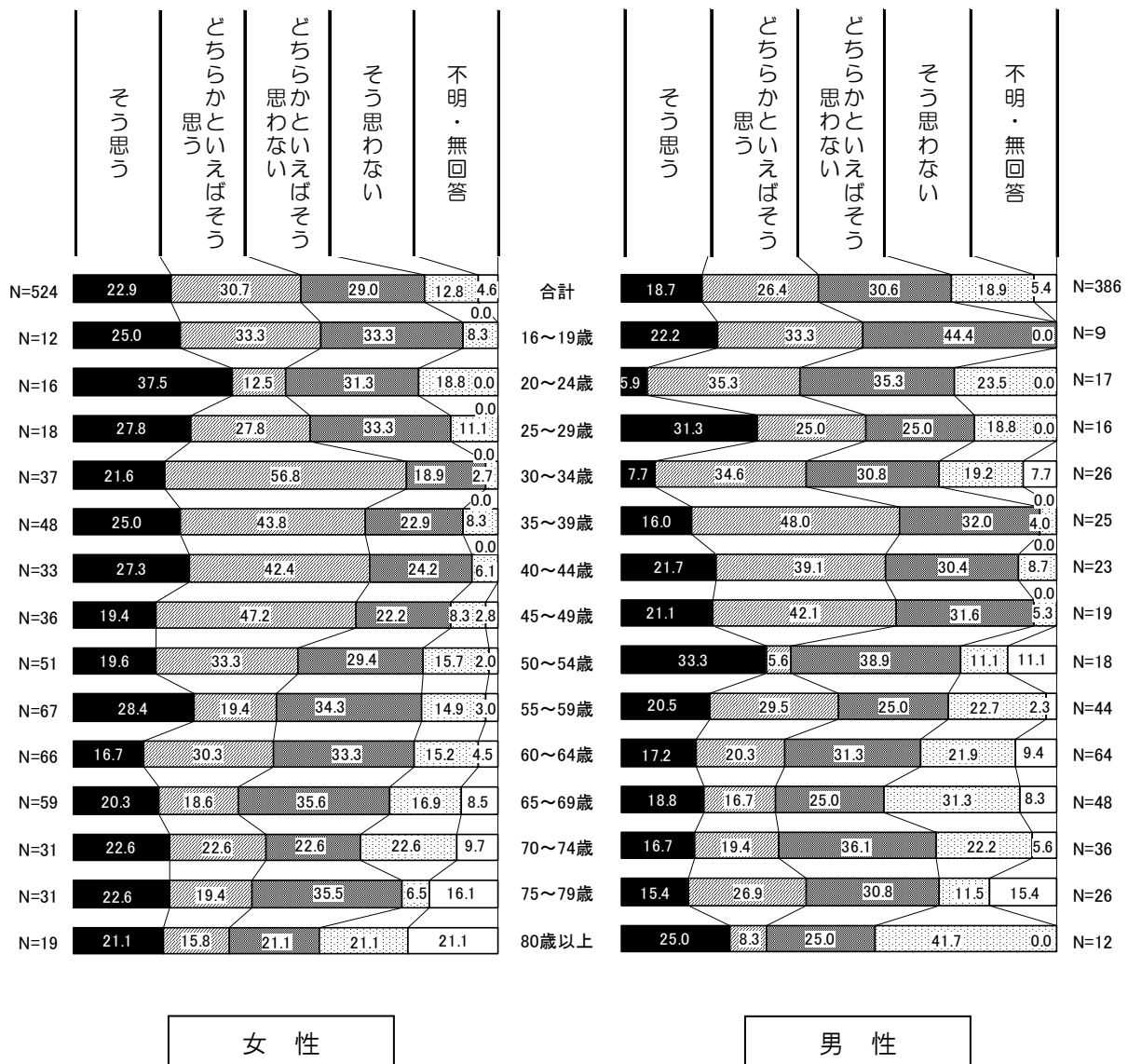
問4（2） 「結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい」という考えについてどう思いますか。（単数回答）



●肯定的な意見は女性の方が多い

「結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい」という考えについて、女性、男性ともに肯定的な意見は20歳代～30歳代前半で多くなっている。全体では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた、肯定的な意見は、女性で71.5%、男性で58.3%と、女性の方が多くなっている。

問4（3） 「結婚しても相手に満足できない時は離婚すればよい」という考えについてどう思いますか。（単数回答）



● 肯定的な意見は、男女ともに 30 歳代後半から 40 歳代で 6 割を超えている

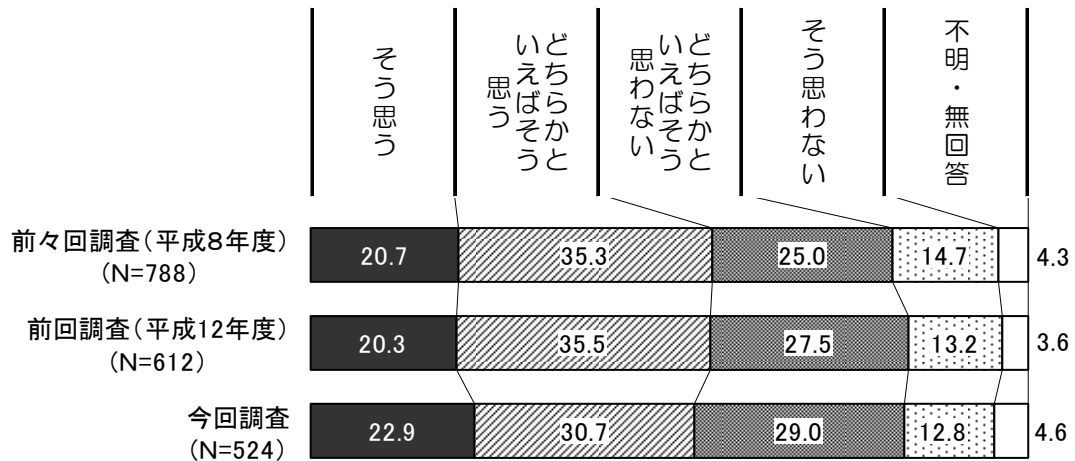
「結婚しても相手に満足できない時は離婚すればよい」という考えについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な意見は、女性で 53.6%、男性で 45.1%と、女性の方が多くなっている。

女性では 30 歳代から 40 歳代に、男性では 30 歳代後半から 40 歳代に肯定的な意見が 60%を超えている。

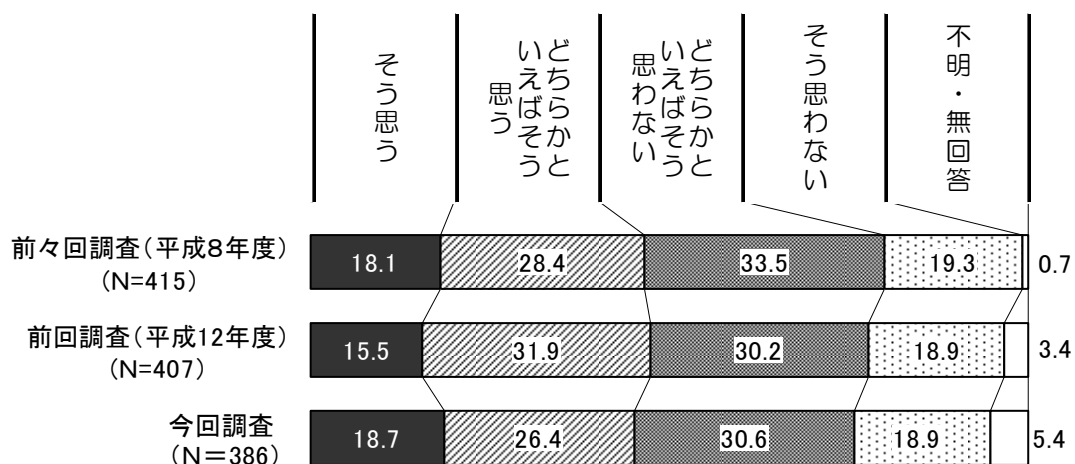
前々回（平成8年度）調査、前回（平成12年度）調査との比較

「結婚しても相手に満足できない時は離婚すればよい」という考えについて

【女性】



【男性】

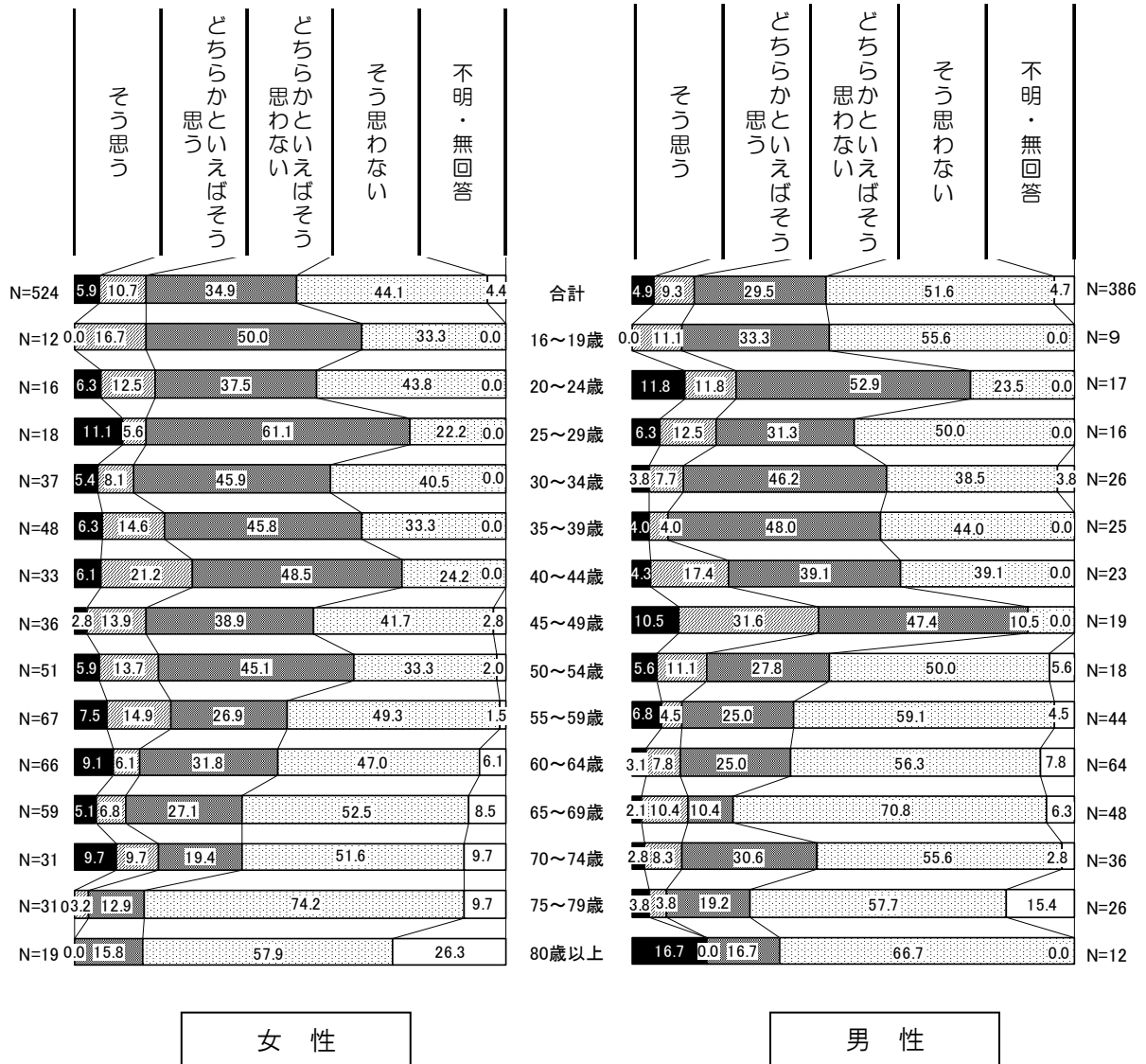


●離婚に対する意識は、男女ともに大きな変化は見られない

女性では、「そう思う」が前々回（平成8年度）20.7%、今回 22.9%と今回 2.2 ポイント増加しており、「そう思わない」が前々回（平成8年度）14.7%、今回 12.8%と今回 1.9 ポイント減少している。男性では「そう思う」は前々回（平成8年度）18.1%、前回（平成12年度）15.5%、今回 18.7%と、前回 2.6 ポイント減少したが、今回 3.2 ポイント増加し、「そう思わない」はほとんど横ばい状態である。

また、全体的に大きな意識の変化は見られない。

問4(4) 「結婚しても夫婦別姓の方がよい」という考えについてどう思いますか。
(単数回答)

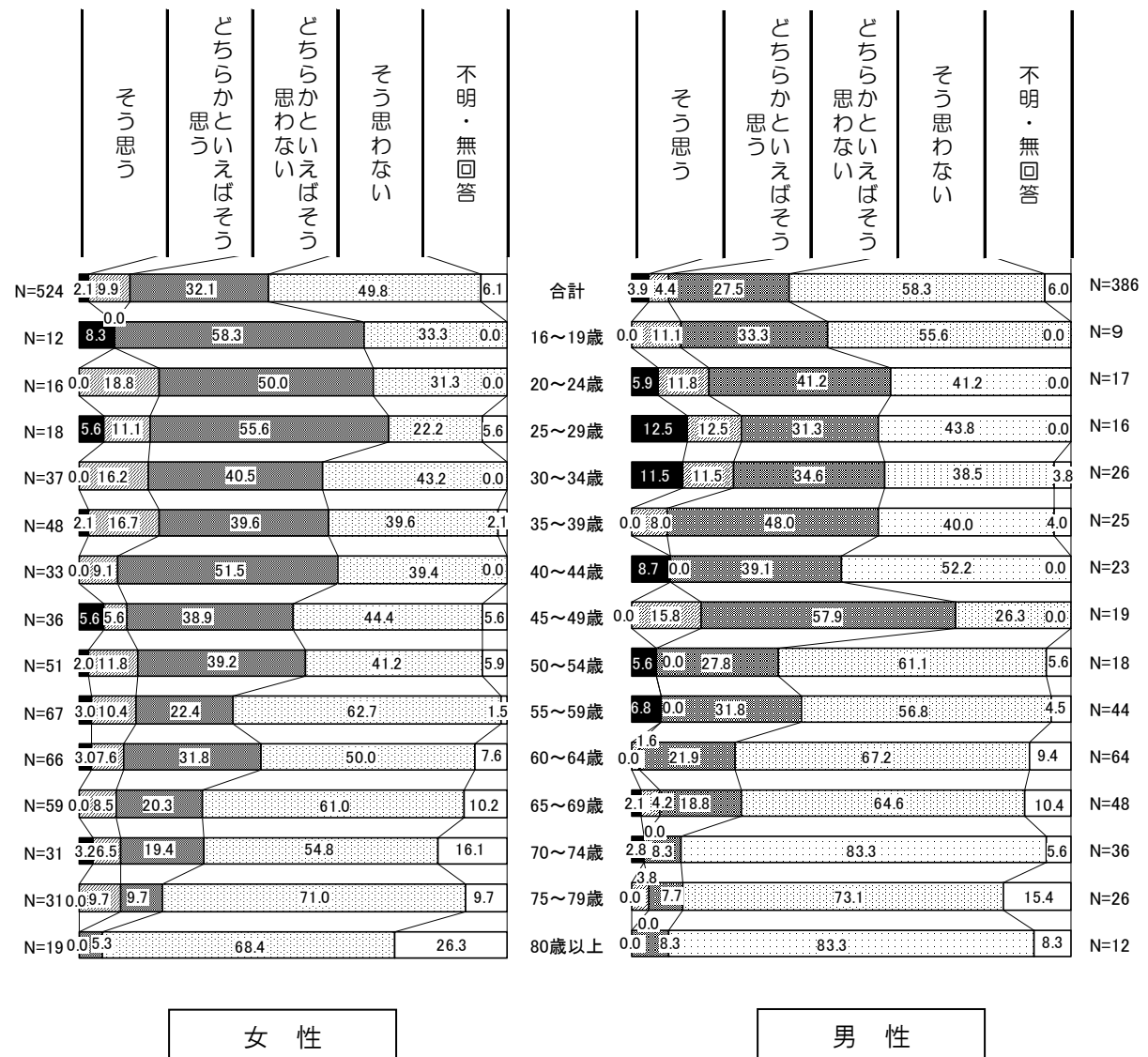


●否定的な意見は、女性で8割近く、男性で8割を超えている

「結婚しても夫婦別姓の方がよい」という考えについて、女性・男性ともに「そう思わない」が最も多く、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合は、女性で79.0%、男性で81.1%となっている。

また、40歳代後半の男性のみで「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせた肯定的な意見が4割を超えているが、それ以外では、性別・年齢階層別に大きな差異はなく、否定的な意見が多数を占めている。

問4（5） 「入籍せずパートナーとして暮らすのがよい」という考えについてどう
 思いますか。（単数回答）

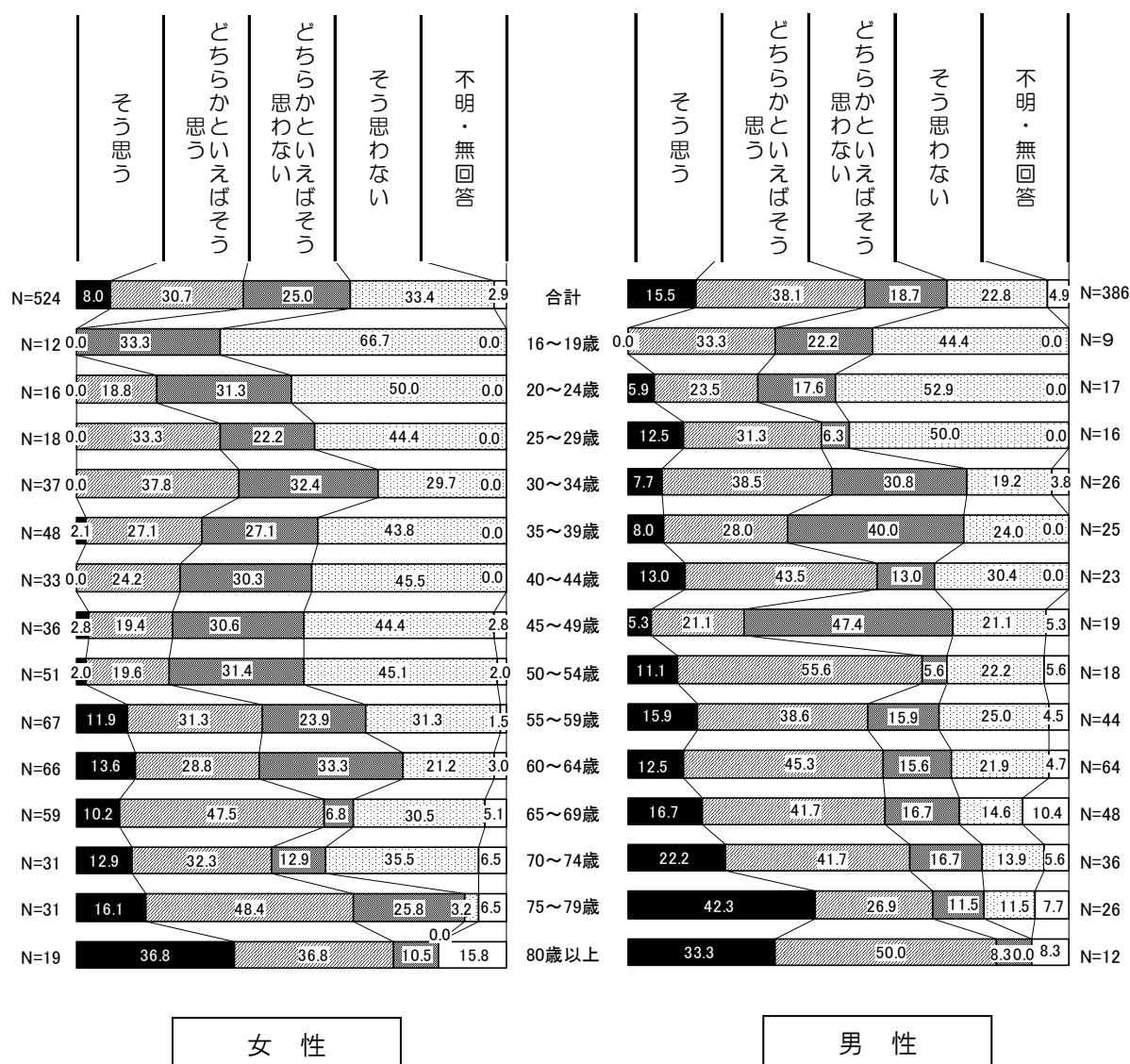


●「そう思わない」が女性では5割近く、男性では6割近くになっている

「入籍せずパートナーとして暮らすのがよい」という考えについて、女性・男性ともに「そう思わない」が最も多く、女性では49.8%、男性では58.3%となっている。女性・男性いずれの年齢層においても、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合は、7～8割以上と高くなっている。

(3) 家庭についての意識（年齢階層別）

問4（6） 「夫は外で仕事をし、妻は家事・育児など家庭を守るべきである」という考えについてどう思いますか。（単数回答）



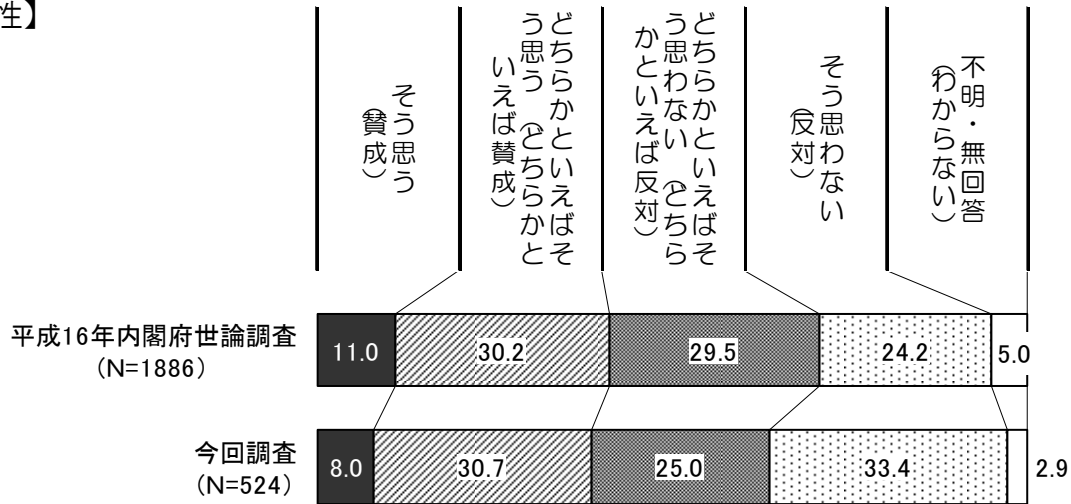
●女性の6割近く、男性の約4割が否定的

「夫は外で仕事をし、妻は家事・育児など家庭を守るべきである」という考えについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な意見は、女性で38.7%であるのに対し、男性では53.6%と半数を超えている。「どちらかといえばそう思わない」と「思わない」を合わせた割合は、女性で58.4%、男性で41.5%となっている。また、女性、男性ともに年齢階層があがるにつれて肯定的な意見が増えている。

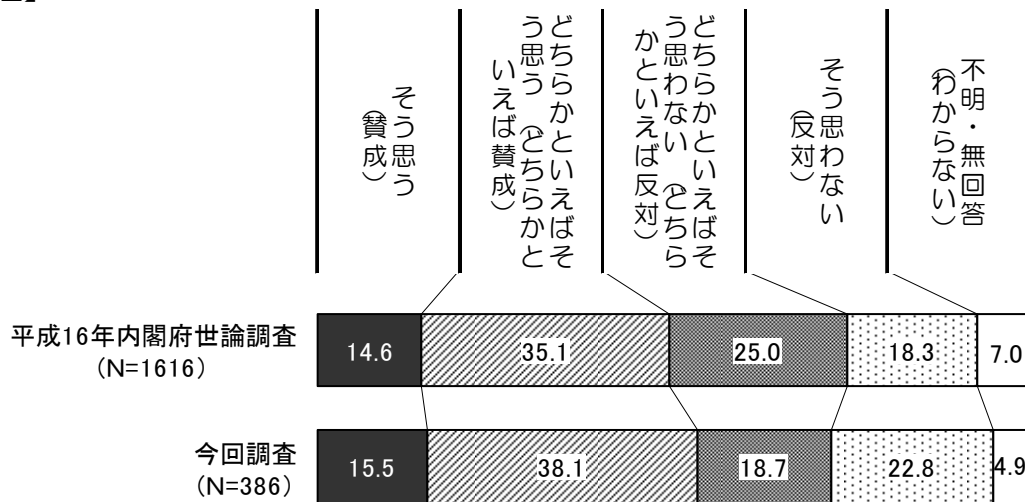
内閣府世論調査との比較

「夫は外で仕事をし、妻は家事・育児など家庭を守るべきである」という考えについて

【女性】



【男性】



※内閣府世論調査と今回調査では選択肢の表現が異なっている。(選択肢の()内は内閣府世論調査の表現。)

●内閣府世論調査では、女性の5割以上、男性の4割以上が否定的な意見

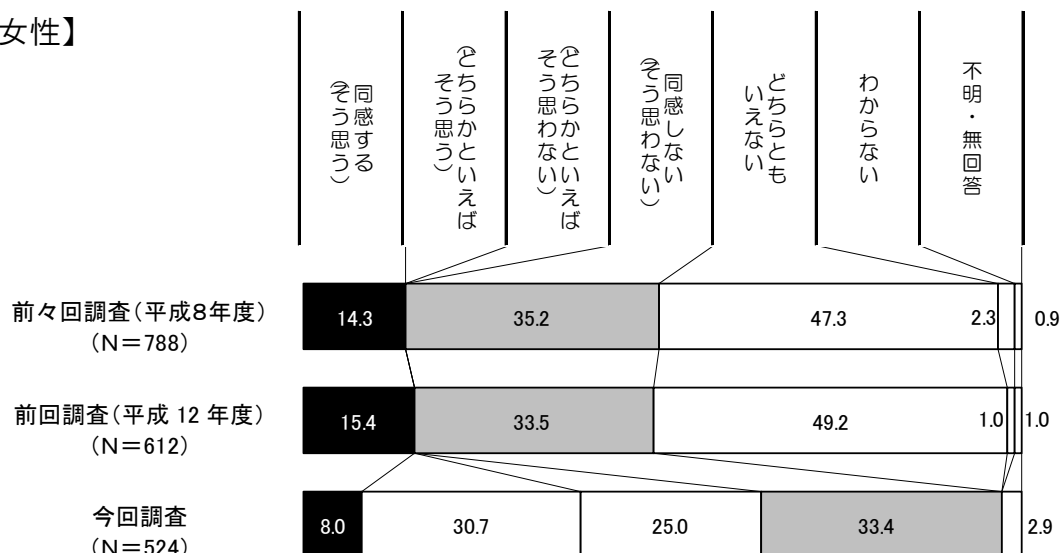
固定的性別役割分担意識について、平成16年11月に行われた内閣府世論調査と今回調査を比較すると「そう思う(賛成)」と「どちらかといえばそう思う(どちらかといえば賛成)」を合わせた肯定的な意見は、女性では41.2%と38.7%で今回調査が2.5ポイント少なく、「そう思わない(反対)」「どちらかといえばそう思う(どちらかといえば反対)」を合わせた否定的な意見は53.7%と58.4%で今回調査が4.7ポイント多い。

男性では、肯定的な意見が49.7%と53.6%と今回調査が3.9ポイント多く、否定的な意見は43.3%と41.5%で今回調査が1.8ポイント少なくなっている。内閣府世論調査においても、否定的な意見は女性で5割以上、男性で4割以上となっており、今回調査も同様の傾向が見られる。

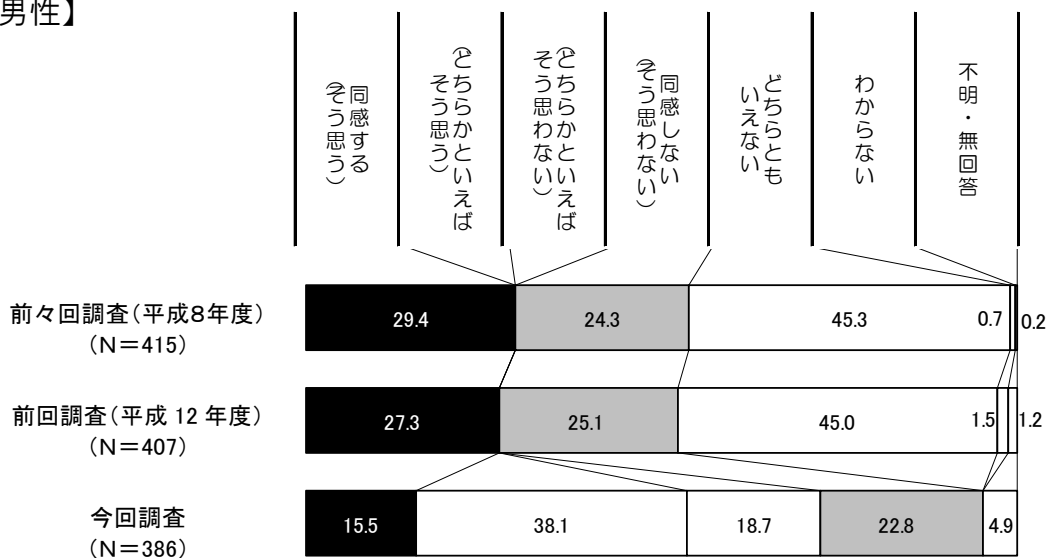
前々回（平成8年度）調査、前回（平成12年度）調査との比較＜参考＞

「男は仕事、女は家庭」という考え方について同感するか

【女性】

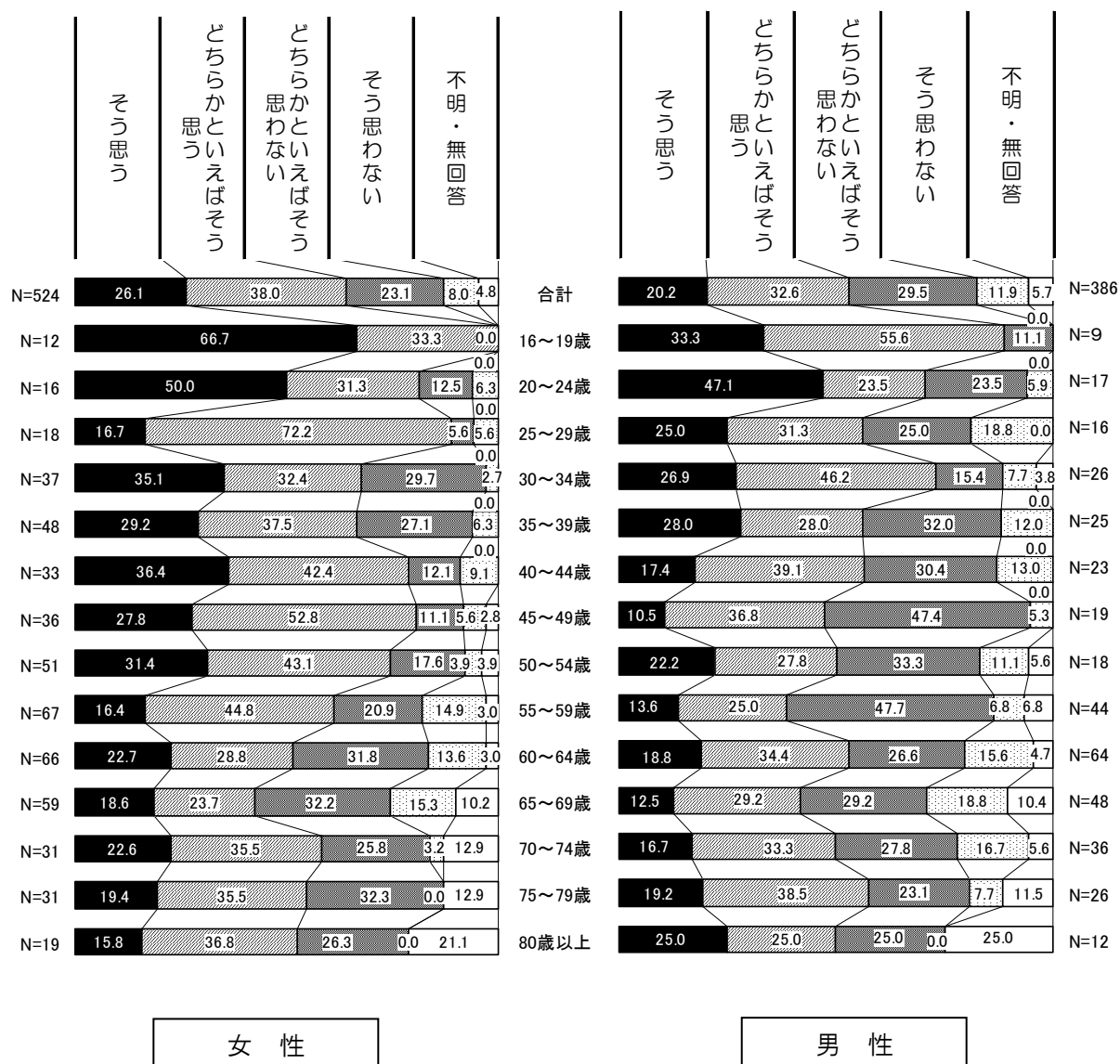


【男性】



※「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」の選択肢は今回調査のみ、「どちらともいえない」「わからない」の選択肢は前々回・前回調査のみとなっており、選択肢が異なっている。(選択肢の()内は今回調査の表現。)

問 4（7） 「夫と妻は仕事も家事育児も等しく分担して家庭を守るのがよい」という考えについてどう思いますか。（単数回答）

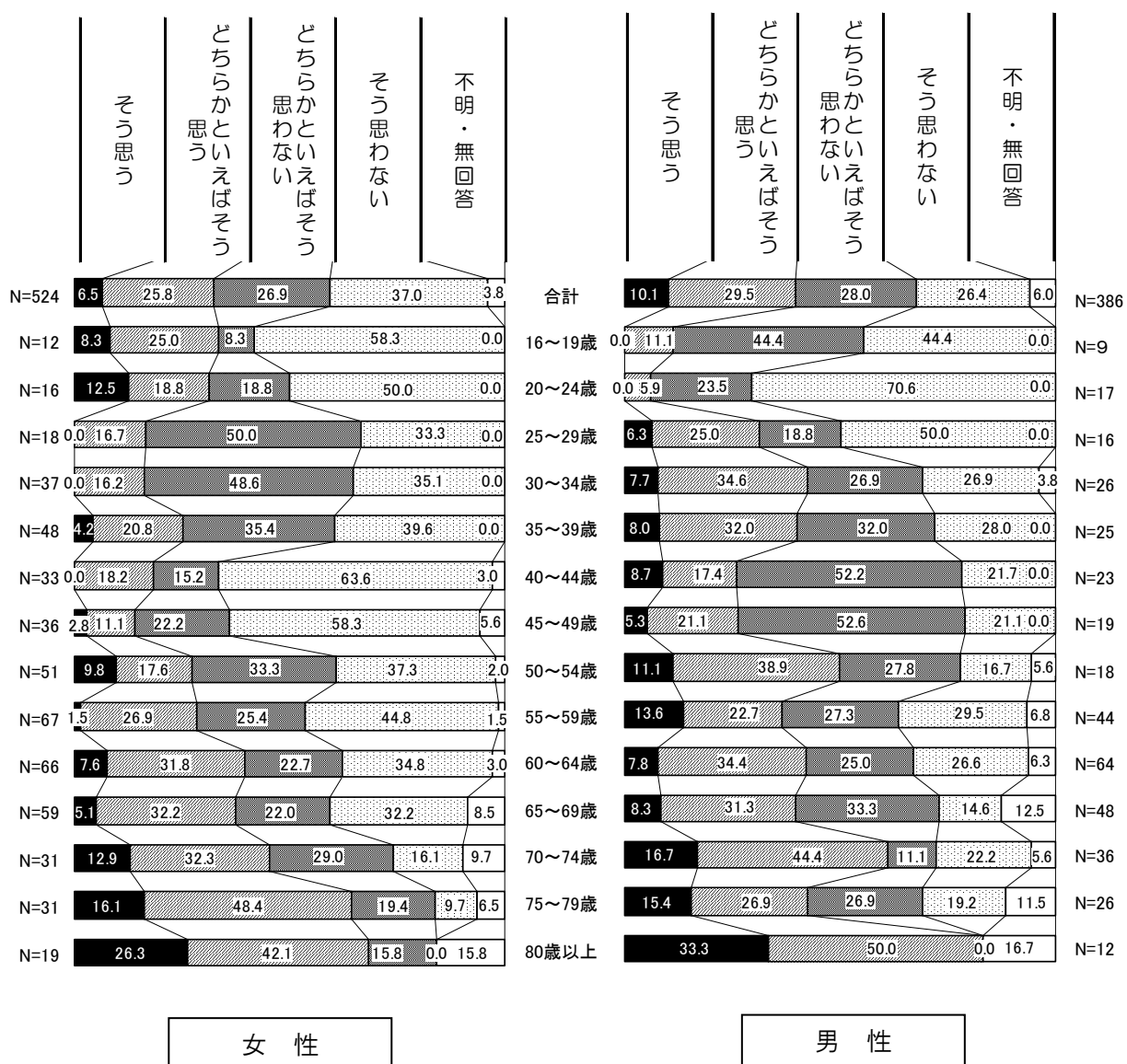


●肯定的な意見は女性が6割、男性が5割を超えている

「夫と妻は仕事も家事育児も等しく分担して家庭を守るのがよい」という考えについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な意見は、女性で 64.1%、男性では 52.8%となっており、ともに半数を超えている。

年齢階層別に見ると、肯定的な意見の割合は、30 歳代前半で男性が女性を上回っている。それ以外では、女性の方が男性を上回っているが、60 歳代以降では、女性と男性に大きな差異は見られない。

問４（８） 「家庭では、なにごととも妻は夫を立て夫に従う方がうまくいく」という考えについてどう思いますか。（単数回答）

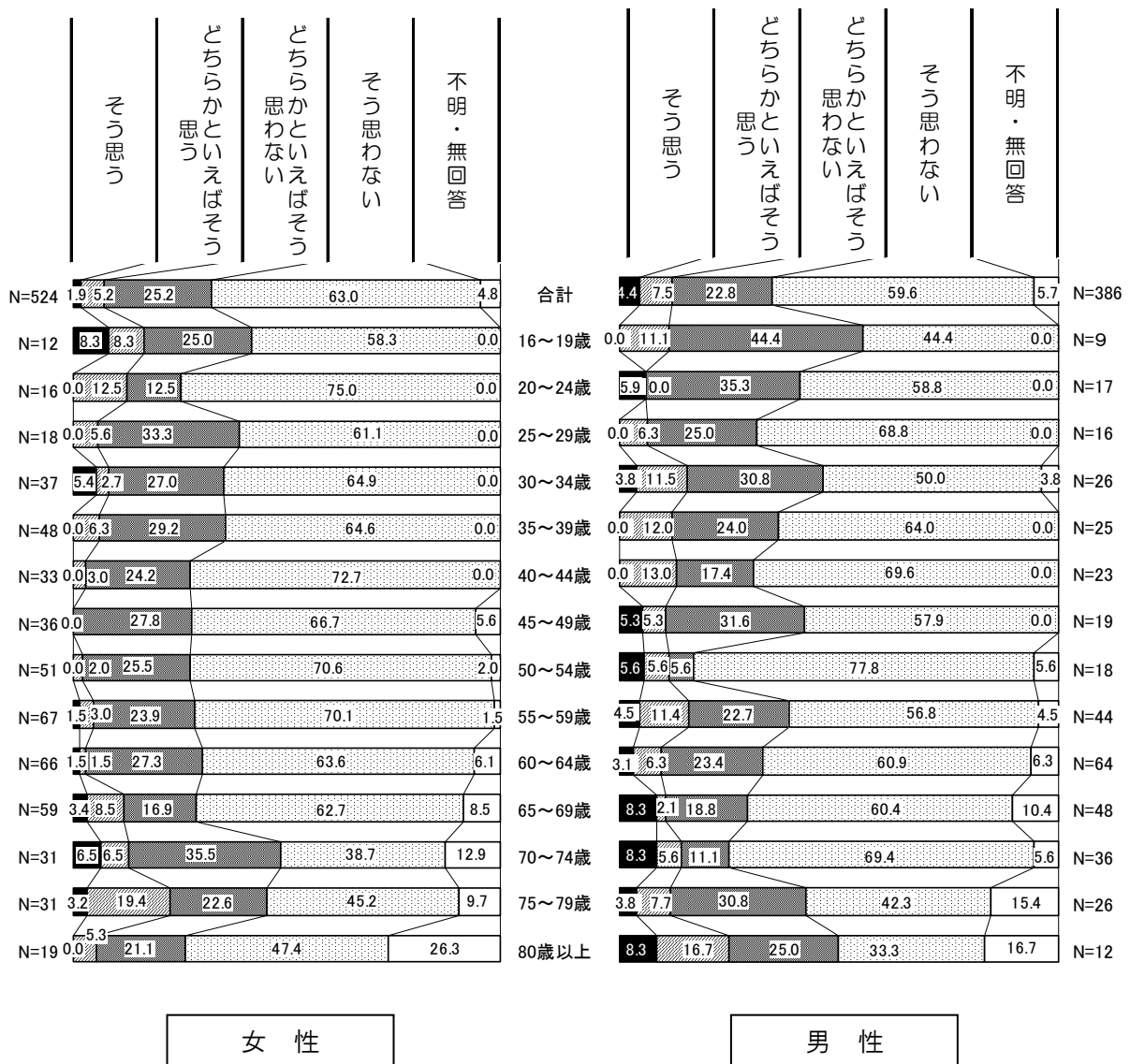


●男女ともに否定的な意見が多い

「家庭では、なにごととも妻は夫を立て夫に従う方がうまくいく」という考えについては、女性・男性ともに「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた否定的な意見が多く、女性では63.9%、男性では54.4%となっている。

しかし、男女ともに高齢になるにつれ肯定的な意見が増加しており、女性では75歳以上、男性では80歳以上で過半数を超えている。

問4（9） 「結婚しても自分自身（夫、妻）を大切に大人だけの家庭がよい」という考えについてどう思いますか。（単数回答）

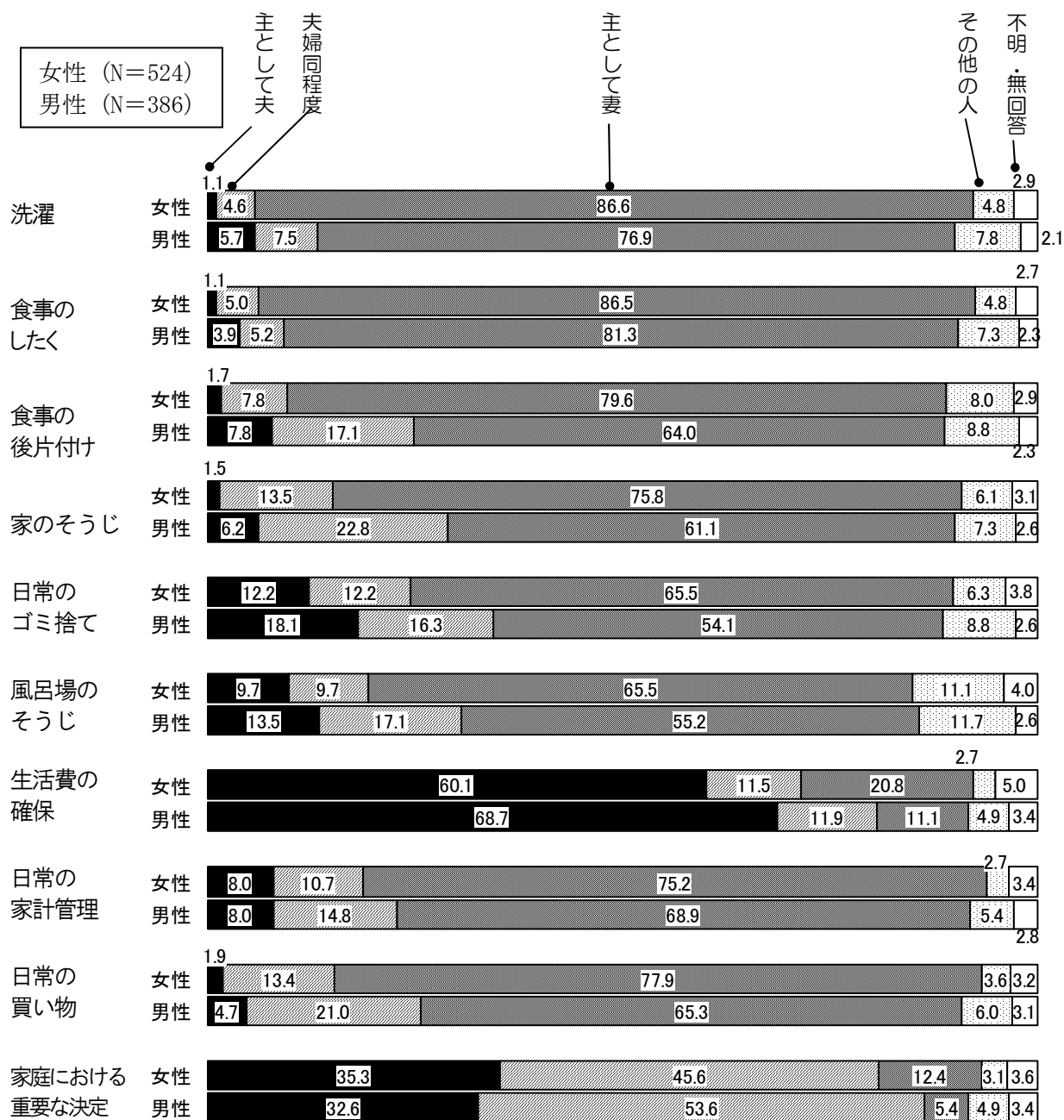


●「そう思わない」が男性は6割近く、女性は6割を超え、いずれの年齢階層も否定的意見が多い

「結婚しても自分自身（夫、妻）を大切に大人だけの家庭がよい」という考えについては、女性・男性ともに「そう思わない」が最も多く、女性では63.0%、男性では59.6%となっている。女性・男性いずれの年齢階層においても、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた否定的な意見が8～9割を占めている。

(4) 家庭内の家事について

問5 あなたの家庭では、次のような家事を主に誰が担当していますか。(単数回答)



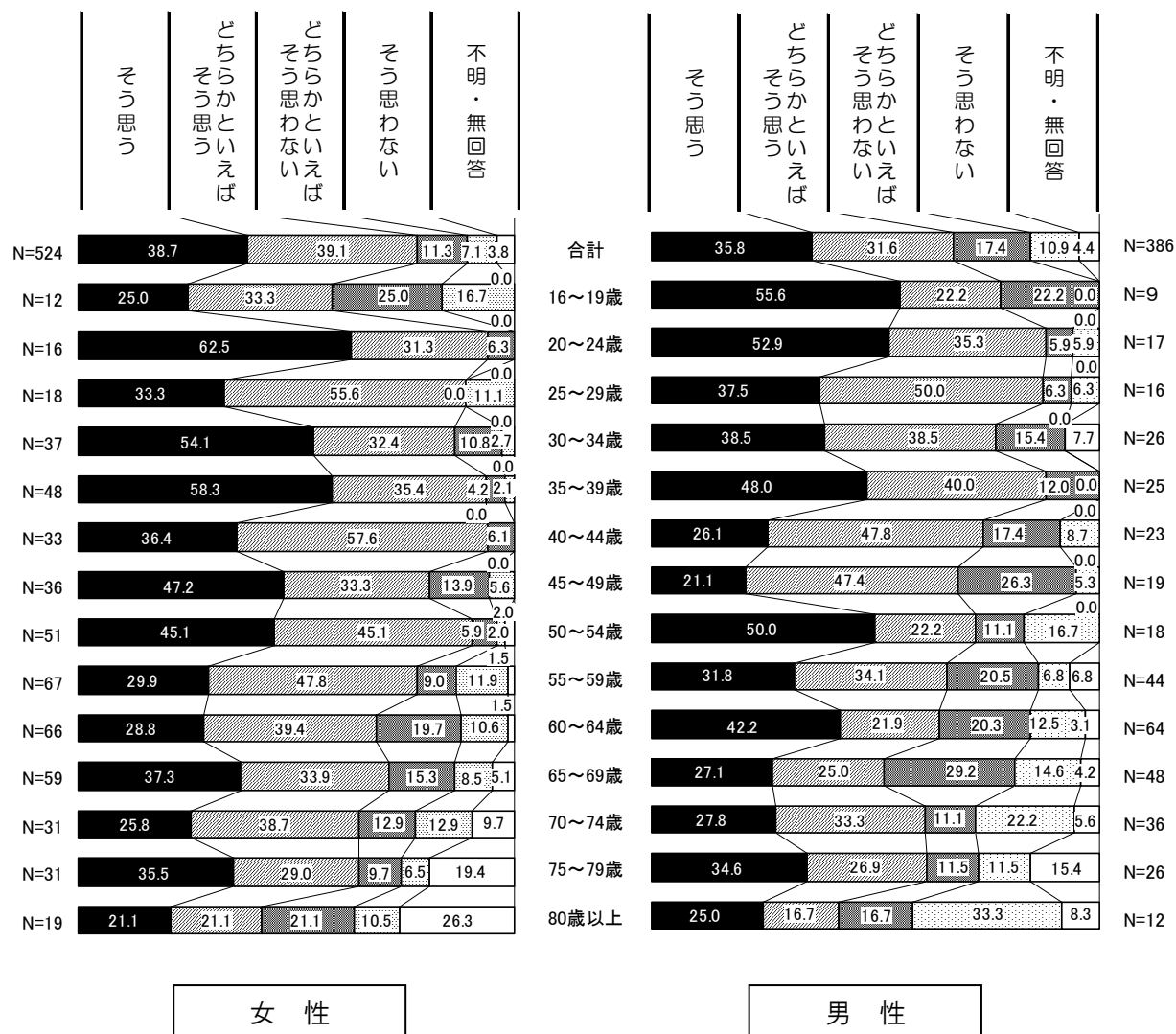
●「生活費の確保」では、「主として夫」は男女とも6割を超えている

家庭内の家事等についての担当では、『洗濯』『食事のしたく』といった分野では「主として妻」との回答が、『生活費の確保』では「主として夫」がそれぞれ多くなっている。『家庭における重要な決定』では「夫婦同程度」が最も多くなっているが、次いで「主として夫」が3割強を占めているのに対して、「主として妻」は女性の回答で12.4%、男性の回答で5.4%と、少なくなっている。

4. 子育てについて

(1) 子育てについての意識

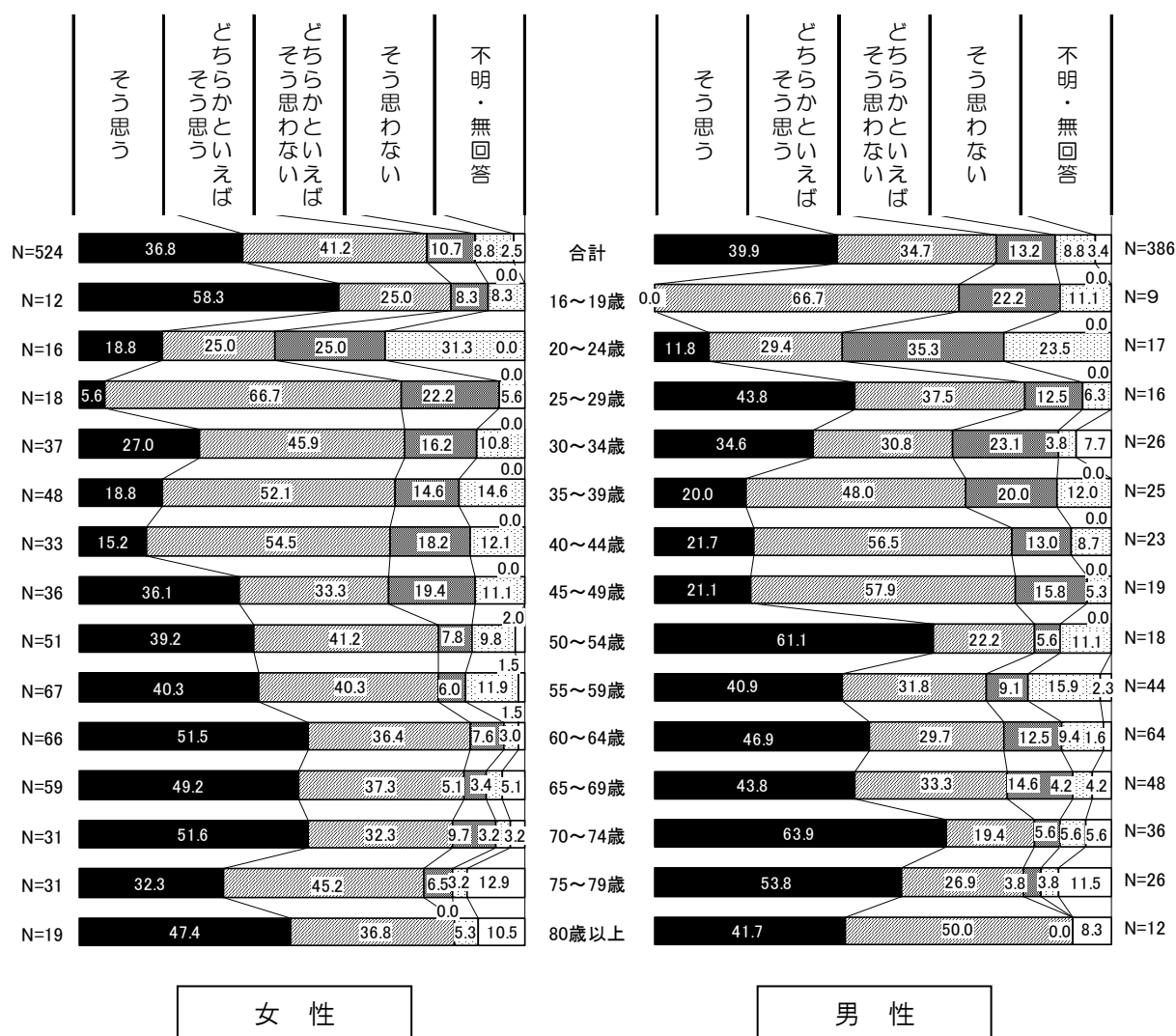
問6 (1) 「祖父母、保育士等父母以外の多くの人々が子育てに関わるのがよい」という考えについてどう思いますか。(単数回答)



●女性では8割近く、男性では7割近くが肯定的な意見となっている

「祖父母、保育士等父母以外の多くの人々が子育てに関わるのがよい」という考えについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な意見は、女性で77.8%、男性で67.4%となっている。また、男女ともに年齢階層が上がるごとに肯定的な意見が減少している。

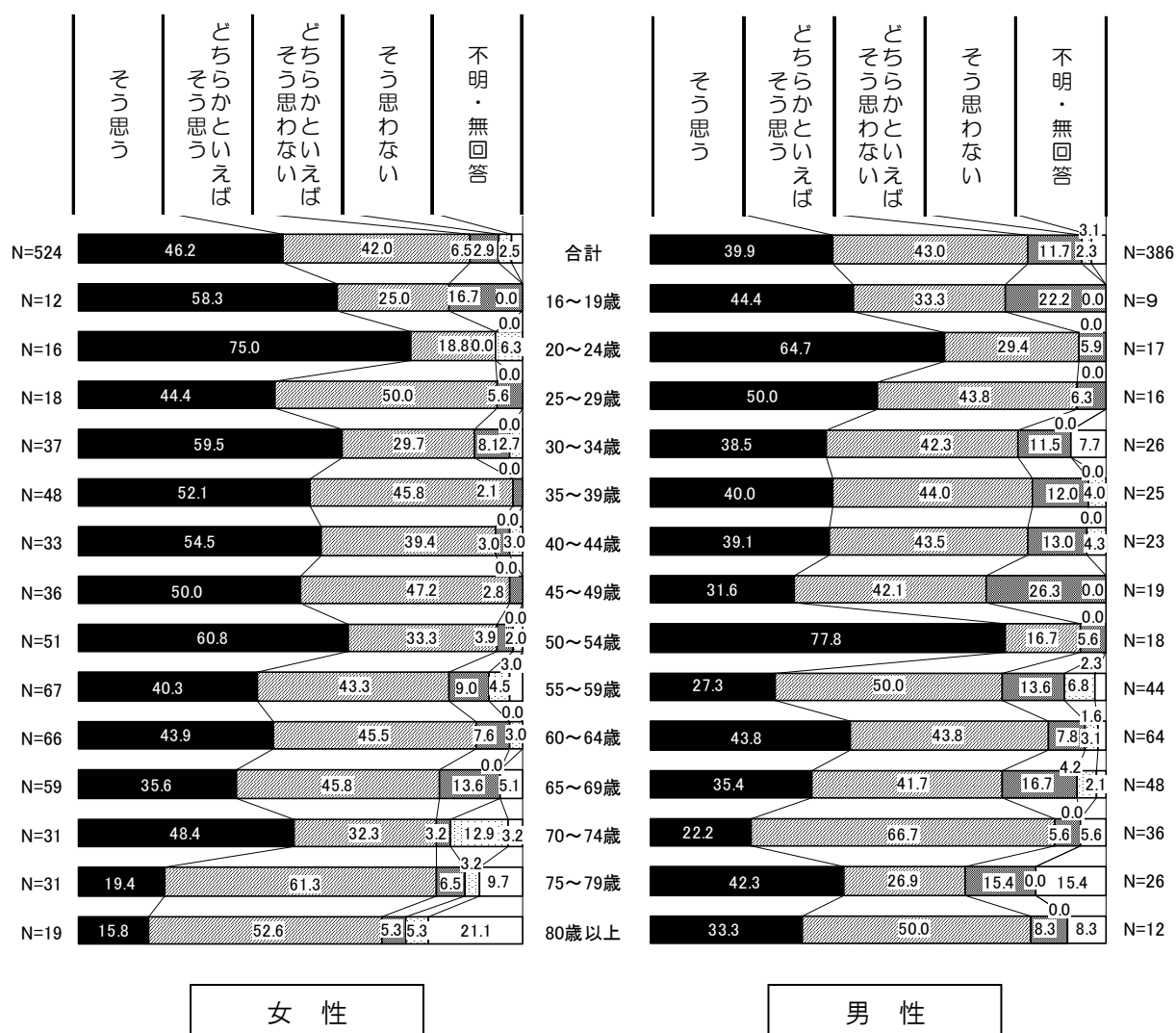
問6（2） 「3歳までは、母親が子育てに専念すべきである」という考えについてどう思いますか。（単数回答）



●男女とも4割近くが「そう思う」と答えている

「3歳までは、母親が子育てに専念すべきである」という考えについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な意見は、女性で78.0%、男性で74.6%となっている。また、男女ともに20～24歳を除いたすべての年齢階層で7～9割が肯定的な意見となっている。

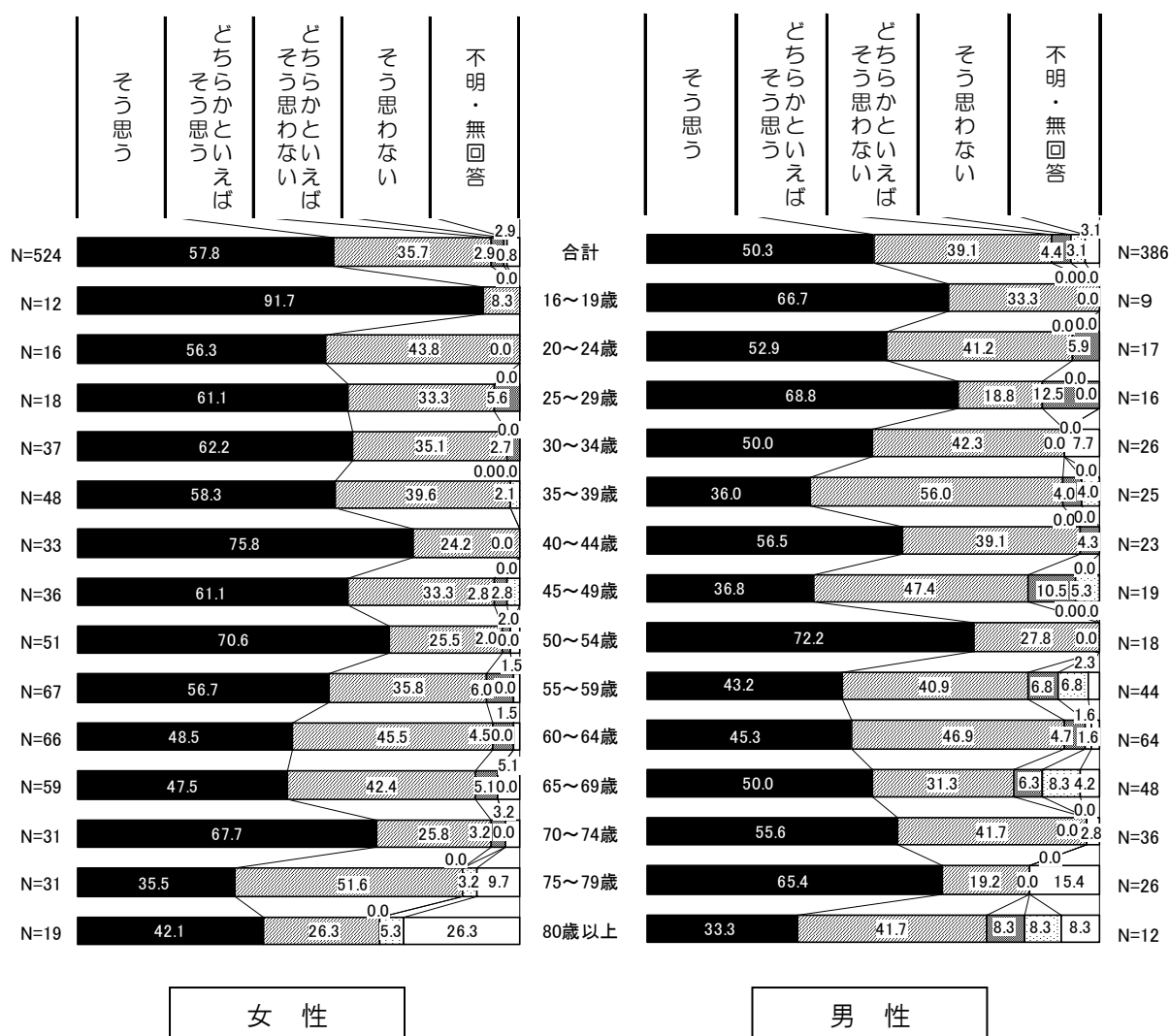
問6（3） 「子育ては夫も妻も等分に関わるのがよい」という考えについてどう思いますか。（単数回答）



●肯定的な意見は、女性で9割近く、男性では8割を超えている

「子育ては夫も妻も等分に関わるのがよい」という考えについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な意見は世代間に変化はなく、女性で88.2%、男性で82.9%となっている。

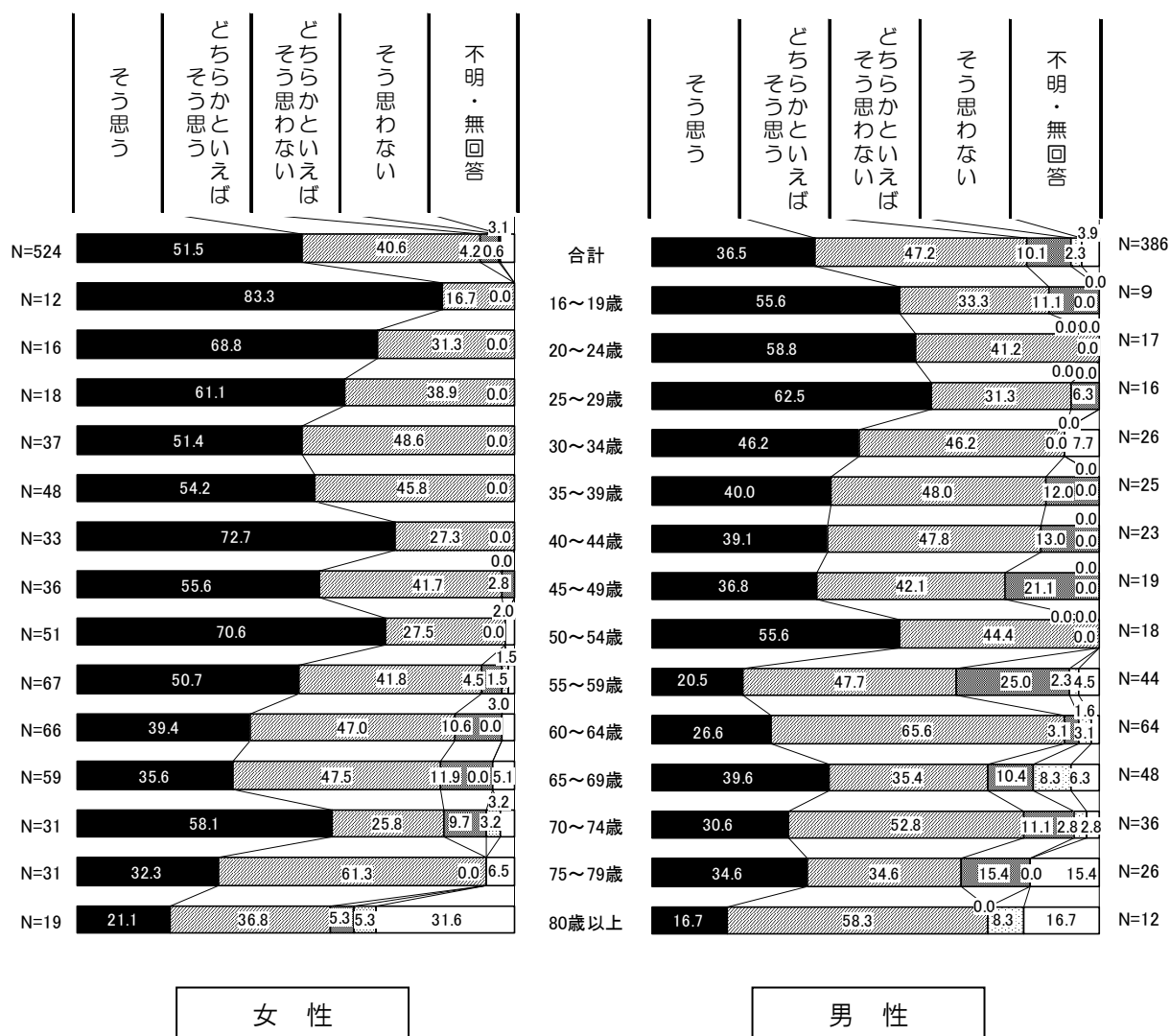
問6（4） 「男女とも、経済的自立ができるように育てるのがよい」という考えについてどう思いますか。（単数回答）



●肯定的な意見は、男性は9割近く、女性は9割を超えている

「男女とも、経済的自立ができるように育てるのがよい」という考えについて、どの年代においても変化はない。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な意見は、女性で93.5%、男性で89.4%となっている。

問6（5） 「男女とも、家事・育児ができるように育てるのがよい」という考えについてどう思いますか。（単数回答）

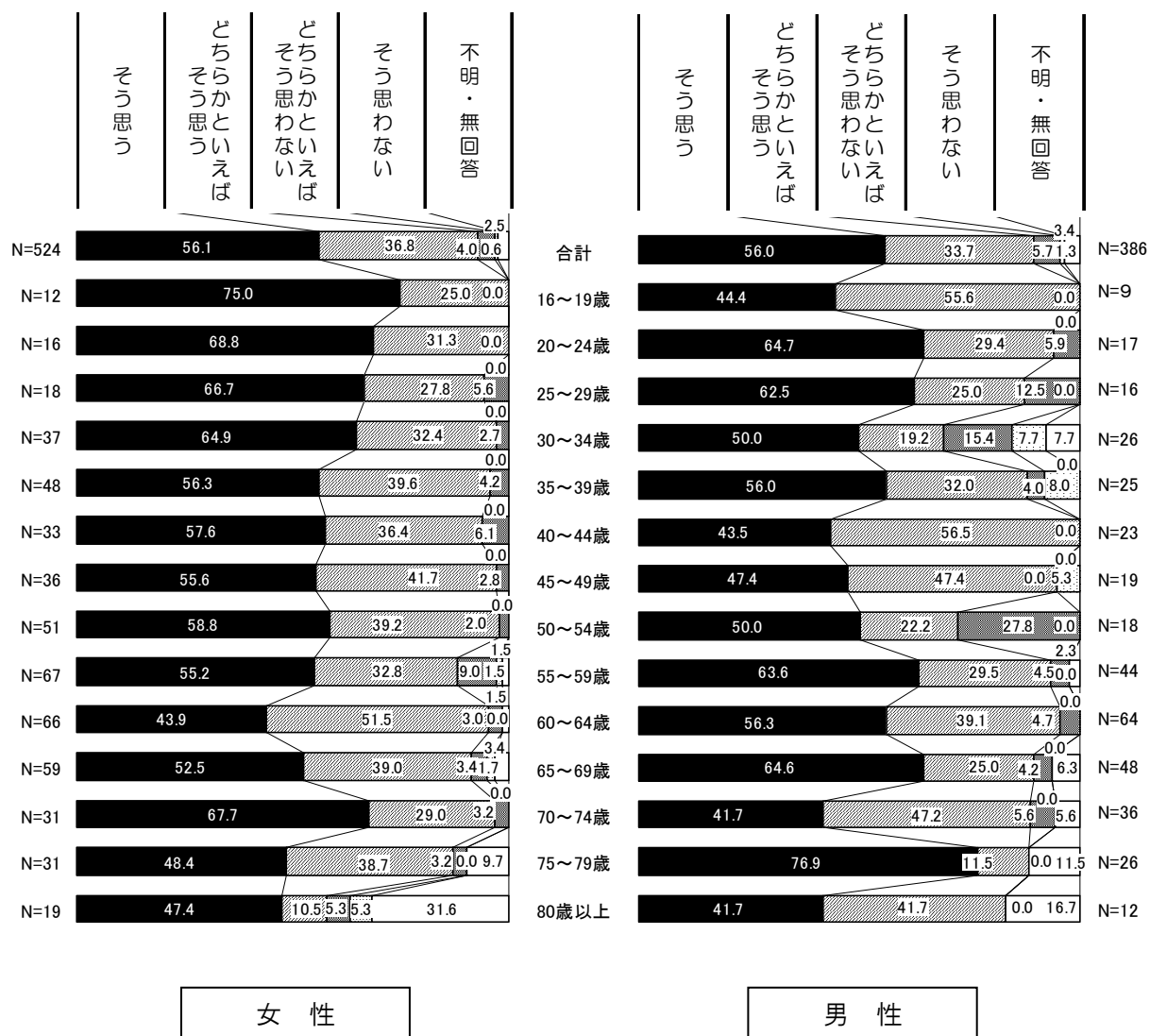


●肯定的な意見は、女性では9割、男性では8割を超えている

「男女とも、家事・育児ができるように育てるのがよい」という考えについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な意見は、女性で92.1%、男性で83.7%となっている。「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた否定的な意見は、女性で4.8%であるのに対し、男性では12.4%となっている。

女性で「そう思う」と答えた人の割合は、60歳代と75歳以上を除き、5割を超えているのに対して、男性では、16～29歳と50歳代前半以外は、5割に満たない。

問6（6） 「個性を伸ばし、個人を尊重する育て方がよい」という考えについてどう思いますか。（単数回答）

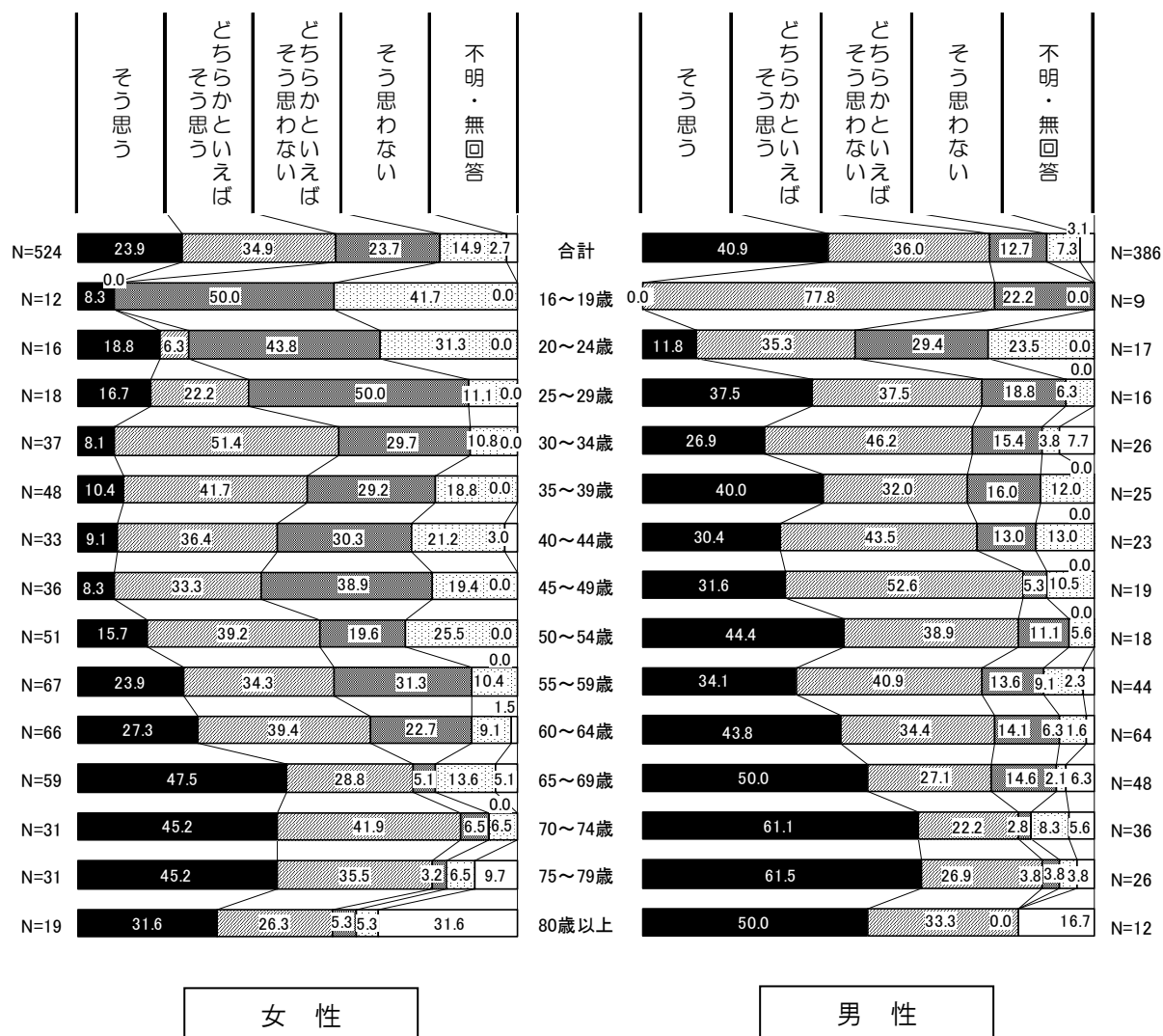


● 男性が9割近く、女性は9割以上が肯定的な意見である

「個性を伸ばし、個人を尊重する育て方がよい」という考えについて、「そう思う」は男女とも5割を超え、「どちらかといえばそう思う」も合わせた肯定的な意見は、女性で92.9%、男性で89.7%となっている。

年齢階層別に見ると、男女とも10歳代後半が全員肯定的であるのに対し、75歳以上では、「不明・無回答」が増加し、肯定的な意見の割合が減少している。

問6（7） 「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい」という考えについてどう思いますか。（単数回答）



●「そう思う」は男性では4割を超え、女性の2倍近い

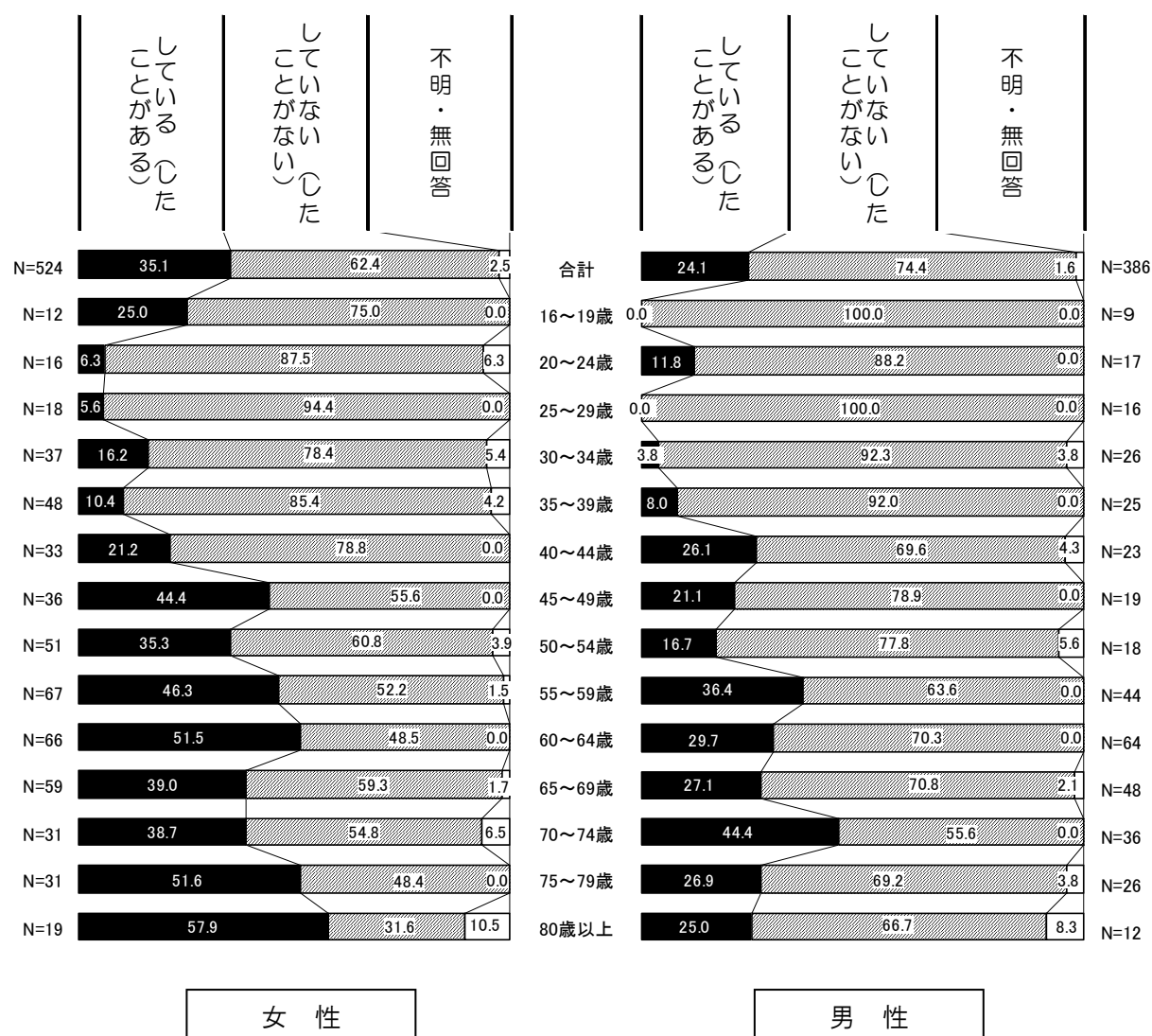
「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てるのがよい」という考えについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた肯定的な意見は、女性で58.8%、男性で76.9%となっている。また、女性については年齢階層が上がるにつれ肯定的な意見が多くなっている。

年齢階層別に見ると、肯定的な意見の割合が、女性では、16～29歳と40歳代以外は5割を超えており、男性では、20歳代前半以外で7割を超えている。

5. 介護について

(1) 介護の経験

問7 あなたは今、家族の誰かを介護していますか。または介護をしたことがありますか。(単数回答)

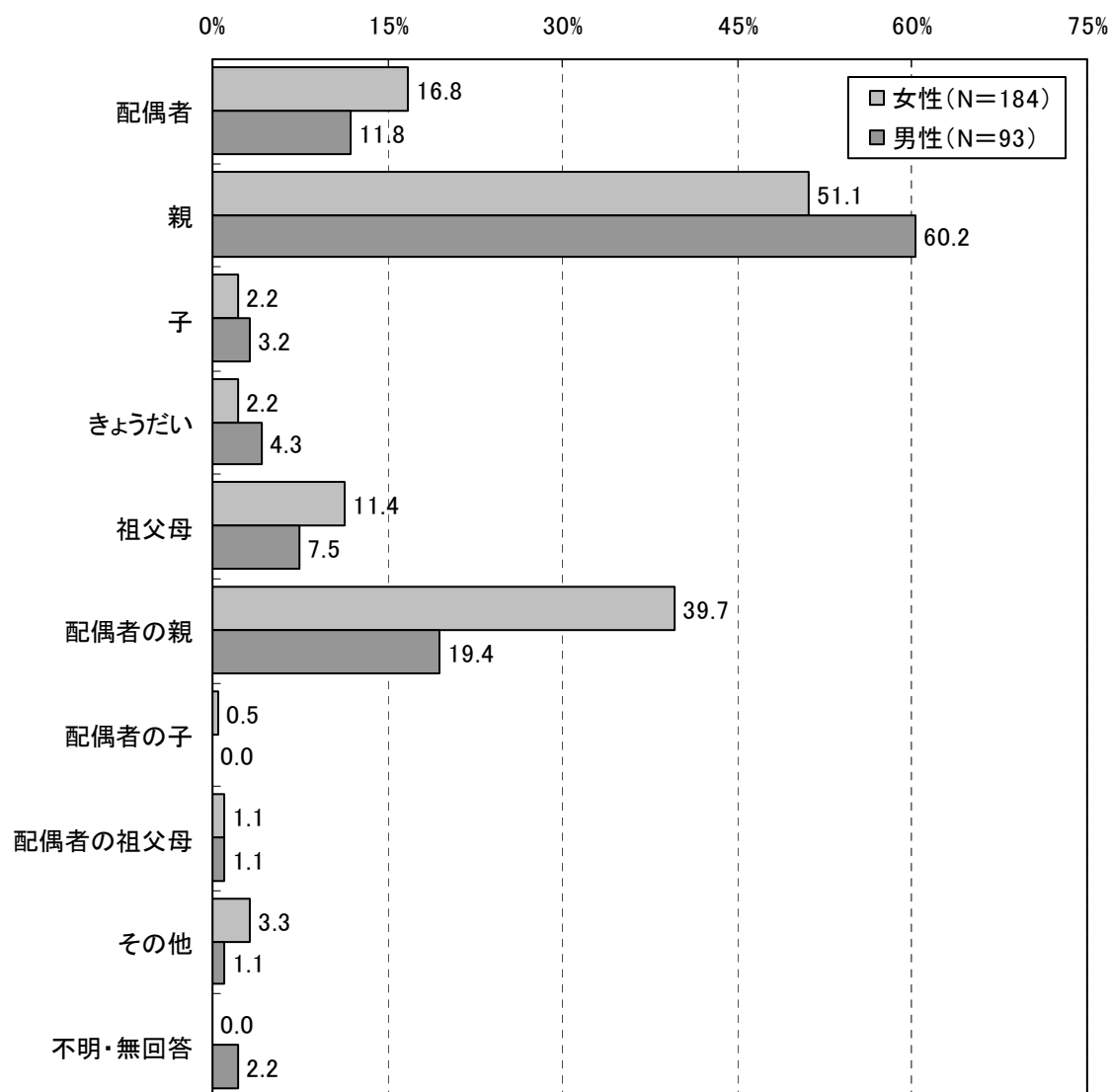


●介護経験者は女性の方が多く、年齢階層があがるにつれ男女とも増加

介護の経験の有無についてたずねたところ、女性の35.1%、男性の24.1%が「している（していたことがある）」と回答している。また、その割合は年齢階層が上がるにつれ増加している。

「している（したことがある）」と回答した割合は、20歳代前半、40歳代前半、70歳代前半を除き、女性の方が男性より多くなっている。

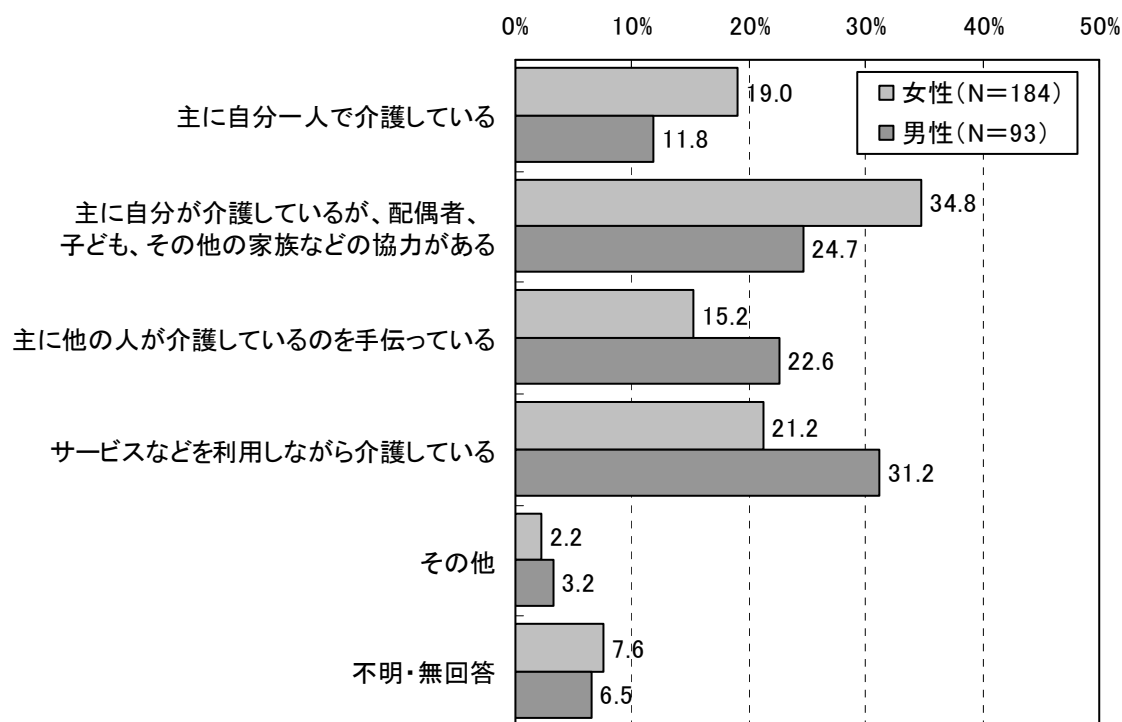
問8 介護している（またはしたことがある）と答えた方だけに質問します。
介護した相手は誰ですか。（複数回答）



●「配偶者の親」の介護経験がある女性の割合は、男性の2倍以上

介護の経験がある方に介護している相手についてたずねたところ、女性の51.1%、男性の60.2%が「親」と回答している。また、女性では次いで「配偶者の親」との回答も39.7%を占めており、男性に比べ多くなっている。

問9 介護はどのように行っていますか（または行っていましたか）。（単数回答）



●「サービスなどを利用しながら介護している」割合は、女性よりも男性の方が多い

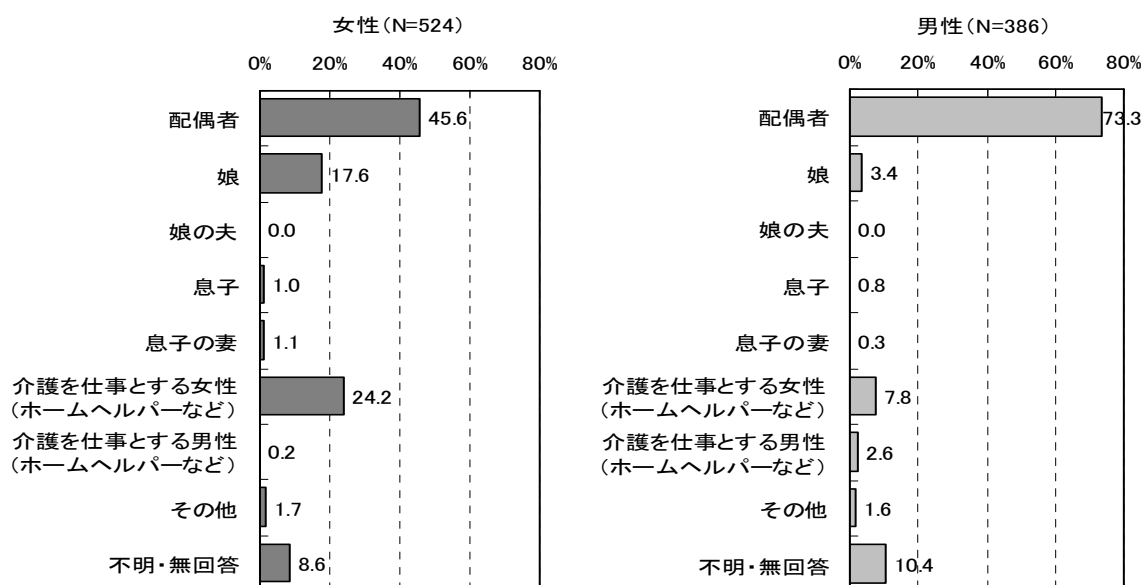
介護をどのように行っていたかでは、女性では「主に自分が介護しているが、配偶者、子ども、その他の家族などの協力がある」が34.8%と最も多く、次いで「サービスなどを利用しながら介護している」が21.2%、「主に自分一人で介護している」が19.0%と続いている。

男性では、「サービスなどを利用しながら介護している」が31.2%と最も多く、次いで「主に自分が介護しているが、配偶者、子ども、その他の家族などの協力がある」が24.7%、「主に他の人が介護しているのを手伝っている」が22.6%と続いている。

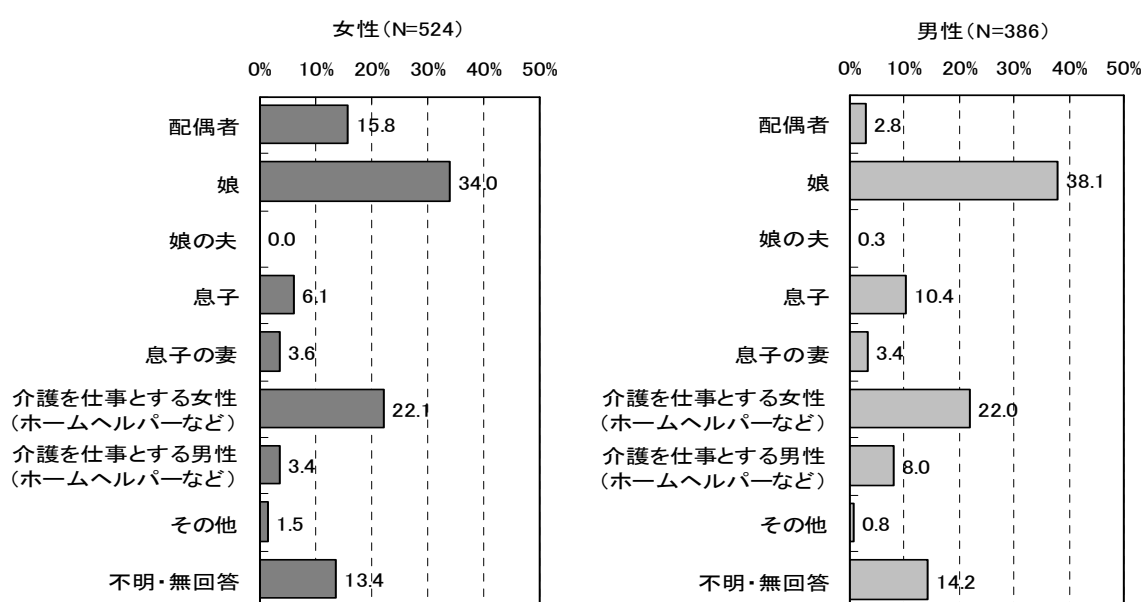
(2) 介護者の希望

問10 あなた自身が介護されるとしたら、主に誰に介護してもらいたいですか。(希望する相手上位3つまで)

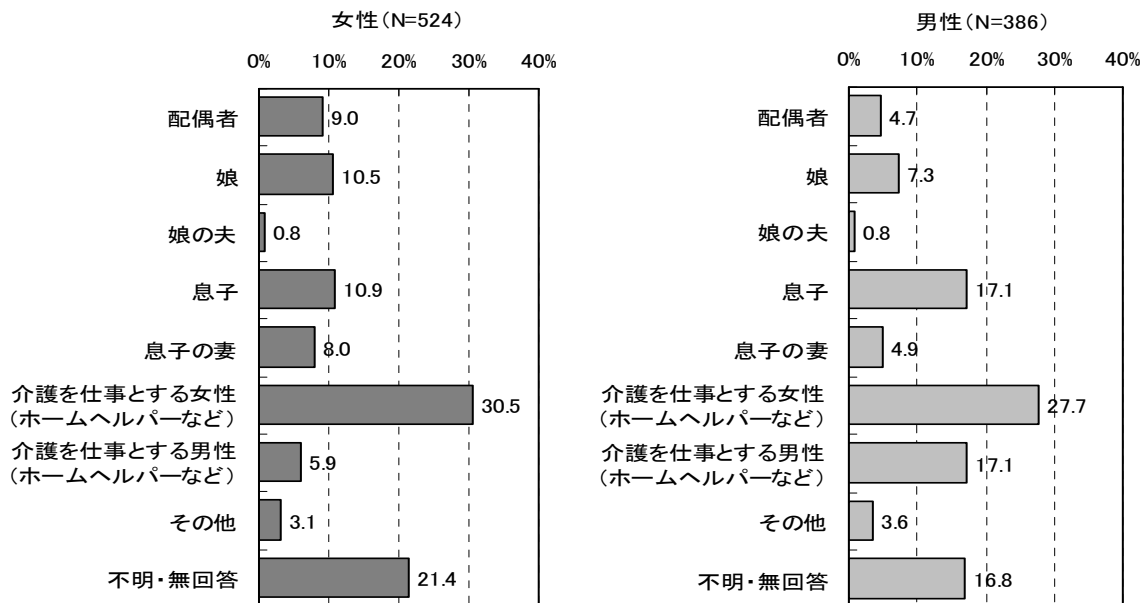
第1希望



第2希望



第3希望



●介護者の希望は、男女ともに女性への希望が上位を占める

第1希望では男女ともに「配偶者」となっている。しかし女性ではその割合が45.6%と半数以下であるのに対し、男性では73.3%と、高くなっている。また、男性では「配偶者」との回答が群を抜いており他の回答は1割未満であったが、女性では「配偶者」に次いで「介護を仕事とする女性」が24.2%、「娘」が17.6%と2割前後を占めている。

第2希望では、男女とも「娘」となっており、その割合は女性では34.0%、男性では38.1%となっている。次いで男女とも「介護を仕事とする女性（ホームヘルパーなど）」となっており、その割合は女性では22.1%、男性では22.0%となっている。

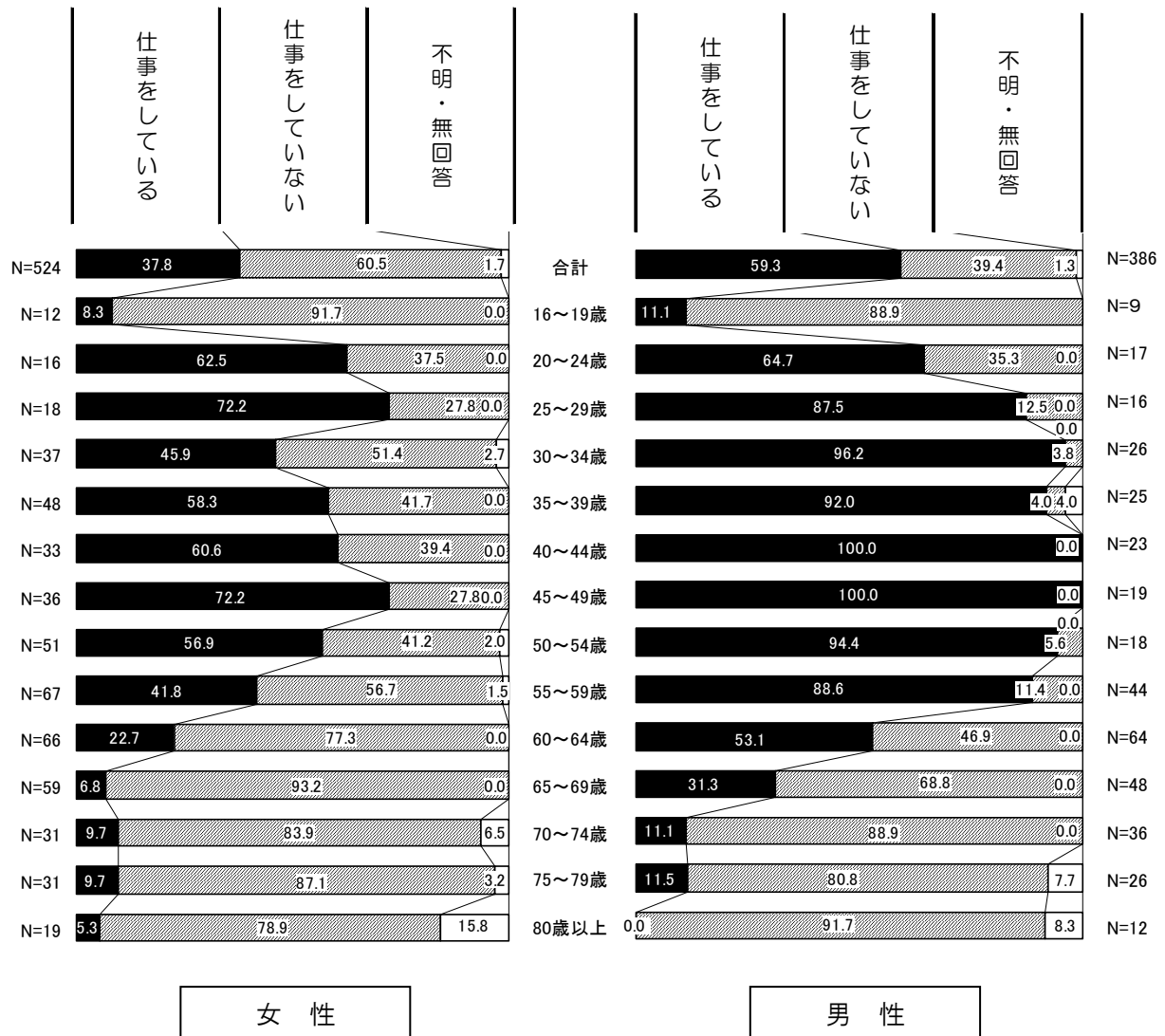
第3希望では男女とも「介護を仕事とする女性（ホームヘルパーなど）」となっており、その割合は女性では30.5%、男性では27.7%となっている。

第1希望、第2希望、第3希望とも女性が「配偶者」を希望する以外は、男女とも女性への希望が上位を占めている。

6. 仕事について

(1) 就労の状況

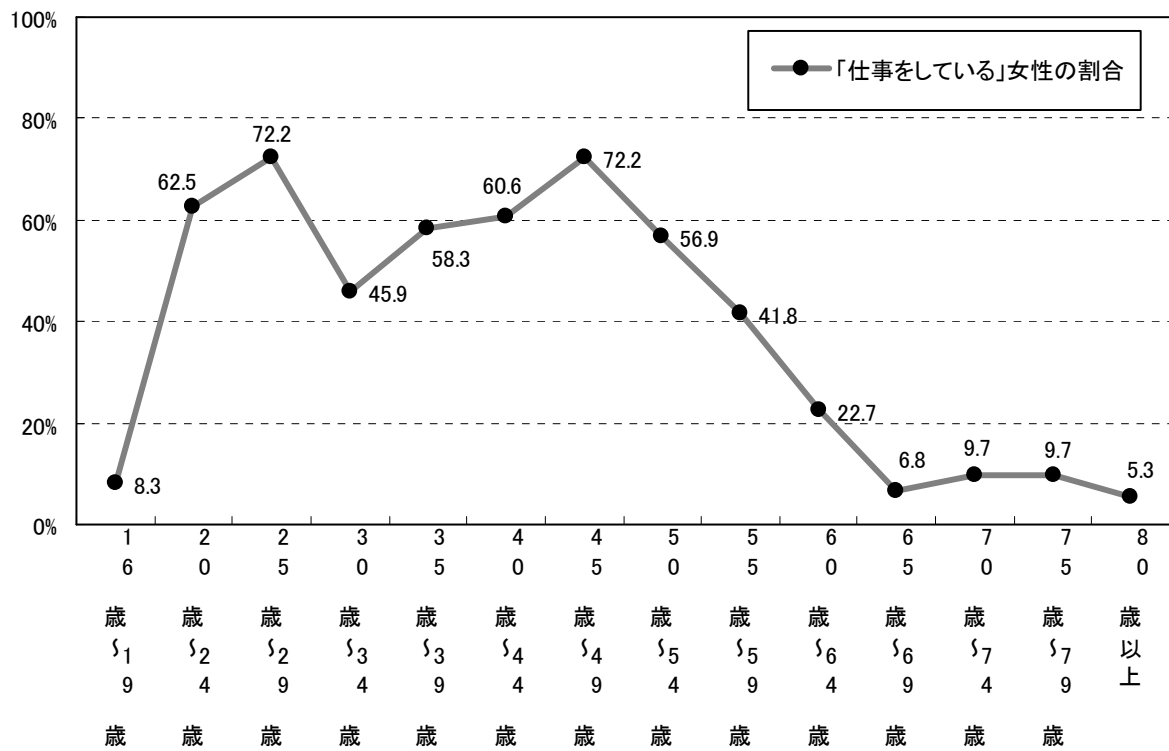
問 1 1 あなたは、現在、収入をとまなう仕事についていますか。産前・産後、育児介護休暇中の人は働いているものとみなします。(単数回答)



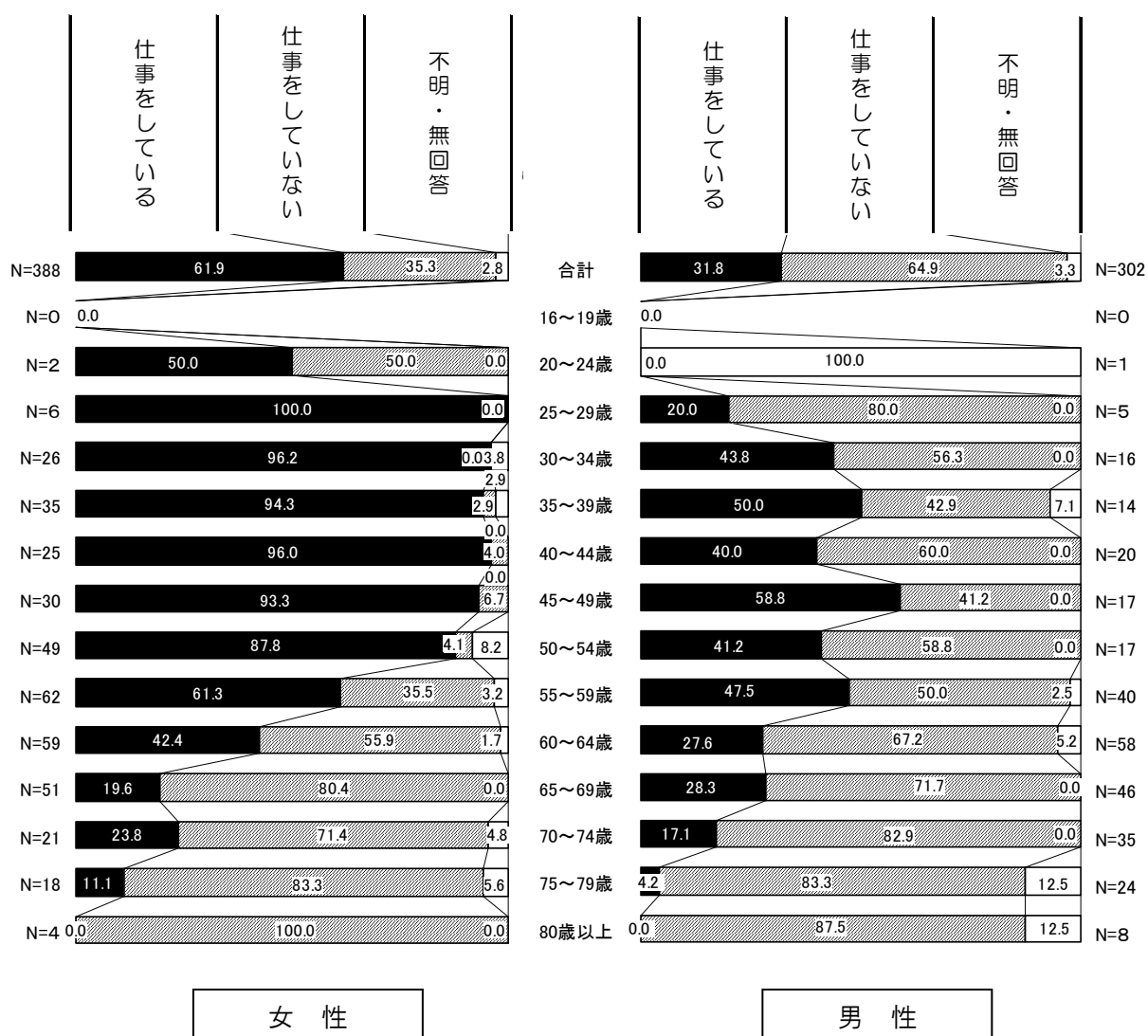
●女性 は 20 歳代後半と 40 歳代後半で 7 割強とピークとなり、30 歳代前半で落ち込みがみられる

就労の状況については、女性の 37.8%、男性の 59.3%が「仕事をしている」と回答している。年齢階層別にみると、男性の 20 歳代後半から 50 歳代まで、継続して 8 割以上が就労しているが、女性では 30 歳代前半で落ち込みがみられ、最も多いところで 20 歳代後半と 40 歳代後半で 72.2%となっており、M字型を示している。

■女性の就労状況



問 1 2 配偶者やパートナーと一緒に暮らしていられる方に質問します。
あなたの配偶者やパートナーは収入を得る仕事をしていますか。(単数回答)



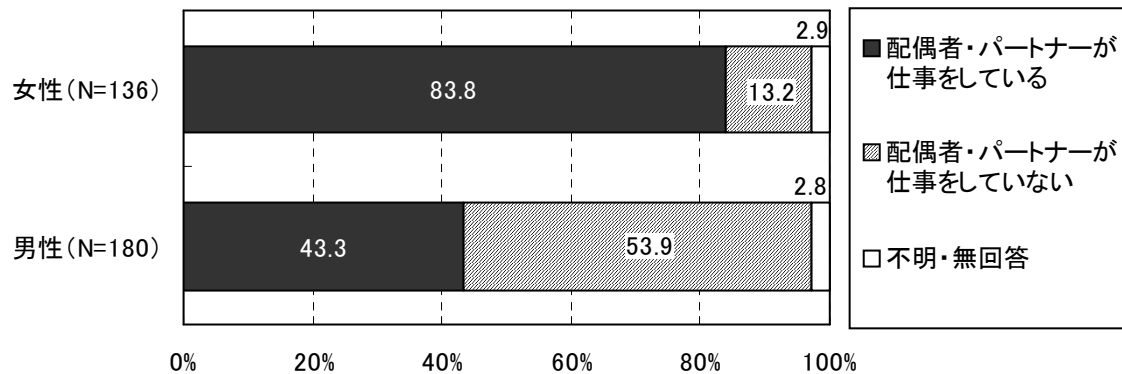
※年齢階層によってはサンプル数が極端に少なくなっていることに留意する。

●女性では 20 歳代後半～50 歳代前半の 9 割近くが「配偶者やパートナーが仕事をしている」と回答

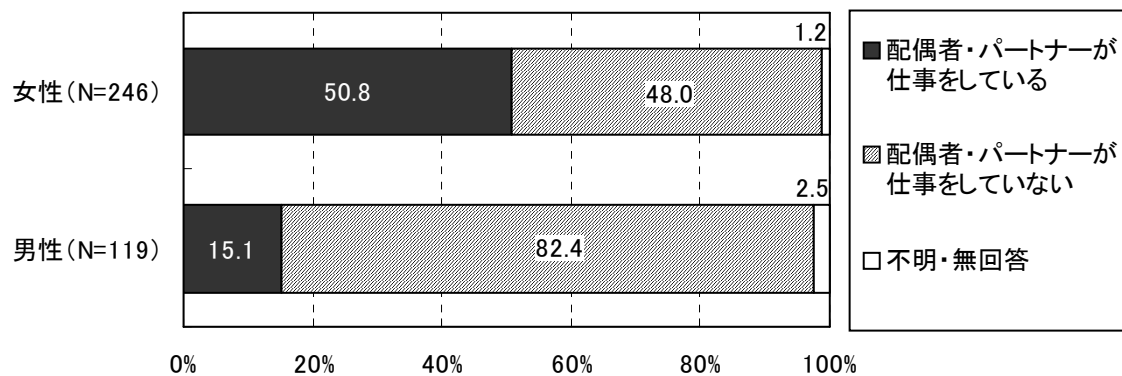
配偶者やパートナーの就労の状況については、女性の 61.9%、男性の 31.8%が、配偶者やパートナーが「仕事をしている」と回答している。

女性は 20 歳代後半～50 歳代前半の約 9～10 割が「配偶者やパートナーが仕事をしている」と回答しており、男性は「45 歳～49 歳」の 58.8%をピークに 30 歳代前半～50 歳代後半の 4 割以上が「配偶者やパートナーが仕事をしている」と回答している。

■ 本人が就労している男女の配偶者・パートナーの就労状況



■ 本人が就労していない男女の配偶者・パートナーの就労状況

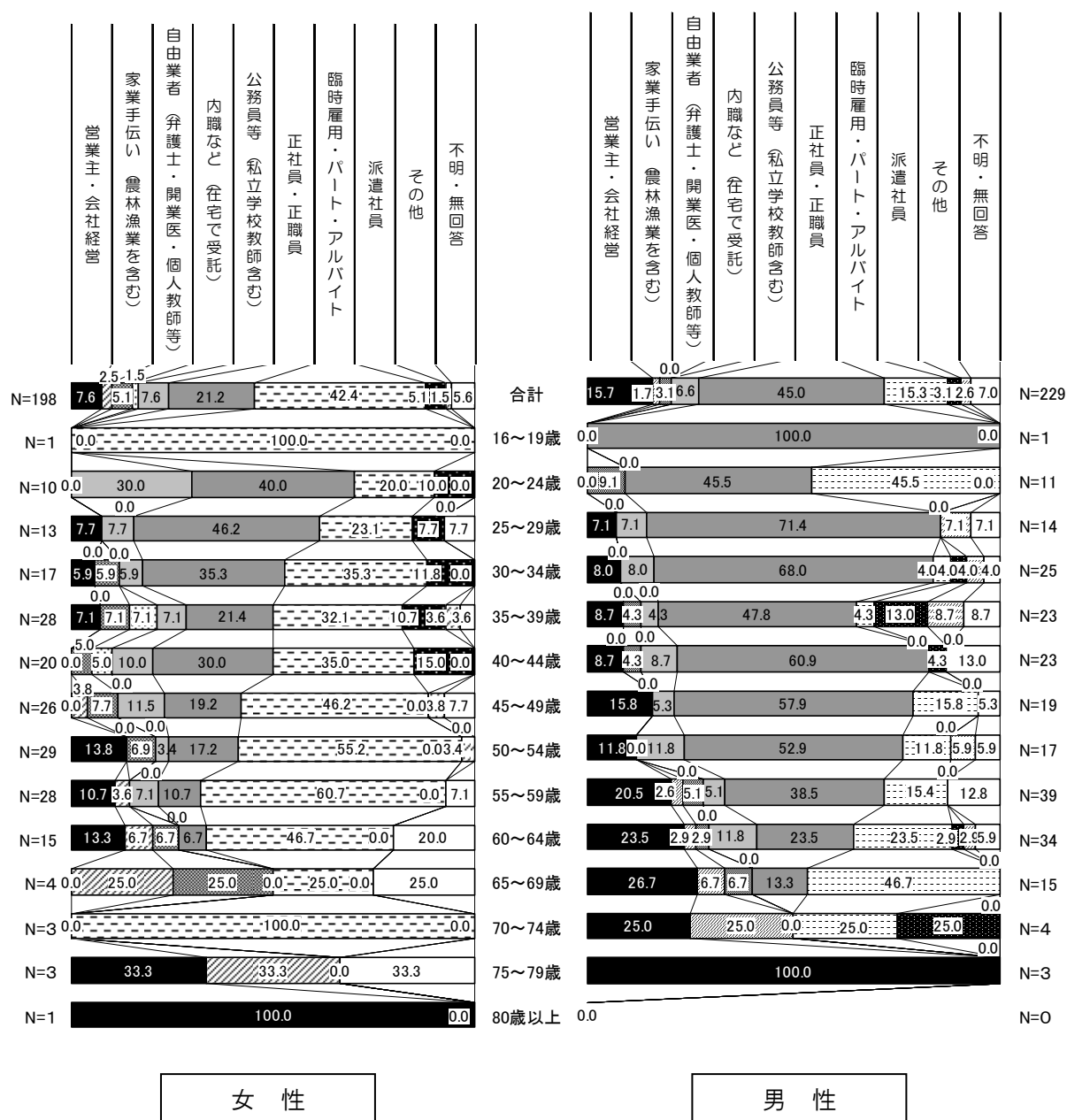


● 就労者の共働きの割合は、女性では 8 割以上と男性の 2 倍近くに

本人の就労状況と配偶者・パートナーの就労状況をあわせてみると、本人も就労しており配偶者・パートナーも就労している、いわゆる共働きであると思われる割合は、就労している女性の 83.8%、就労している男性の 43.3%となっている。

問13-1 仕事をしている方だけに質問します。どのようなお仕事をしていますか。

(単数回答)

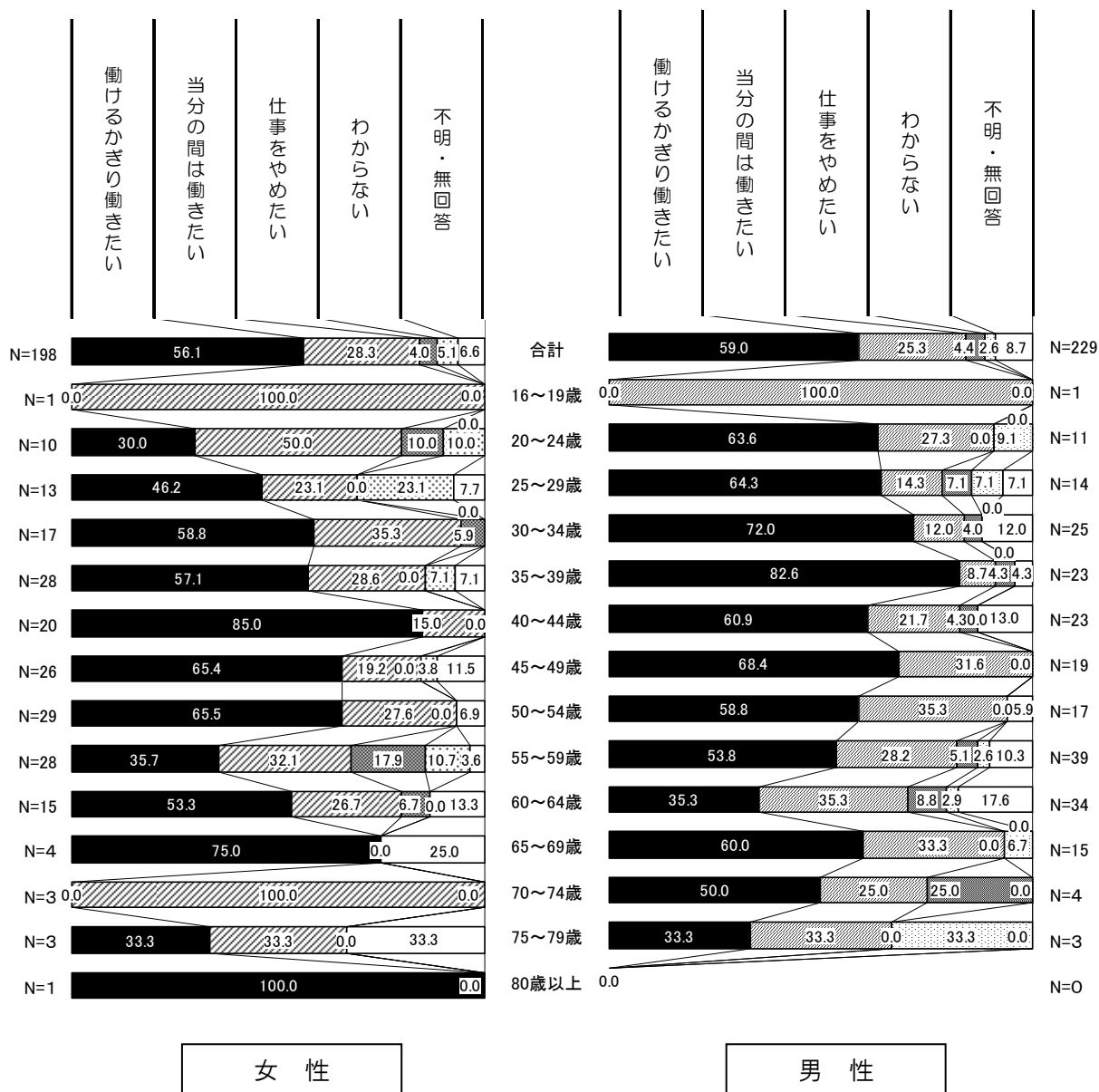


※年齢階層によってはサンプル数が極端に少なくなっていることに留意する。

●女性の就労者のうち、「臨時雇用・パート・アルバイト」が4割以上と最多

どのような仕事をしているかについては、女性では「臨時雇用・パート・アルバイト」が42.4%、男性では、「正社員・正職員」が45.0%と最も多い。次いで女性では「正社員・正職員」が21.2%、男性では「営業主・会社経営」が15.7%と続いている。また、20歳代前半から50歳代後半の女性では年齢階層が上がるにつれ「臨時雇用・パート・アルバイト」の占める割合が増える傾向にある。

問13-2 今後も仕事を続けたいと思いますか。(単数回答)



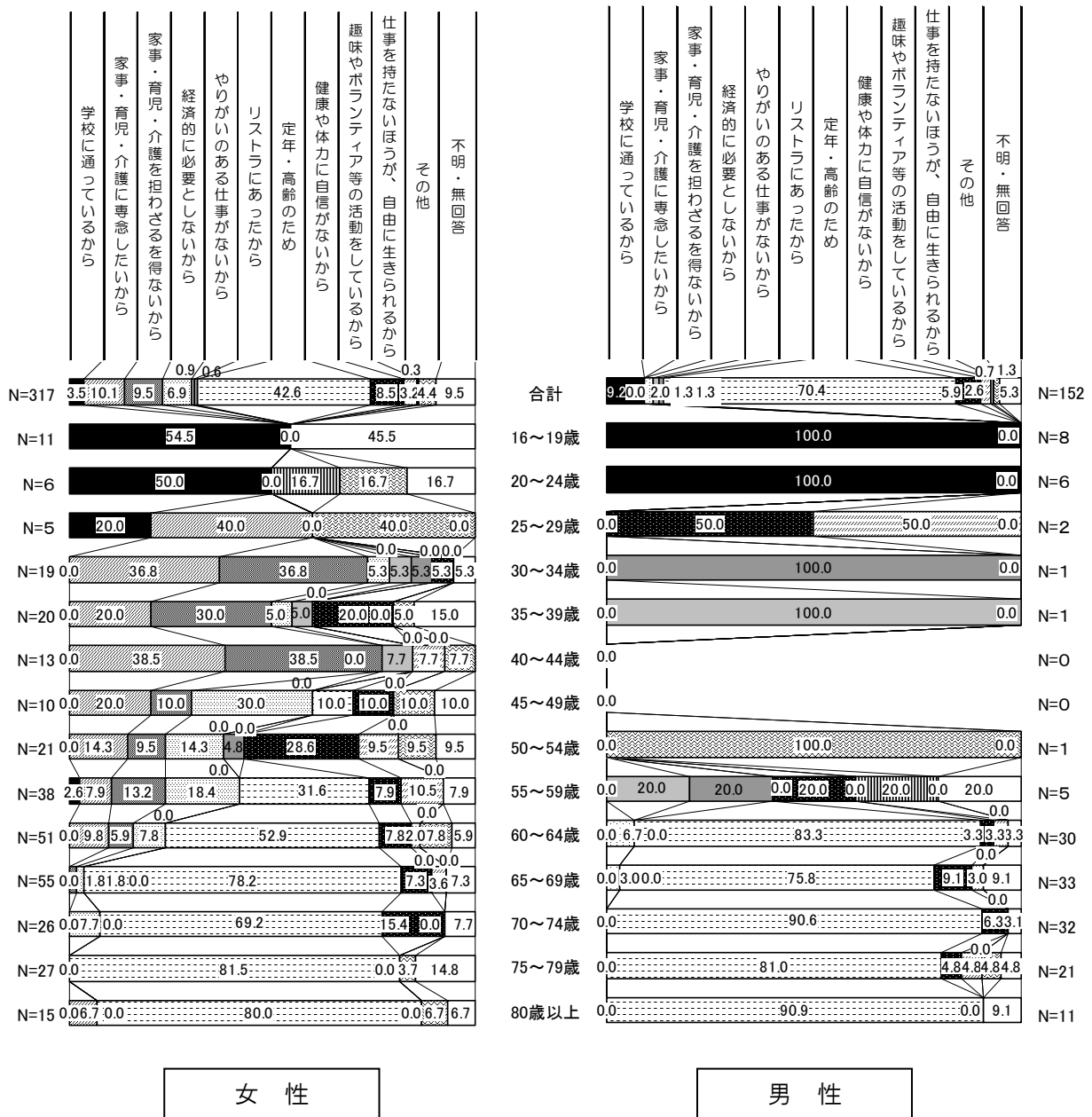
※年齢階層によってはサンプル数が極端に少なくなっていることに留意する。

●就労の継続希望者は男女ともに 8 割を超えている

今後の就労の意向については、「働けるかぎり働きたい」「当分の間は働きたい」を合わせた、就労継続の意向がある人は、女性で 84.4%、男性で 84.3%とほぼ同じ割合となっている。

また、男女ともに 60 歳代～70 歳代前半でも 7 割以上に就労意欲がある。

問14-1 仕事をしていない方だけに質問します。仕事をしていない理由はなんですか。(単数回答)



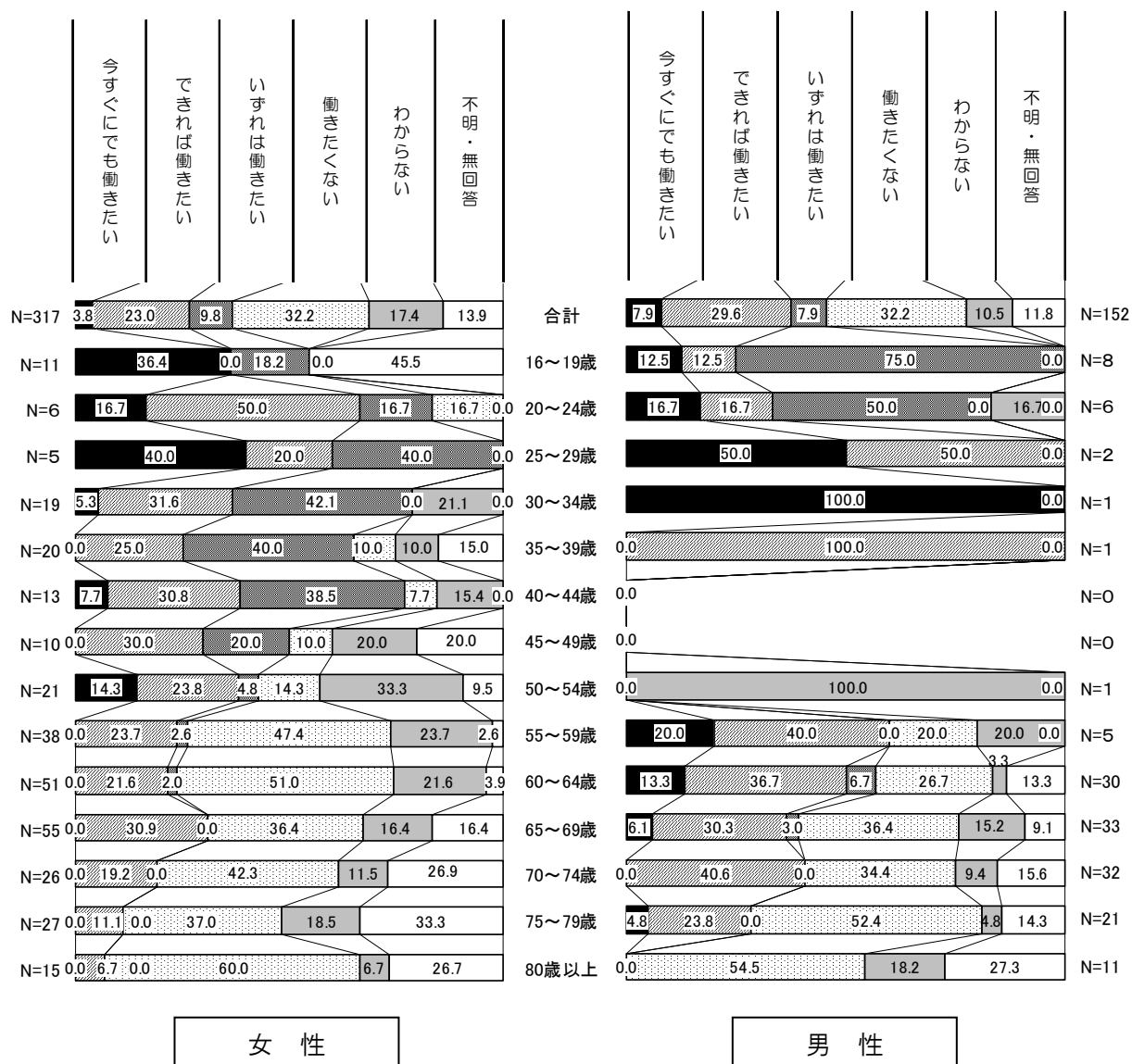
※年齢階層によってはサンプル数が極端に少なくなっていることに留意する。

●女性の20歳代後半から40歳代前半にかけては「家事・育児・介護に専念したいから」「家事・育児・介護を担わざるを得ないから」との回答が多い

仕事をしていない理由について、女性の20歳代後半～40歳代前半にかけては「家事・育児・介護に専念したいから」「家事・育児・介護を担わざるを得ないから」との回答が多くなっている。

また、60歳以上の年齢階層では男女ともに「定年・高齢のため」が約8～9割前後と、大部分を占めている。

問14-2 今後、仕事をしたいと思いますか。(単数回答)

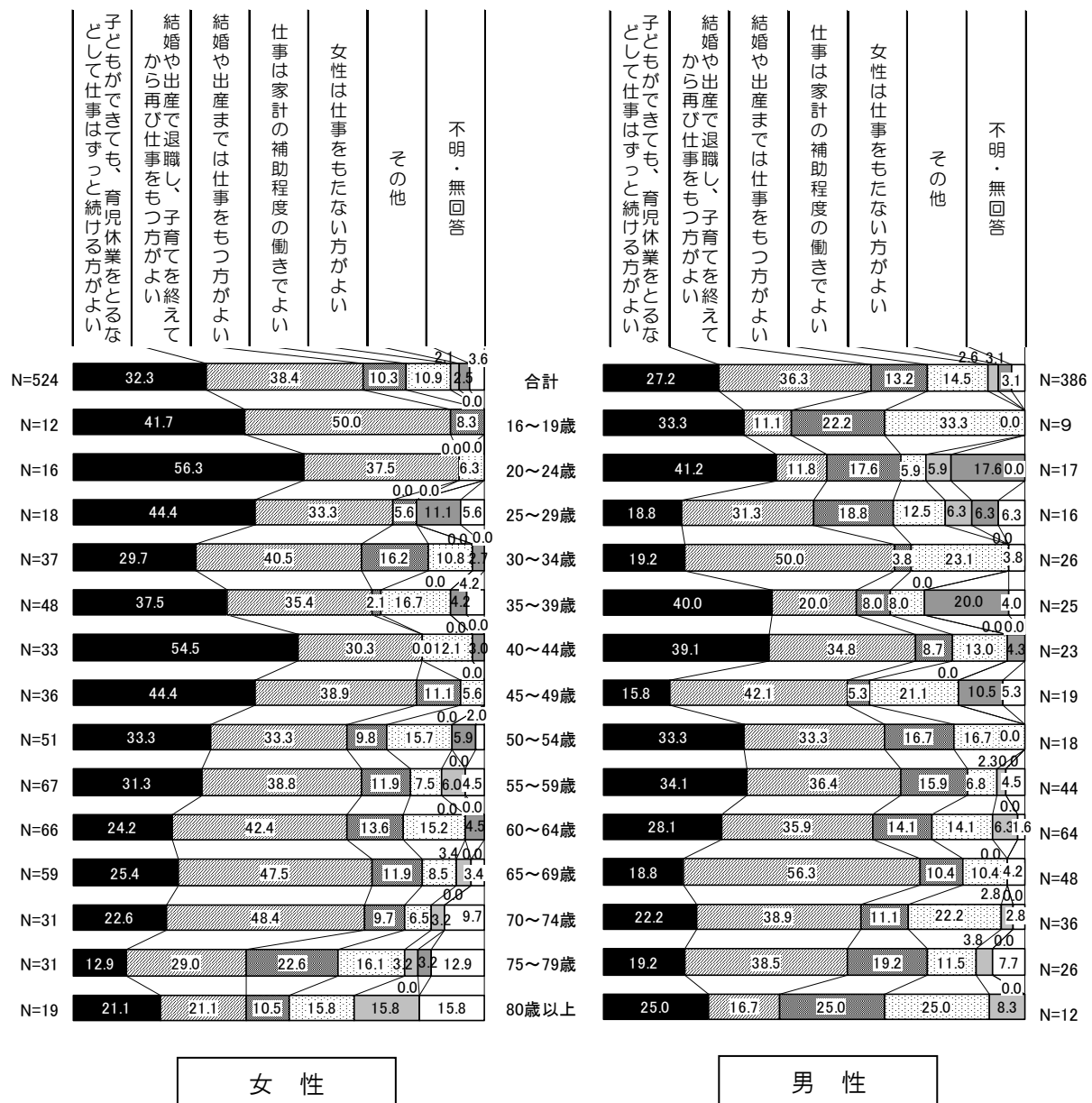


※年齢階層によってはサンプル数が極端に少なくなっていることに留意する。

●女性では20歳代前半から40歳代前半が就労の意向が高い

現在仕事をしていない人の今後の就労意向では、「今すぐにも働きたい」「できれば働きたい」「いずれは働きたい」を合わせた、就労意向のある人は女性で36.6%、男性で45.4%となっている。中でも20歳代前半から40歳代前半の女性で就労の意向が高くなっている。

問 15 一般的に女性が収入をとまなう仕事をもつことについて、あなたはどのように思いますか。
(単数回答)



●「子どもができて、育児休業をとるなどして仕事はずっと続ける方がよい」は女性の方が多い

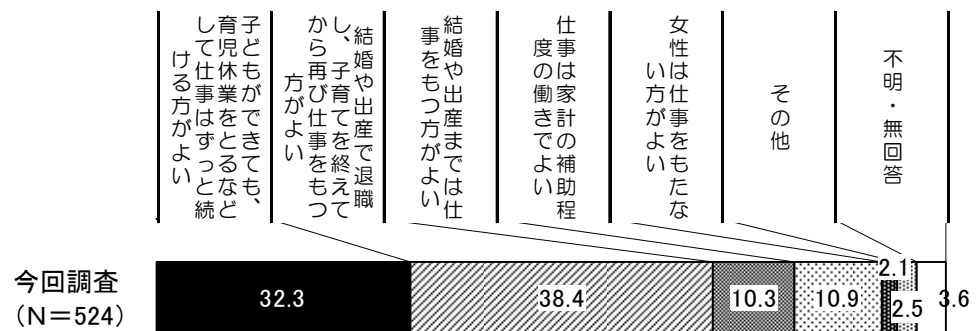
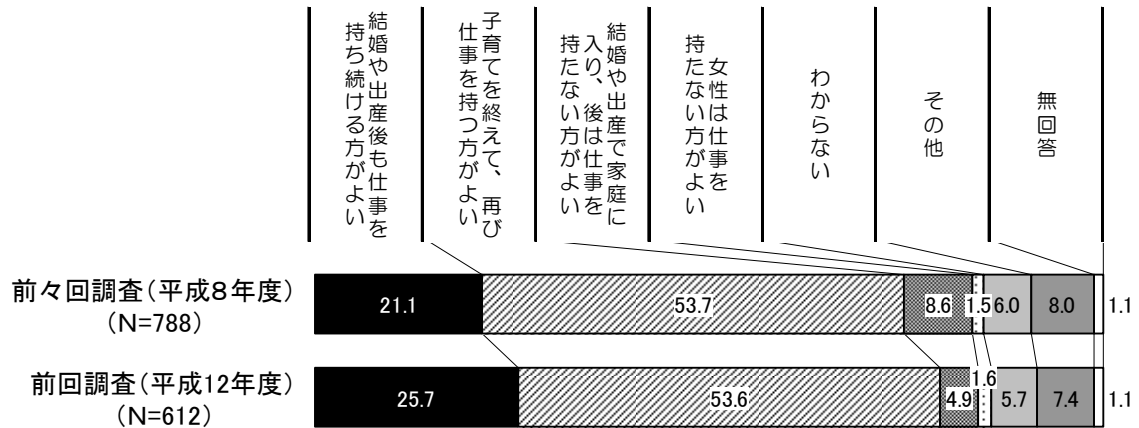
女性が収入をとまなう仕事をもつことについてどう思うかでは、「結婚や出産で退職し、子育てを終えてから再び仕事をもつ方がよい」が女性では38.4%、男性では36.3%と最も多く、次いで「子どもができて、育児休業をとるなどして仕事はずっと続ける方がよい」が女性では32.3%、男性では27.2%となっており、その次に「仕事は家計の補助程度の働きでよい」が女性では10.9%、男性では14.5%と続いている。

20歳代と40歳代の女性の4割以上が「子どもができて、育児休業をとるなどして仕事はずっと続ける方がよい」とし、男性も30歳代後半から40歳代前半にこの答え多いが、男女とも30歳代前半で「結婚や出産で退職し、子育てを終えてから再び仕事をもつ方がよい」の割合が増加している。50歳代以降では男女の意識に大きな差異は見られない。

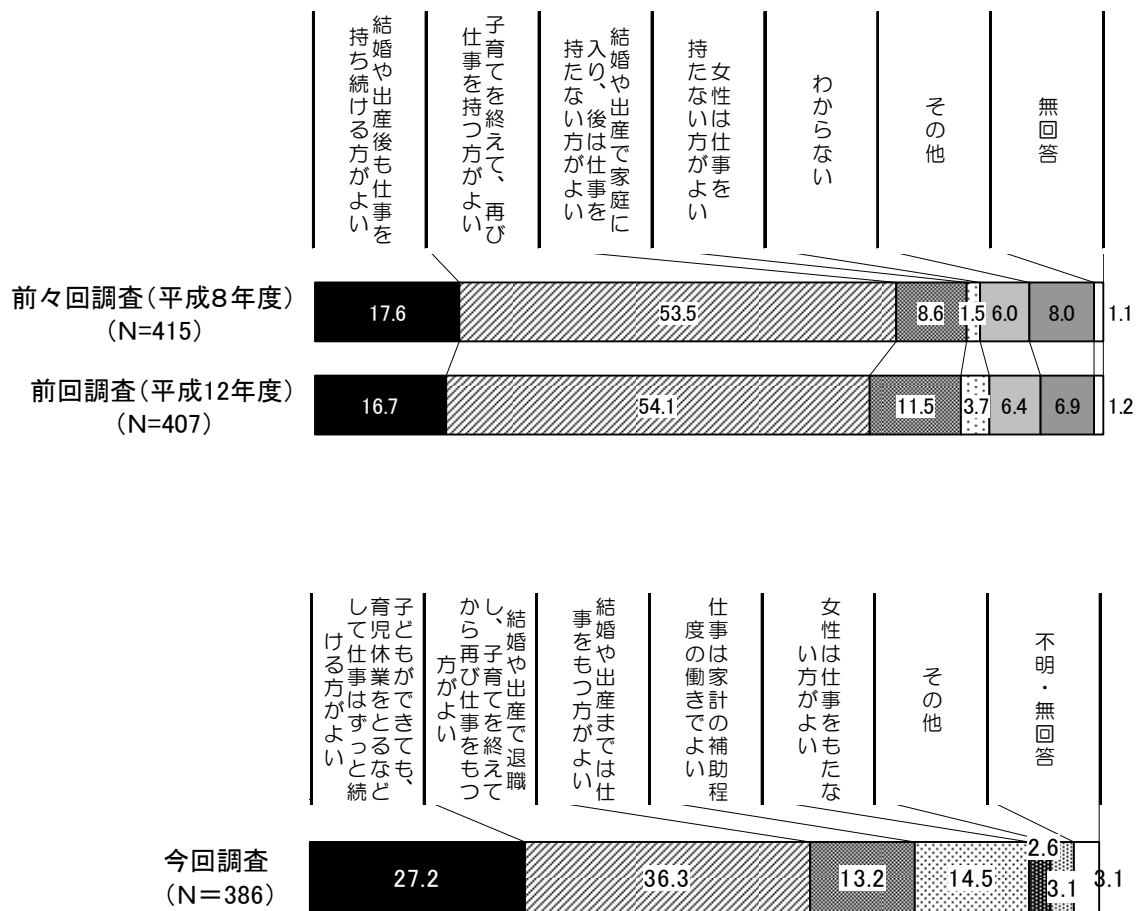
前々回（平成8年度）調査、前回（平成12年度）調査との比較

女性が仕事を持つことについて、どう思うか

【女性】



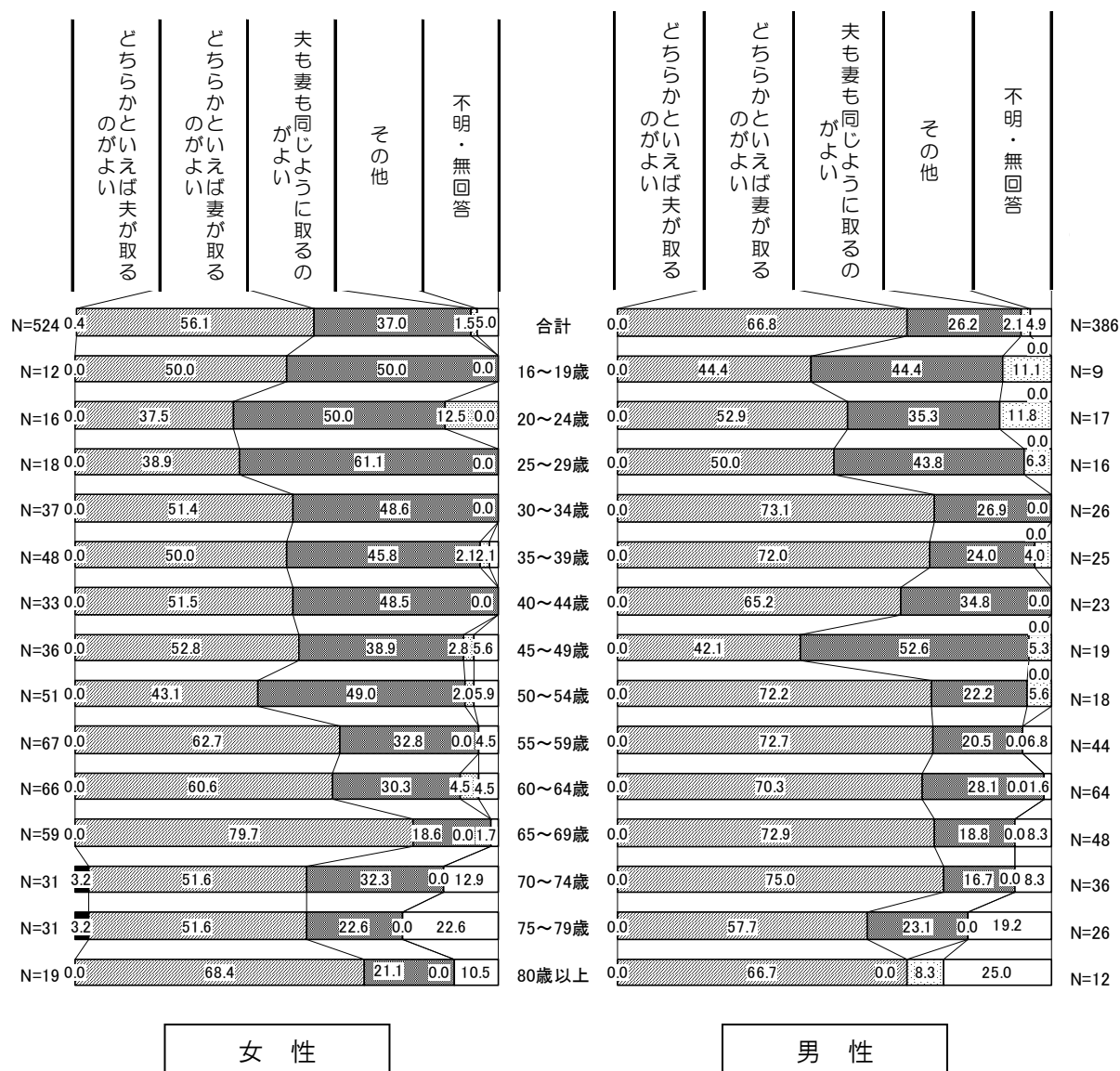
【男性】



一般的に女性が収入をとまなう仕事をもつことについてどう思うか、今回の調査を前々回調査、前回調査と比較すると、男女ともに「子どもができて、育児休業をとるなどして仕事はずっと続ける方がよい（結婚や出産後も仕事を続ける方がよい）」との回答が増加傾向にあり、今回調査では前々回調査より女性で 11.2 ポイント、男性で 9.6 ポイント増加している。

(2) 育児休業・介護休業について

問 16 家庭で育児が必要なとき、共働き夫婦が育児休業を取るとしたらどうするのがよいと思いますか。(単数回答)



●女性の4割弱が「夫も妻も同じように取るのがよい」と回答

育児休業を取るとしたらどのようにするのがよいと思うかについて、「どちらかといえば妻が取るのがよい」は女性では56.1%、男性では66.8%と最も多く、次いで「夫も妻も同じように取るのがよい」が女性では37.0%、男性では26.2%となっている。

また、「どちらかといえば夫が取るのがよい」との回答は、女性で0.4%、男性で0.0%とほとんどみられなかった。

「夫も妻も同じように取るのがよい」が女性では10歳代後半～40歳代前半で45%を超えており、男性では10歳代後半～20歳代で、35%を超えている。

問１６ 育児休業の取り方について、どうしてそう思われましたか。（単数回答）

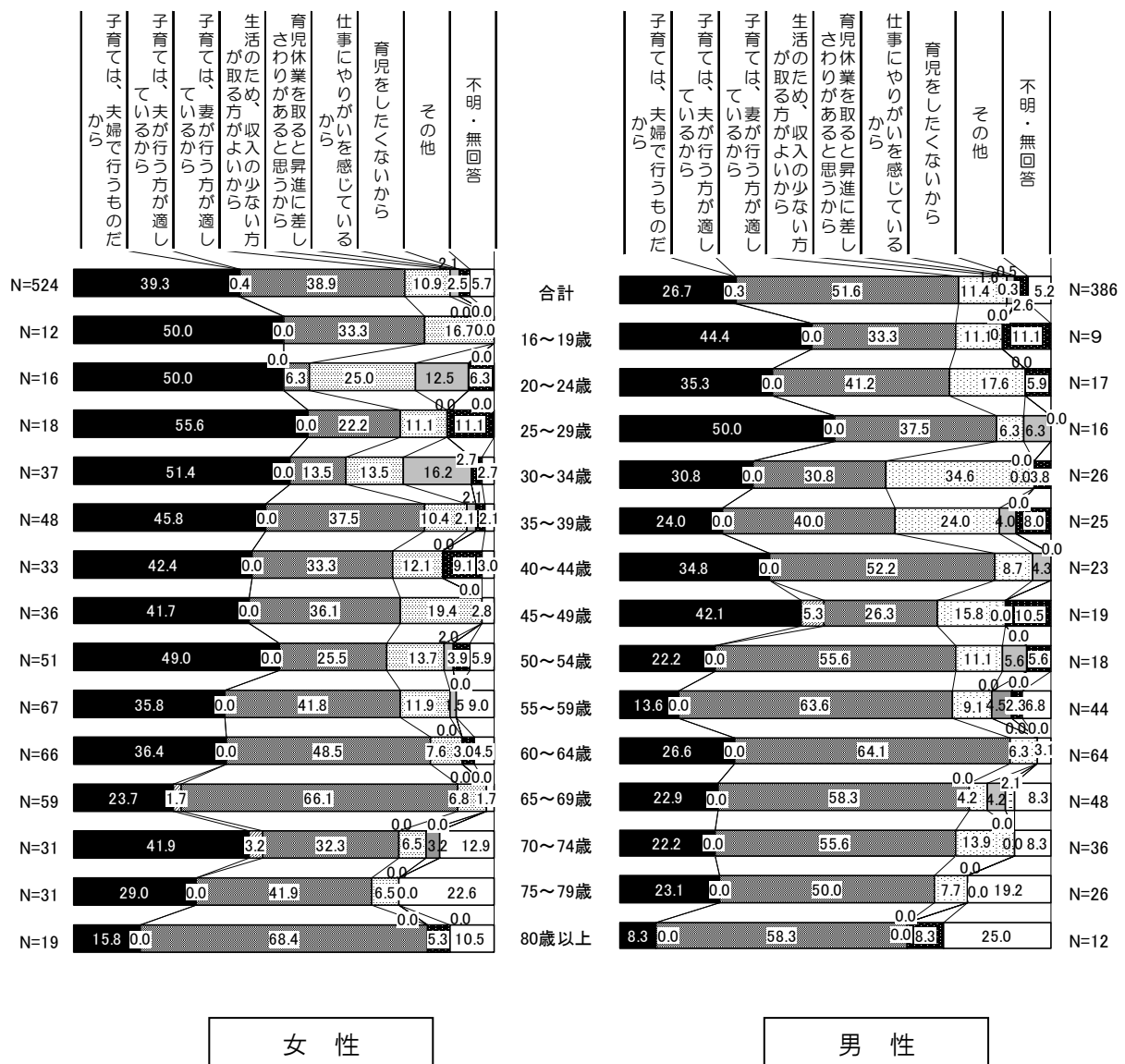
女性	合計	子育ては、夫婦で行うものだから	子育ては、夫が行う方が適しているから	子育ては、妻が行う方が適しているから	生活のため、収入の少ない方が取る方がよいから	育児休業を取ると昇進に差し支わりがあると思うから	仕事にやりがいを感じているから	育児をしたくないから	その他	不明・無回答
どちらかといえば夫が取るのがよい (N=2)	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
どちらかといえば妻が取るのがよい (N=294)	100.0	6.1	0.3	68.7	17.3	3.7	0.0	0.0	2	1.7
夫も妻も同じように取るのがよい (N=194)	100.0	94.3	0.5	0.0	2.1	0.0	0.5	0.0	2.1	0.5
その他 (N=8)	100.0	25.0	0.0	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0	37.5	0.0
不明・無回答 (N=26)	100.0	3.8	0.0	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	92.3

男性	合計	子育ては、夫婦で行うものだから	子育ては、夫が行う方が適しているから	子育ては、妻が行う方が適しているから	生活のため、収入の少ない方が取る方がよいから	育児休業を取ると昇進に差し支わりがあると思うから	仕事にやりがいを感じているから	育児をしたくないから	その他	不明・無回答
どちらかといえば夫が取るのがよい (N=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
どちらかといえば妻が取るのがよい (N=258)	100.0	2.7	0.4	76.7	15.5	2.3	0.4	0.4	1.2	0.4
夫も妻も同じように取るのがよい (N=101)	100.0	93.1	0.0	1.0	3.0	0.0	1.0	0.0	1.0	1.0
その他 (N=8)	100.0	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0
不明・無回答 (N=19)	100.0	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	94.7

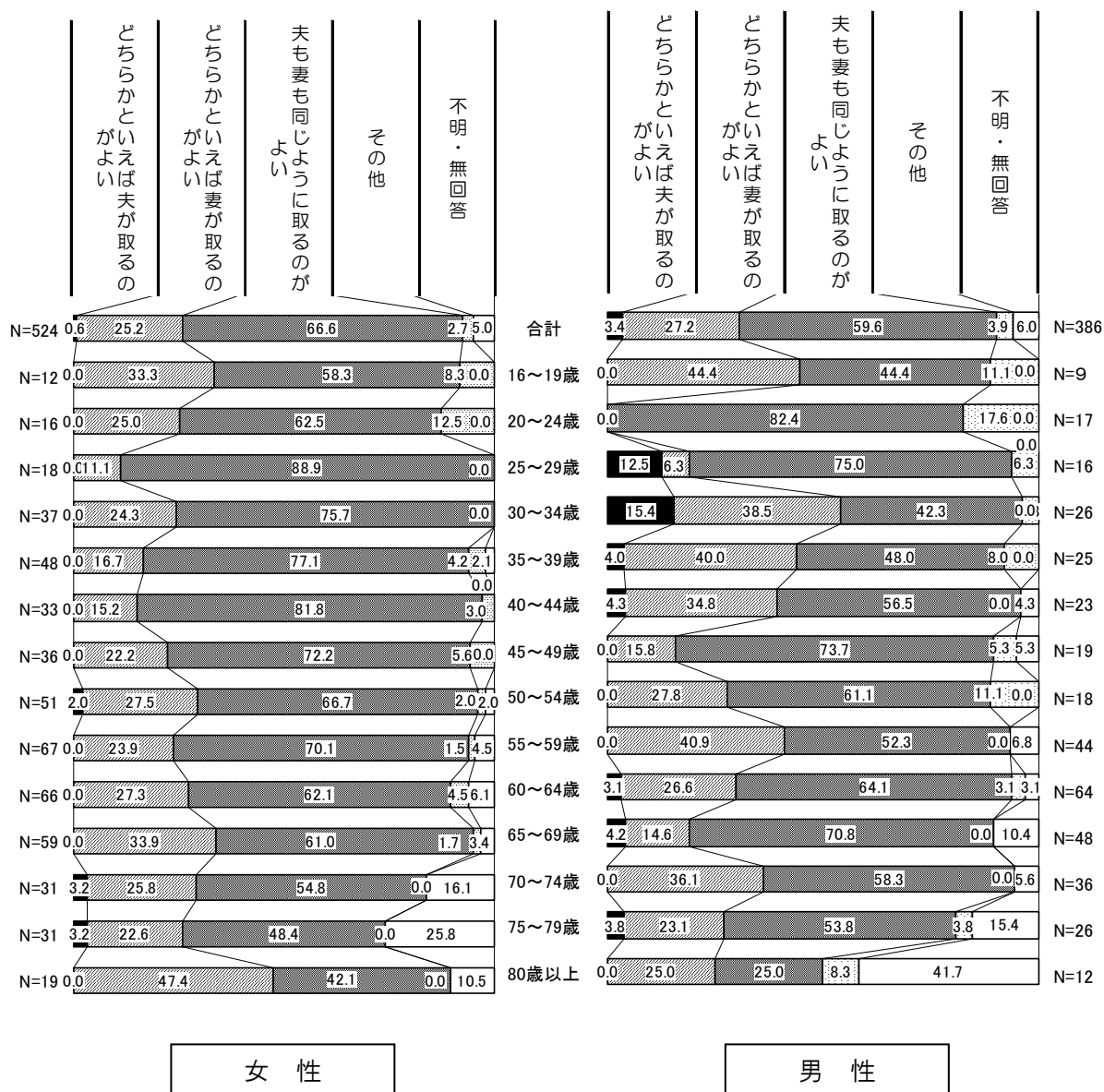
●「夫も妻も同じように取るのがよい」と回答した理由では、「子育ては、夫婦で行うものだから」が男女ともに9割を超えている

育児休業の取り方についてそう思った理由では、女性では「どちらかといえば妻が取るのがよい」と回答した理由では「子育ては、妻が行う方が適しているから」が68.7%、「夫も妻も同じように取るのがよい」と回答した理由では「子育ては、夫婦で行うものだから」が94.3%とそれぞれ最も多くなっている。男性では、「どちらかといえば妻が取るのがよい」と回答した理由では「子育ては、妻が行う方が適しているから」が76.7%、「夫も妻も同じように取るのがよい」と回答した理由では「子育ては、夫婦で行うものだから」が93.1%とそれぞれ最も多くなっている。

■理由(年齢階層別)



問 1 6 家庭で介護が必要なとき、共働き夫婦が介護休業を取るとしたらどうするのがよいと思いますか。(単数回答)



●男女とも「夫も妻も同じように取るのがよい」が最多

介護休業の取り方について、女性では「夫も妻も同じように取るのがよい」が66.6%と最も多く、次いで「どちらかといえば妻が取るのがよい」が25.2%となっている。男性では、「夫も妻も同じように取るのがよい」が59.6%と最も多く、次いで「どちらかといえば妻が取るのがよい」が27.2%となっており、男女とも意識に大きな違いは見られない。

問 16 介護休業の取り方について、どうしてそう思われましたか。(単数回答)

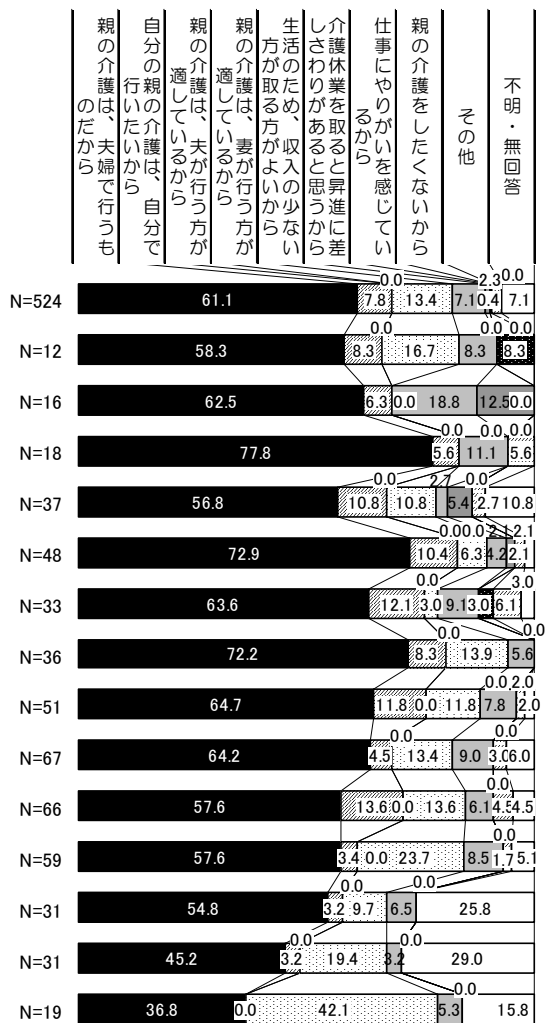
女性	合計	親の介護は、夫婦で行うものだから	自分の親の介護は、自分で行いたいから	親の介護は、夫が行う方が適しているから	親の介護は、妻が行う方が適しているから	生活のため、収入の少ない方が取る方がよいから	介護休業を取ると昇進に差し支わりがあると思うから	仕事にやりがいを感じているから	親の介護をしたくないから	その他	不明・無回答
どちらかといえば夫が取るのがよい(N=3)	100.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
どちらかといえば妻が取るのがよい(N=132)	100.0	6.8	10.6	0.0	50.0	22.7	3.8	0.0	0.0	0.8	5.3
夫も妻も同じように取るのがよい(N=349)	100.0	88.0	6.9	0.0	1.1	1.1	0.0	0.0	0.3	1.4	1.1
その他(N=14)	100.0	21.4	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	7.1	42.9	0.0
不明・無回答(N=26)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	96.2

男性	合計	親の介護は、夫婦で行うものだから	自分の親の介護は、自分で行いたいから	親の介護は、夫が行う方が適しているから	親の介護は、妻が行う方が適しているから	生活のため、収入の少ない方が取る方がよいから	介護休業を取ると昇進に差し支わりがあると思うから	仕事にやりがいを感じているから	親の介護をしたくないから	その他	不明・無回答
どちらかといえば夫が取るのがよい(N=13)	100.0	15.4	30.8	38.5	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	7.7	0.0
どちらかといえば妻が取るのがよい(N=105)	100.0	6.7	3.8	1.9	58.1	22.9	1.9	1.0	0.0	1.0	2.9
夫も妻も同じように取るのがよい(N=230)	100.0	86.1	5.2	0.4	0.9	1.7	0.4	0.4	0.4	2.2	2.2
その他(N=15)	100.0	20.0	13.3	0.0	0.0	13.3	0.0	0.0	13.3	40.0	0.0
不明・無回答(N=23)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	95.7

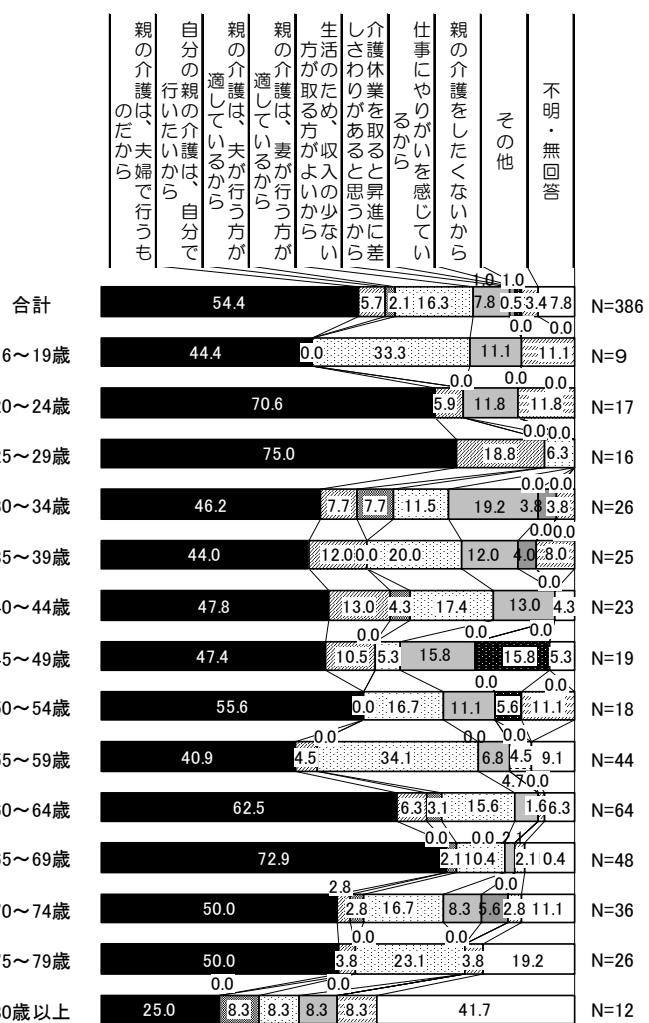
●「夫も妻も同じように取るのがよい」と回答した理由では、「親の介護は、夫婦で行うものだから」と男女ともに9割近くが回答

介護休業の取り方についてそう思った理由では、「どちらかといえば妻が取るのがよい」と回答した理由では「親の介護は、妻が行う方が適しているから」が女性では50.0%、男性では58.1%とそれぞれ最も多くなっており、「夫も妻も同じように取るのがよい」と回答した理由では「親の介護は、夫婦で行うものだから」が女性では88.0%、男性では86.1%とそれぞれ最も多くなっている。「どちらかといえば夫が取るほうがよい」と回答した理由では「親の介護は、夫が行う方が適しているから」と男性の回答で最も多い。

■理由(年齢階層別)



女 性

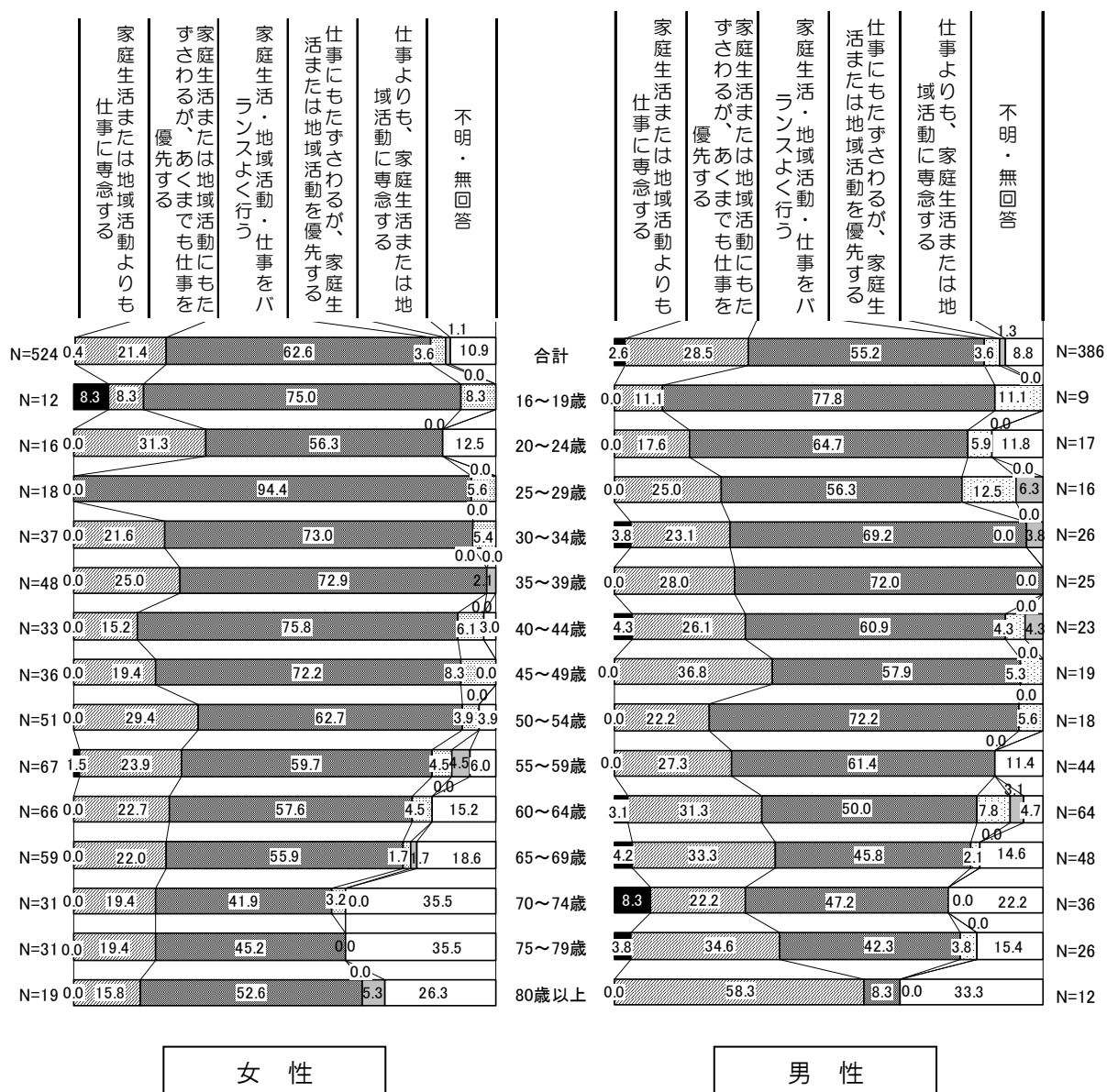


男 性

7. 家庭生活と地域活動について

(1) 家庭生活・地域活動について

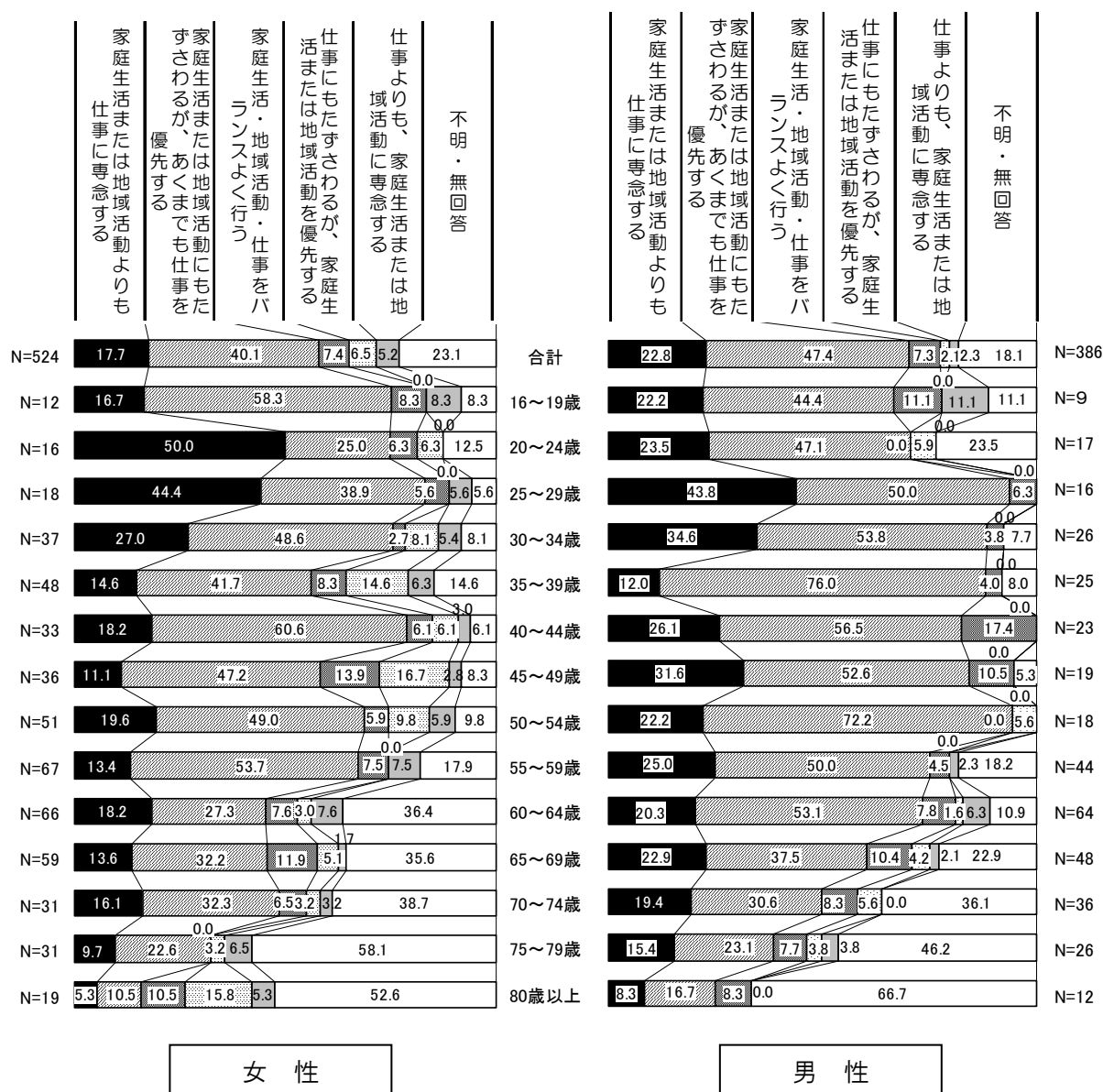
問17 仕事との関係において、あなたは家庭生活または自治会やPTA活動などの地域活動をどのように位置づけるのが望ましいと思いますか。(理想)(単数回答)



●理想では、「家庭生活・地域活動・仕事をバランスよく行う」が男女ともに最多

仕事と地域活動との関係についての理想では、男女ともに「家庭生活・地域活動・仕事をバランスよく行う」が女性では62.6%、男性では55.2%と最も多くなっている。また、男性では年齢階層が上がるにつれ「家庭生活または地域活動にもたずさわるが、あくまでも仕事を優先する」の割合が増加している。

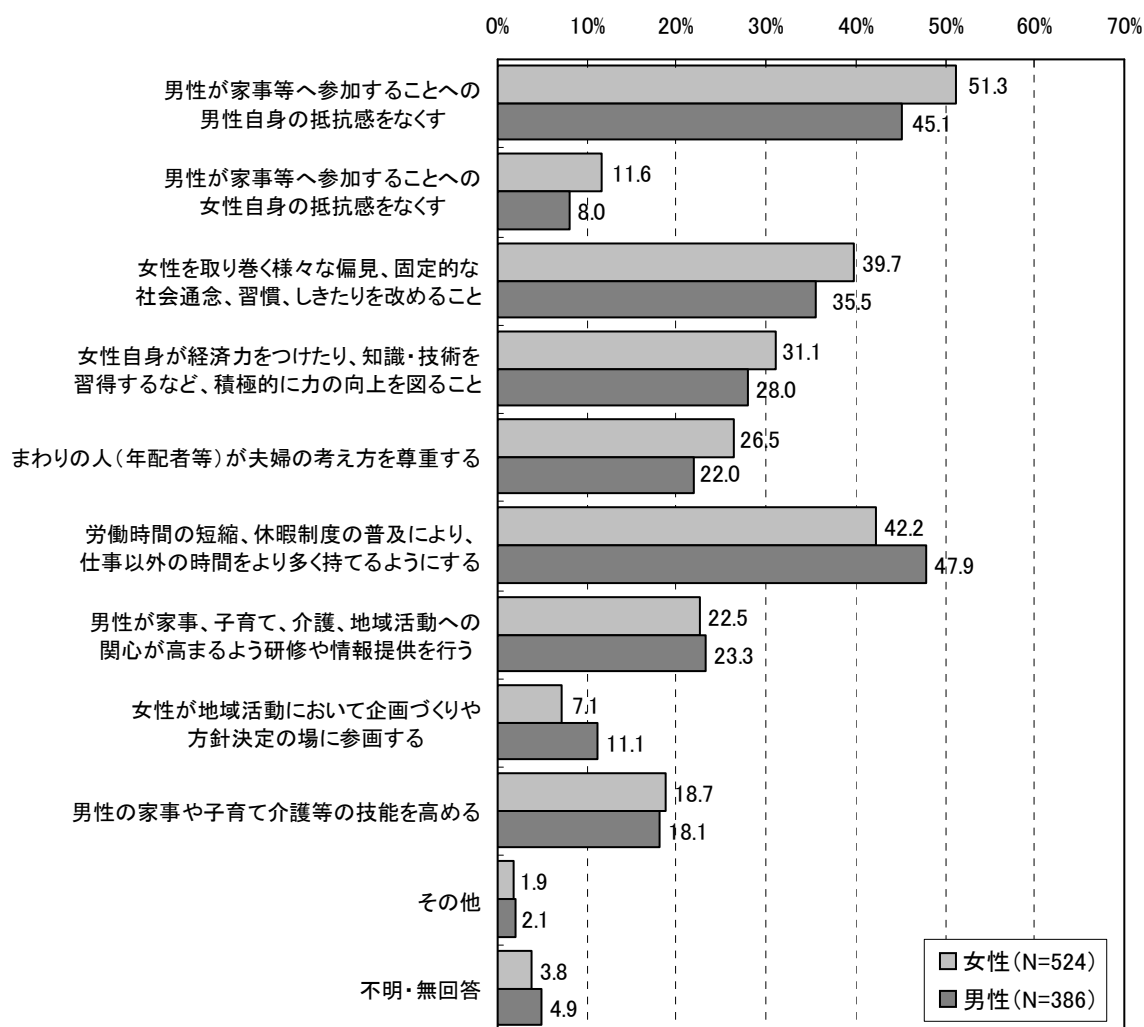
問 1 7 仕事との関係において、あなたは家庭生活または自治会やPTA活動などの地域活動をどのように位置づけていますか。(現実)(単数回答)



●現実では、「家庭生活または地域活動にもたずさわるが、あくまでも仕事を優先する」が男女とも最も多い

仕事と地域活動との現実の関係では、男女ともに「家庭生活または地域活動にもたずさわるが、あくまでも仕事を優先する」が最も多くなっている。また、「家庭生活または地域活動よりも仕事に専念する」と「家庭生活または地域活動にもたずさわるが、あくまでも仕事を優先する」を合わせた割合は、女性で57.8%、男性で70.2%となっている。

問 18 あなたは、男女がともに家事、子育て、介護、地域活動など、あらゆる分野に積極的に参加していくために、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)



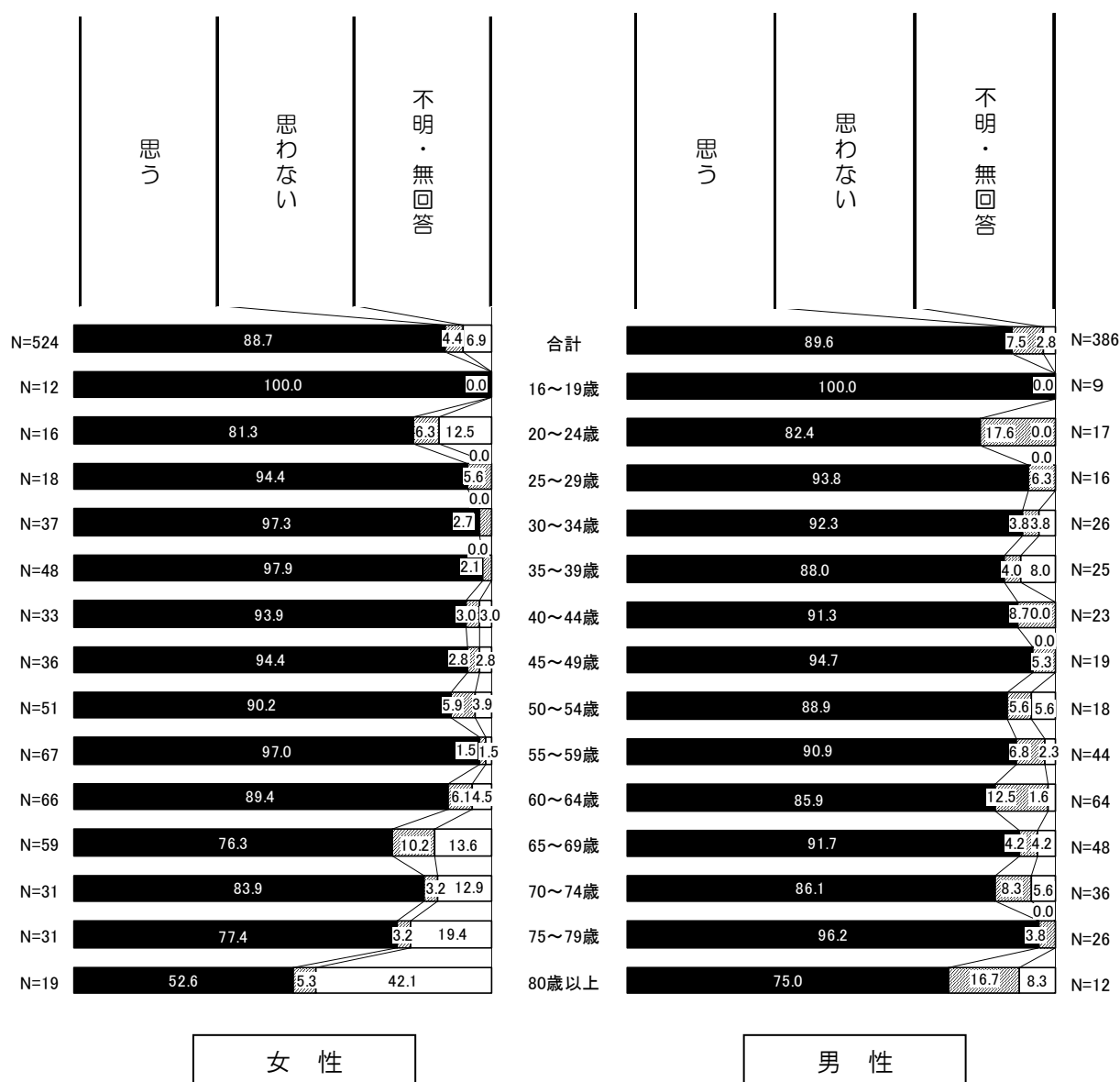
●男女とも「労働時間の短縮、休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が上位となっている

男女がともに家事、子育て、介護、地域活動など、あらゆる分野に積極的に参加していくために必要なことについて、女性では「男性が家事等へ参加することへの男性自身の抵抗感をなくす」が51.3%と最も多く、次いで「労働時間の短縮、休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が42.2%、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、習慣、しきたりを改めること」が39.7%となっている。男性では「労働時間の短縮、休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにする」が47.9%と最も多く、次いで「男性が家事等へ参加することへの男性自身の抵抗感をなくす」が45.1%、女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、習慣、しきたりを改めること」が35.5%となっている。

8. 性と人権について

(1) セクハラ、DVについての意識

問19 セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスは、男女互いの性に対する人権侵害だと思いますか。(単数回答)

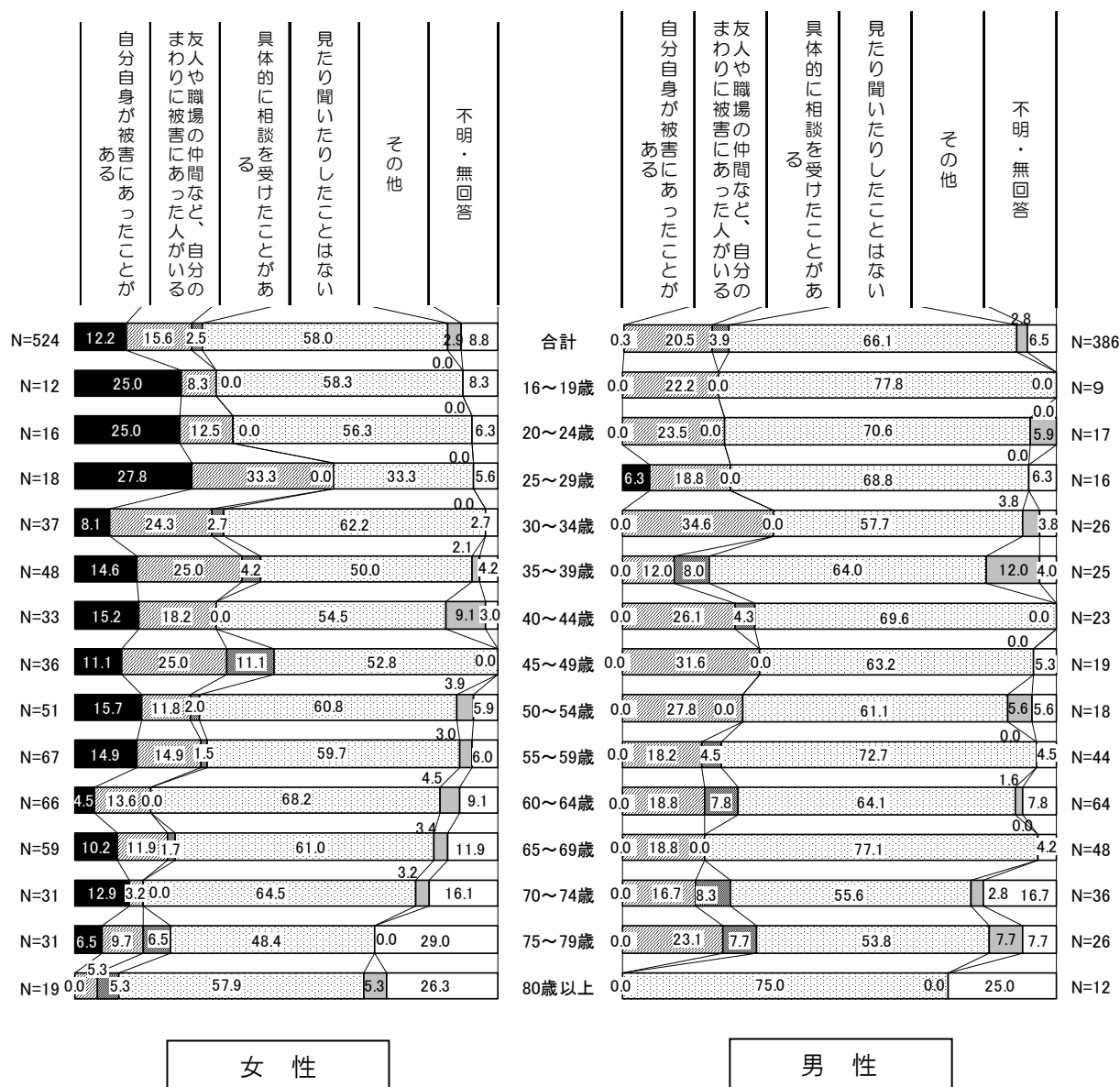


●男女とも9割近くが「男女互いの性に対する人権侵害だと思う」と回答

セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスは、男女互いの性に対する人権侵害だと思うかでは、女性の88.7%、男性の89.6%が「思う」と回答している。

(2) セクハラ、DV被害の経験について

問20 あなたやあなたのまわりの方が学校・職場・地域活動等でセクシュアル・ハラスメント(セクハラ、性的嫌がらせ)の被害にあわれたことがありますか。
(単数回答)

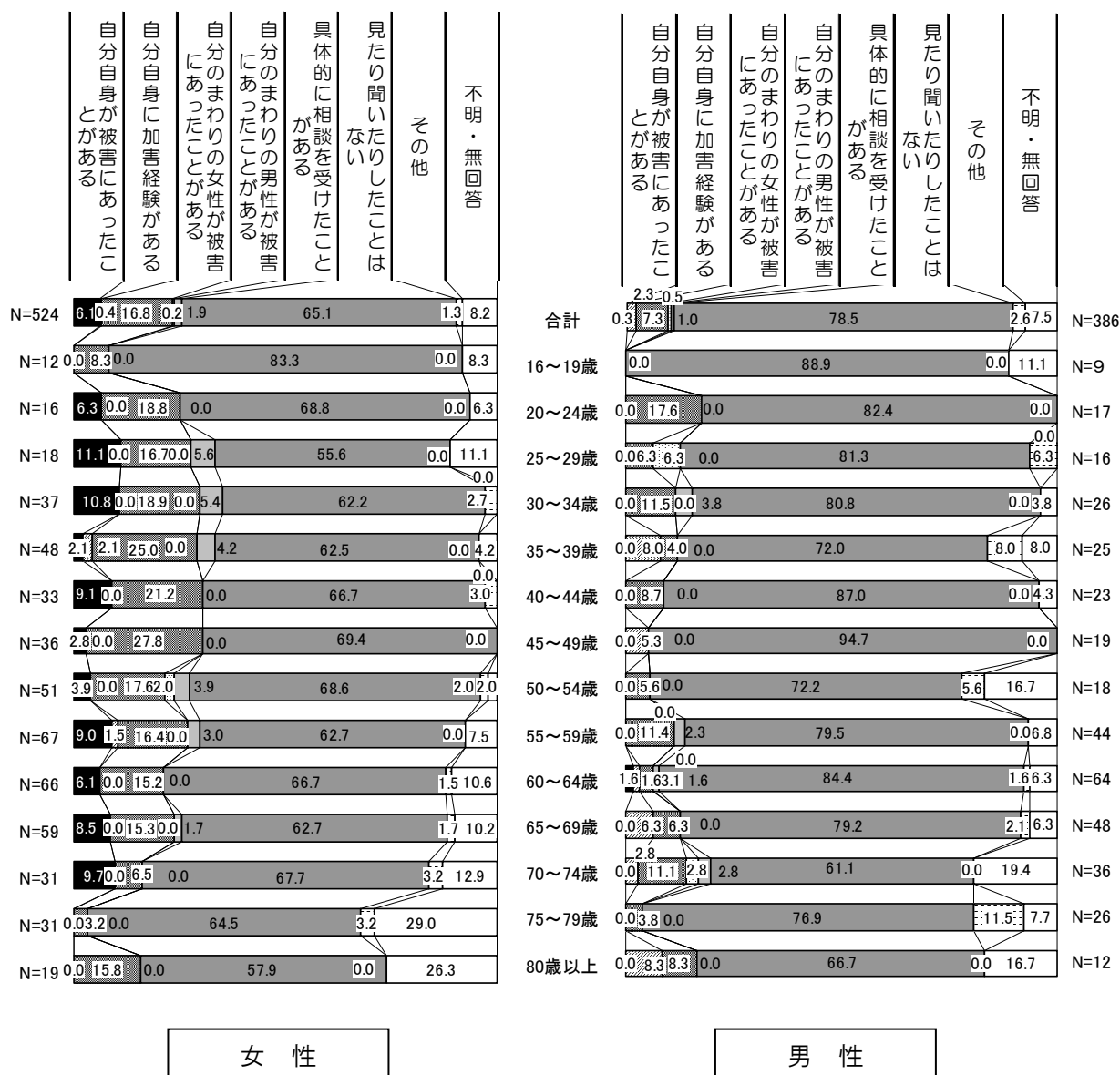


●周囲で何らかのセクシュアル・ハラスメントにあった割合は、女性では3割

本人やまわりの方のセクシュアル・ハラスメント(セクハラ、性的嫌がらせ)の被害経験については、女性の12.2%が「自分自身が被害にあったことがある」と回答している。また、「自分自身が被害にあったことがある」「友人や職場の仲間など、自分のまわりに被害にあった人がいる」「具体的に相談を受けたことがある」を合わせた、周囲に何らかのセクシュアル・ハラスメントがあった割合は、女性で30.3%、男性で24.7%となっており、特に、女性の20歳代後半では、6割を超えている。

「ない」と回答した人の割合は、女性58.0%、男性66.1%で、すべての年齢階層で最も多くなっている。

問 2 1 ドメスティック・バイオレンス（DV）の被害者は女性である場合が多いのですが、あなたやあなたのまわりの方が DV の被害にあわれたことがありますか。（単数回答）

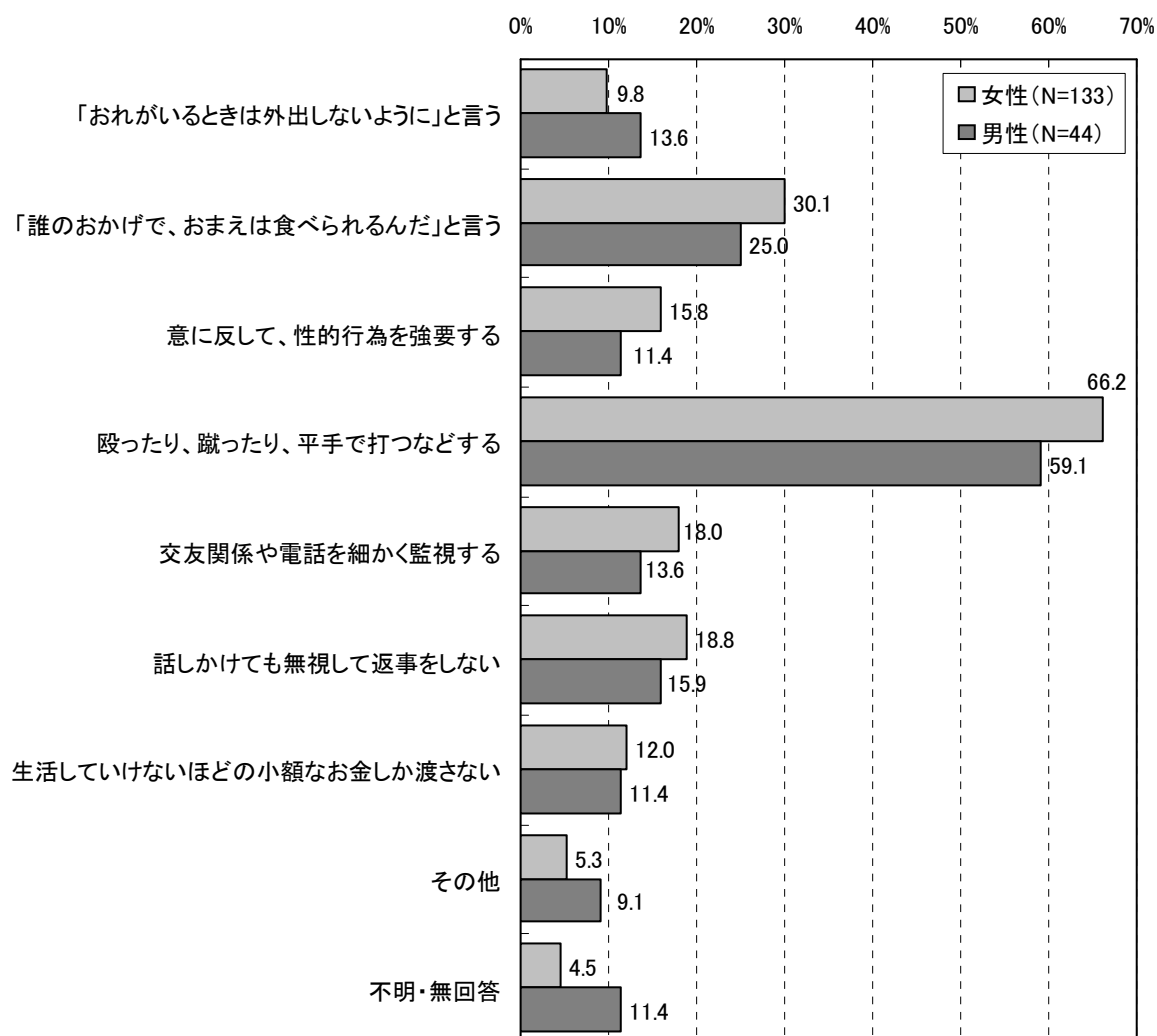


●周囲で何らかのドメスティック・バイオレンスにあった割合は、女性では 4 人に 1 人

本人やまわりの方のドメスティック・バイオレンス（DV）の被害経験については、男女とも「見たり聞いたりしたことはない」が女性で 65.1%、男性の 78.5%と最も多くなっている。

「自分自身が被害にあったことがある」「自分自身に加害経験がある」「自分のまわりの女性が被害にあったことがある」「自分のまわりの男性が被害にあったことがある」「具体的に相談を受けたことがある」を合わせた、周囲に何らかのドメスティック・バイオレンスがあった割合は、女性で 25.4%、男性で 11.4%となっている。

問 2 2 周囲に何らかのドメスティック・バイオレンスがあった方だけに質問します。
あなたが経験したり見聞きしたドメスティック・バイオレンス（DV）はどの
ような内容ですか。（複数回答）

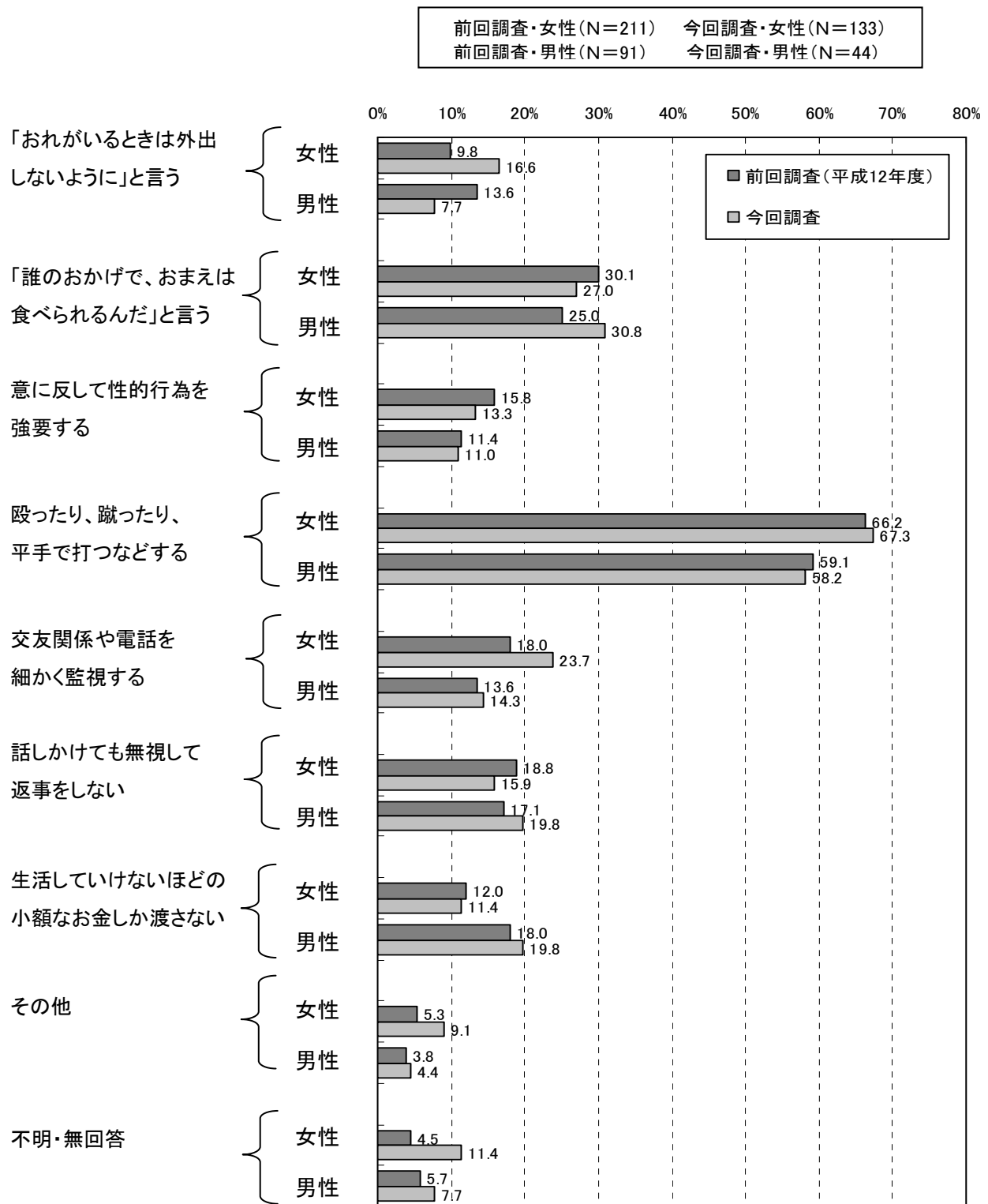


●男女ともに「殴ったり、蹴ったり、平手で打つなどする」身体的なものが最多

経験したり見聞きしたドメスティック・バイオレンスの内容については、男女ともに「殴ったり、蹴ったり、平手で打つなどする」身体的なものが最も多くなっており、次いで『誰のおかげで、おまえは食べられるんだ』と言う」といった言葉的なもの、「話しかけても無視して返事をしない」といった精神的なものが続いている。

前回（平成12年度）調査との比較

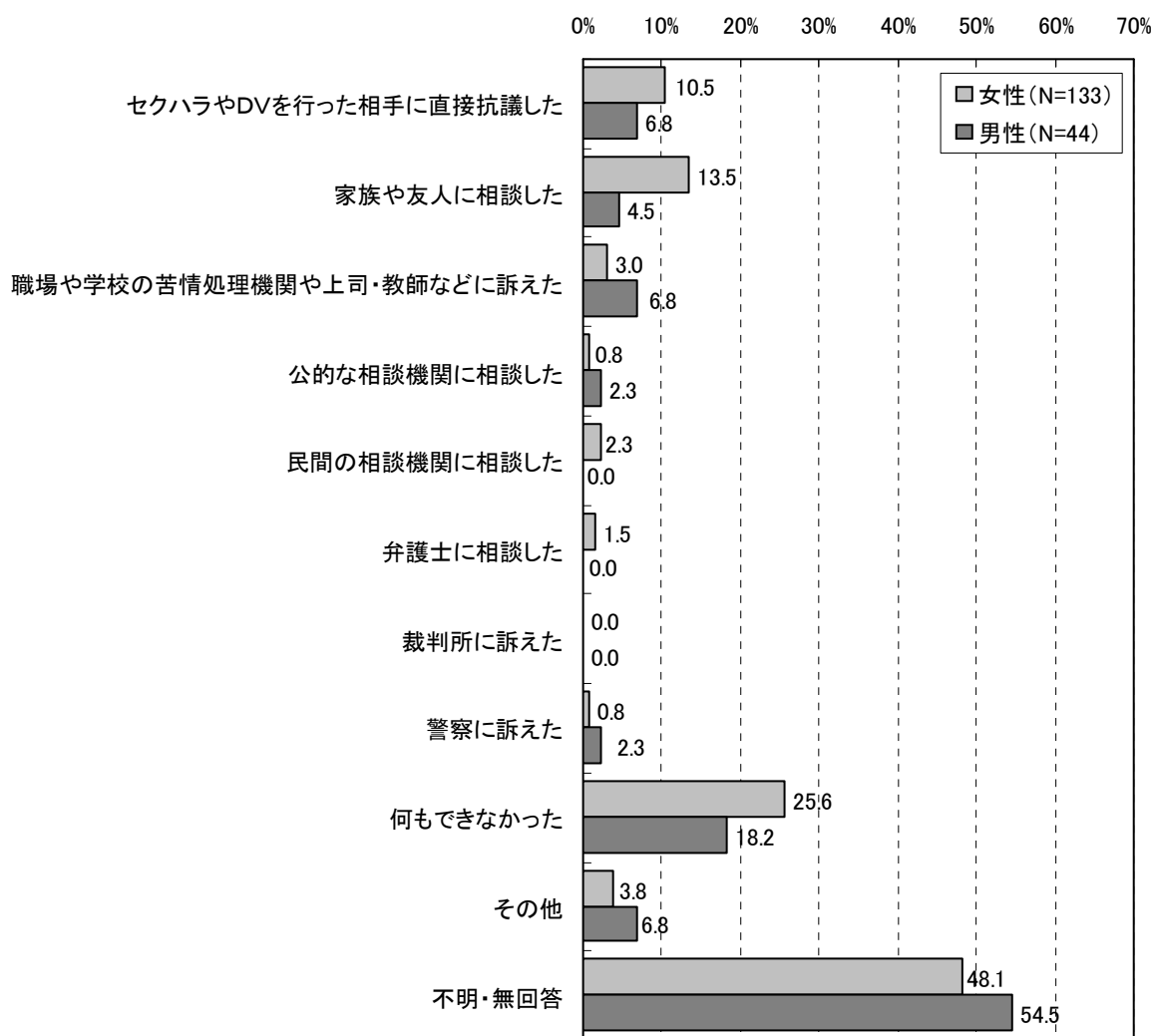
経験したり見聞きしたドメスティック・バイオレンス（DV）の内容



●前回調査と同様の傾向となっている

前回調査と今回調査とも、男女ともに「殴ったり、蹴ったり、平手で打つなどする」が最も多く、女性では6割を超え、男性でも6割近くとなっており、前回調査と同様の傾向となっている。

問 2 3 （セクシュアル・ハラスメント）あなた自身やまわりの方がセクハラやDVの被害にあわれた経験のある方に質問します。
あなたやあなたのまわりの方がセクシュアル・ハラスメント被害にあわれたとき、あなたはどのような対応しましたか。（複数回答）

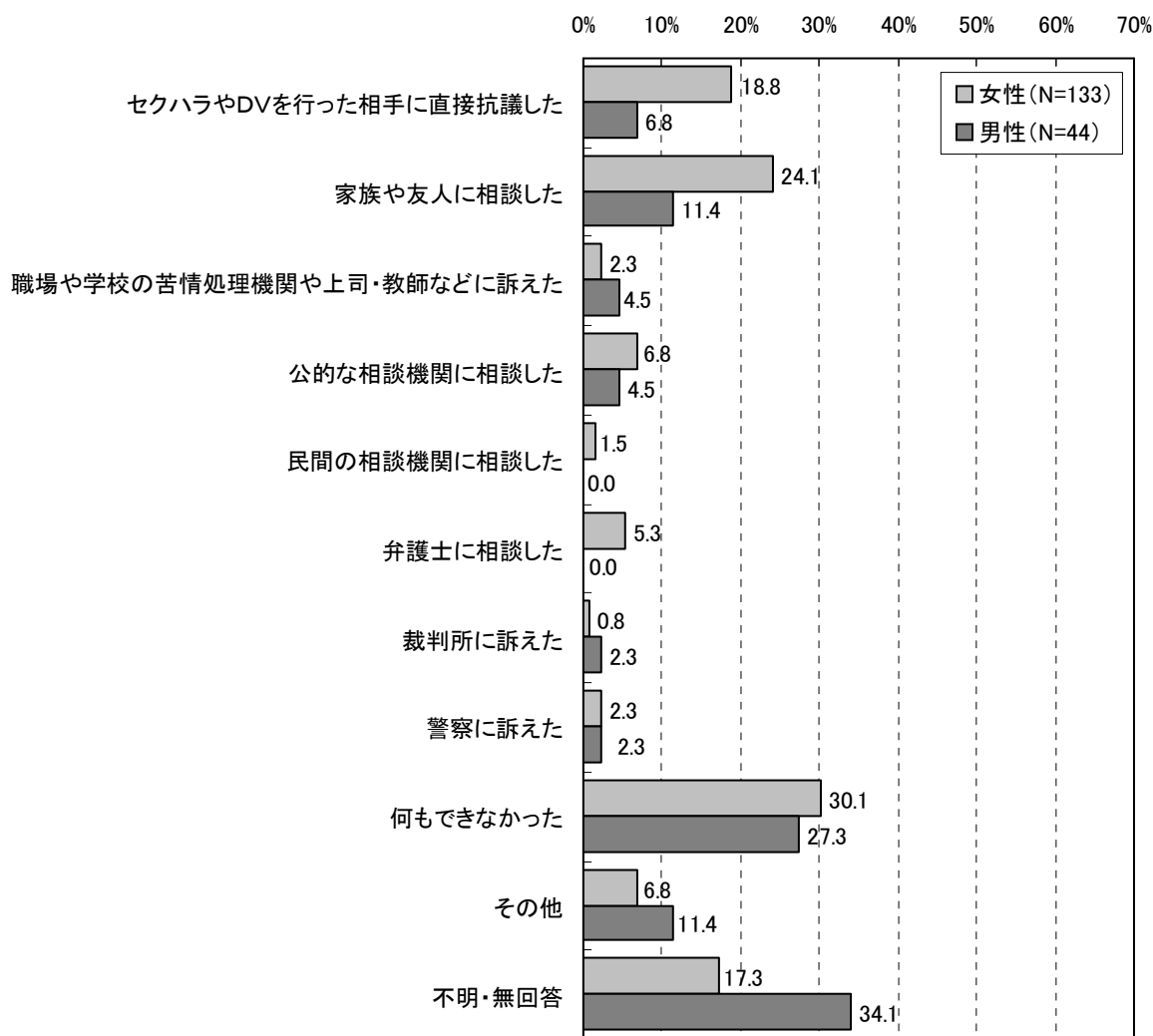


●男女ともに「何もできなかった」が多い

セクシュアル・ハラスメント被害にあったときの対応では、男女ともに「何もできなかった」が最も多くなっている。

また、「裁判所に訴えた」は男女ともに 0.0%、「警察に訴えた」「公的な機関に相談した」は女性では 0.8%、男性では 2.3%であり、公的な機関に対応を求めることは非常に少なくなっている。

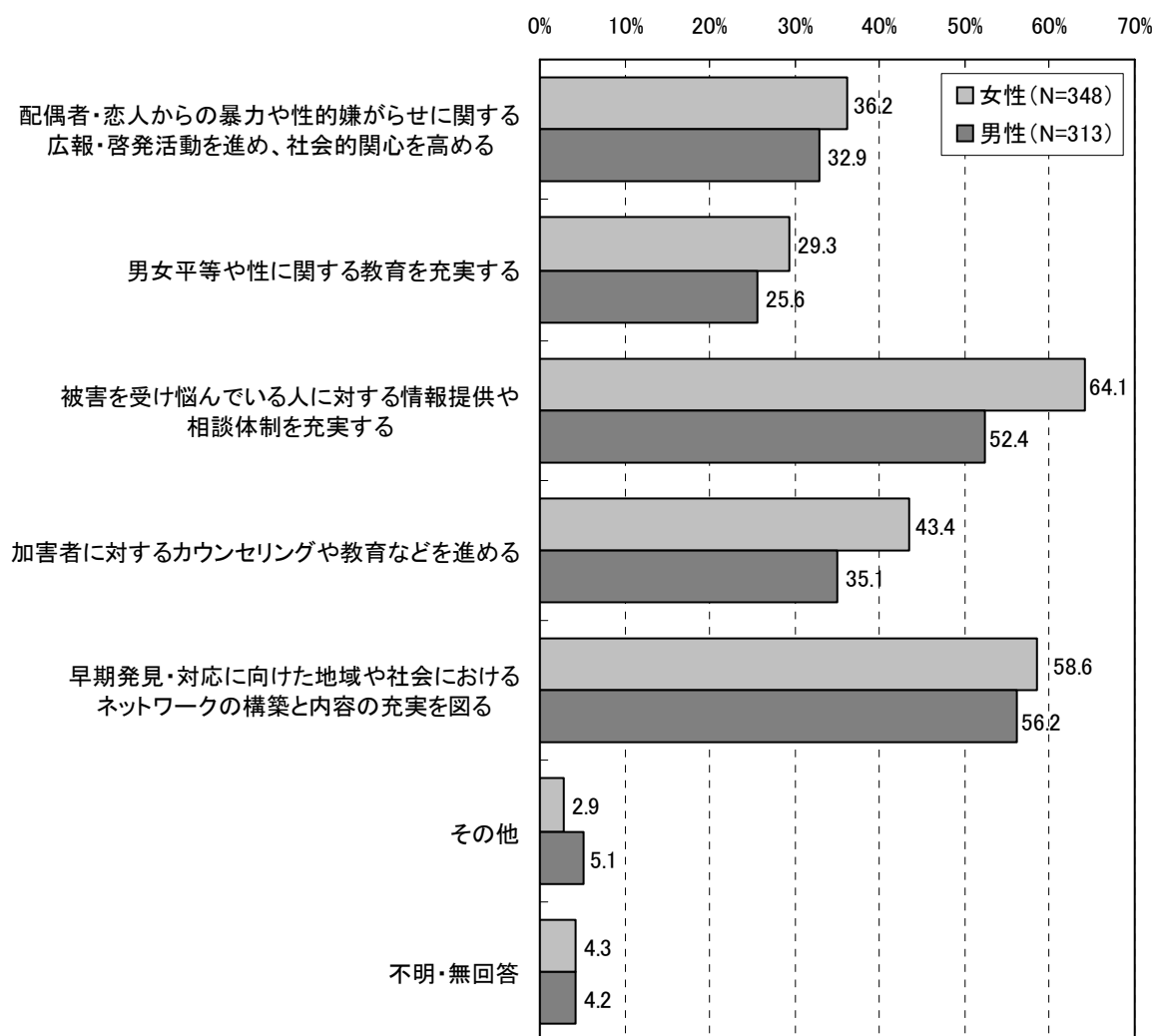
問 2 3 (DV) あなた自身やまわりの方がセクハラやDVの被害にあわれた経験のある方に質問します。
 あなたやあなたのまわりの方がドメスティック・バイオレンスの被害にあわれたとき、あなたはどのような対応しましたか。(複数回答)



●男女ともに「何もできなかった」が最多

ドメスティック・バイオレンス被害にあった時の対応では、男女ともに「何もできなかった」が最も多くなっており、次いで「家族や友人に相談した」、「セクハラやDVを行った相手に直接抗議した」と続いている。

問 2 4 セクハラやDVをなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)



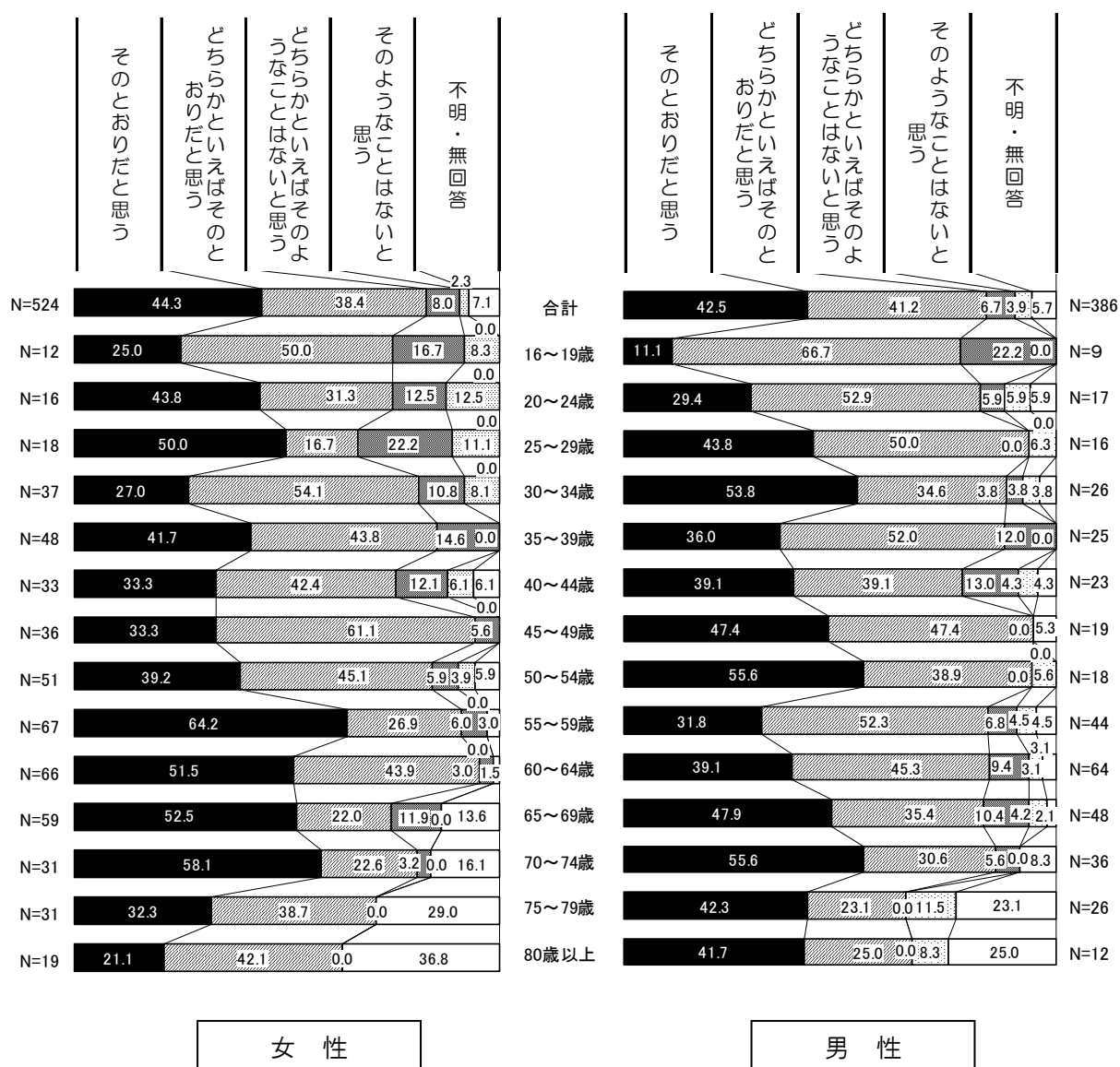
●女性では「被害を受け悩んでいる人に対する情報提供や相談体制を充実する」が最多、男性では「早期発見・対応に向けた地域や社会におけるネットワークの構築と内容の充実を図る」が最多

セクハラやDVをなくすために必要だと思うことについて、女性では「被害を受け悩んでいる人に対する情報提供や相談体制を充実する」が64.1%と最も多く、次いで「早期発見・対応に向けた地域や社会におけるネットワークの構築と内容の充実を図る」が58.6%、「加害者に対するカウンセリングや教育などを進める」が43.4%となっている。男性では「早期発見・対応に向けた地域や社会におけるネットワークの構築と内容の充実を図る」が56.2%と最も多く、次いで「被害を受け悩んでいる人に対する情報提供や相談体制を充実する」が52.4%、「加害者に対するカウンセリングや教育などを進める」が35.1%となっている。

(3) メディアの中の性表現について

問 2 5 テレビ、新聞、雑誌や出版物、インターネットなどのメディア（広告を含む）における、性（セックス）に関する表現について、あなたはどのように考えますか。（単数回答）

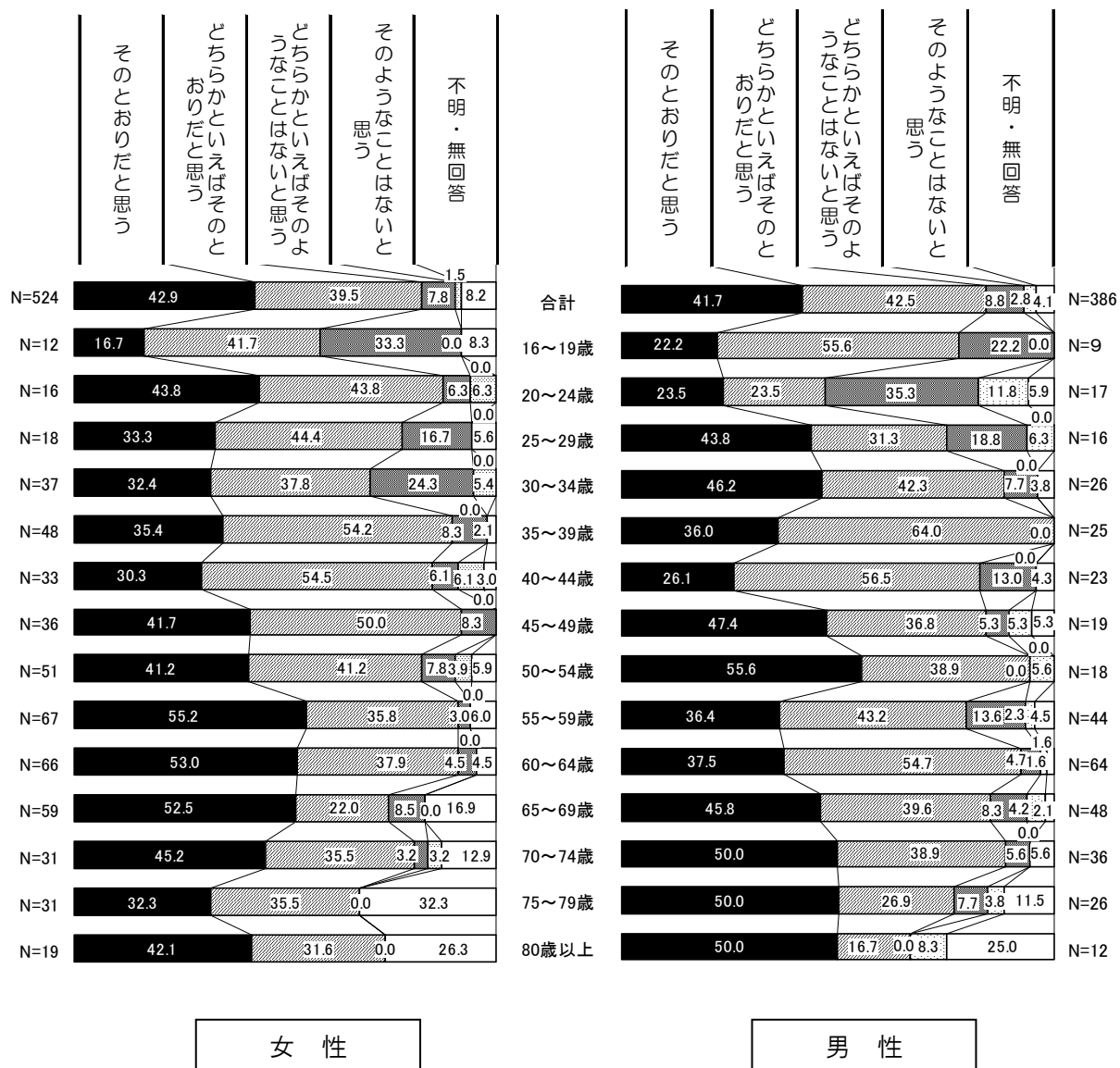
(1) 女性の身体・姿態が強調され商品化した表現が多い



●男女とも、肯定的な意見が8割を超えている

各メディアにおいて女性の身体・姿態が強調され商品化した表現が多いと思うかについて、「そのとおりだと思う」「どちらかといえばそのとおりだと思う」を合わせた割合は、女性で82.7%、男性で83.7%となっている。

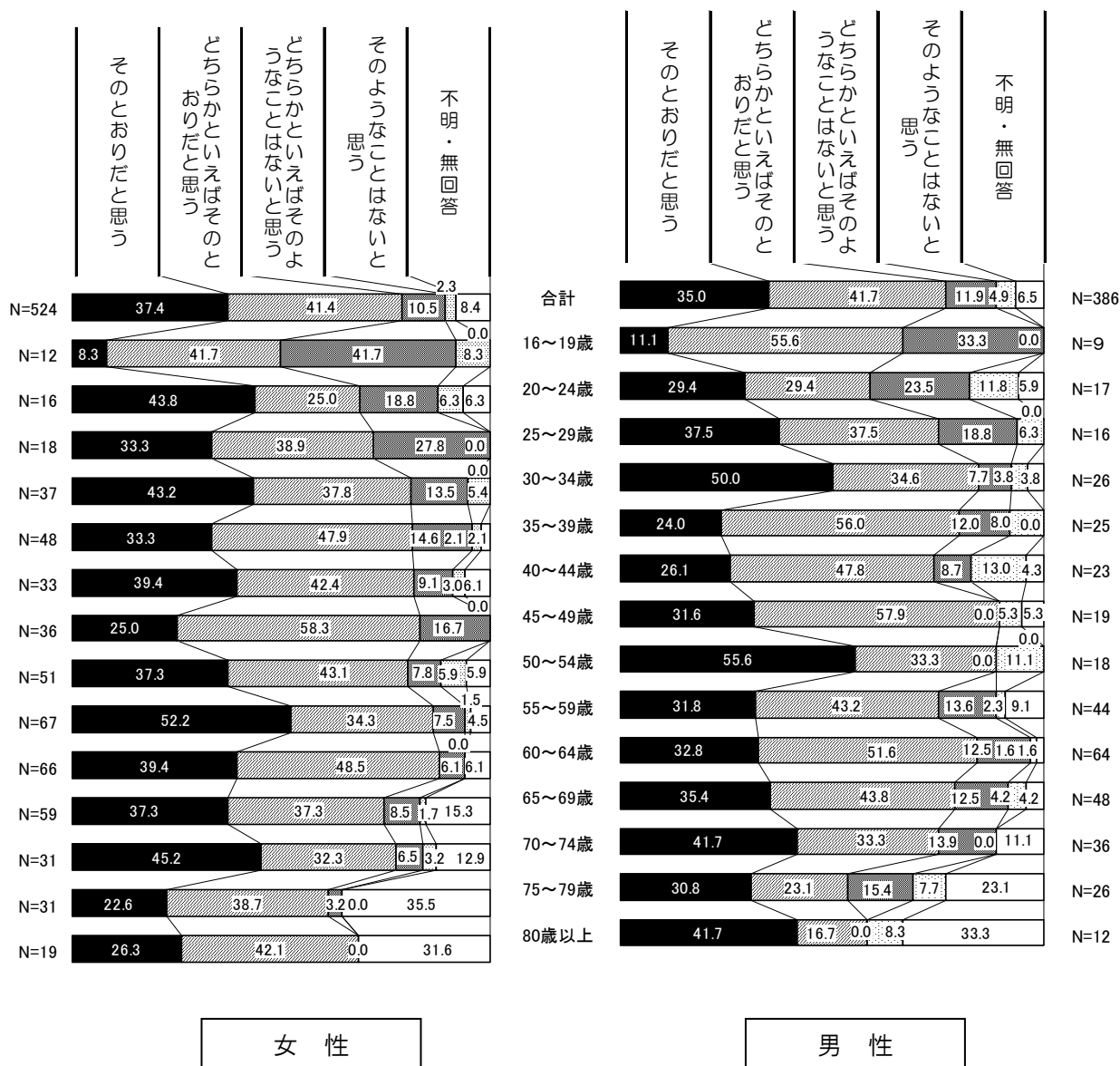
(2) 社会全体の性に関する道德観・倫理観を損なっている



●男女とも「そのとおりだと思う」は4割を超え、肯定的な意見は8割を超えている

各メディアによって社会全体の性に関する道德観・倫理観を損なっていると思うかについて、「そのとおりだと思う」「どちらかといえばそのとおりだと思う」を合わせた割合は、女性で82.4%、男性で84.2%となっている。

(3) 女性に対する犯罪を助長するおそれがある

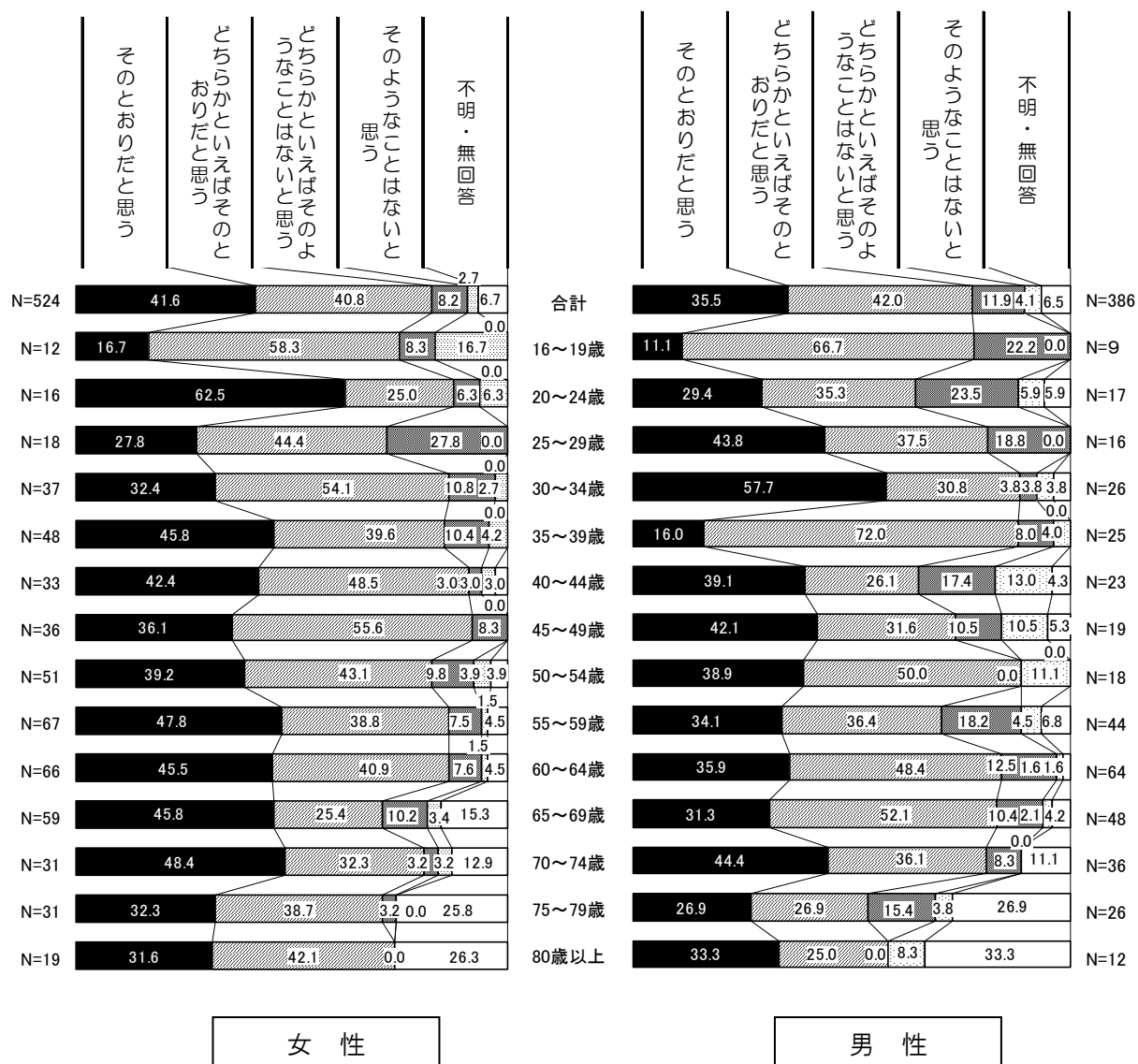


●男女ともに、8割近くが肯定的な意見

各メディアによって女性に対する犯罪を助長するおそれがあると思うかについて、「そのとおりだと思う」「どちらかといえばそのとおりだと思う」を合わせた割合は、女性で78.8%、男性で76.7%となっている。どの世代においても同じ傾向を示している。

また、どの年齢階層においても、同様の傾向を示している。

(4) 子どもが性についてゆがんだ意識を持ちやすい

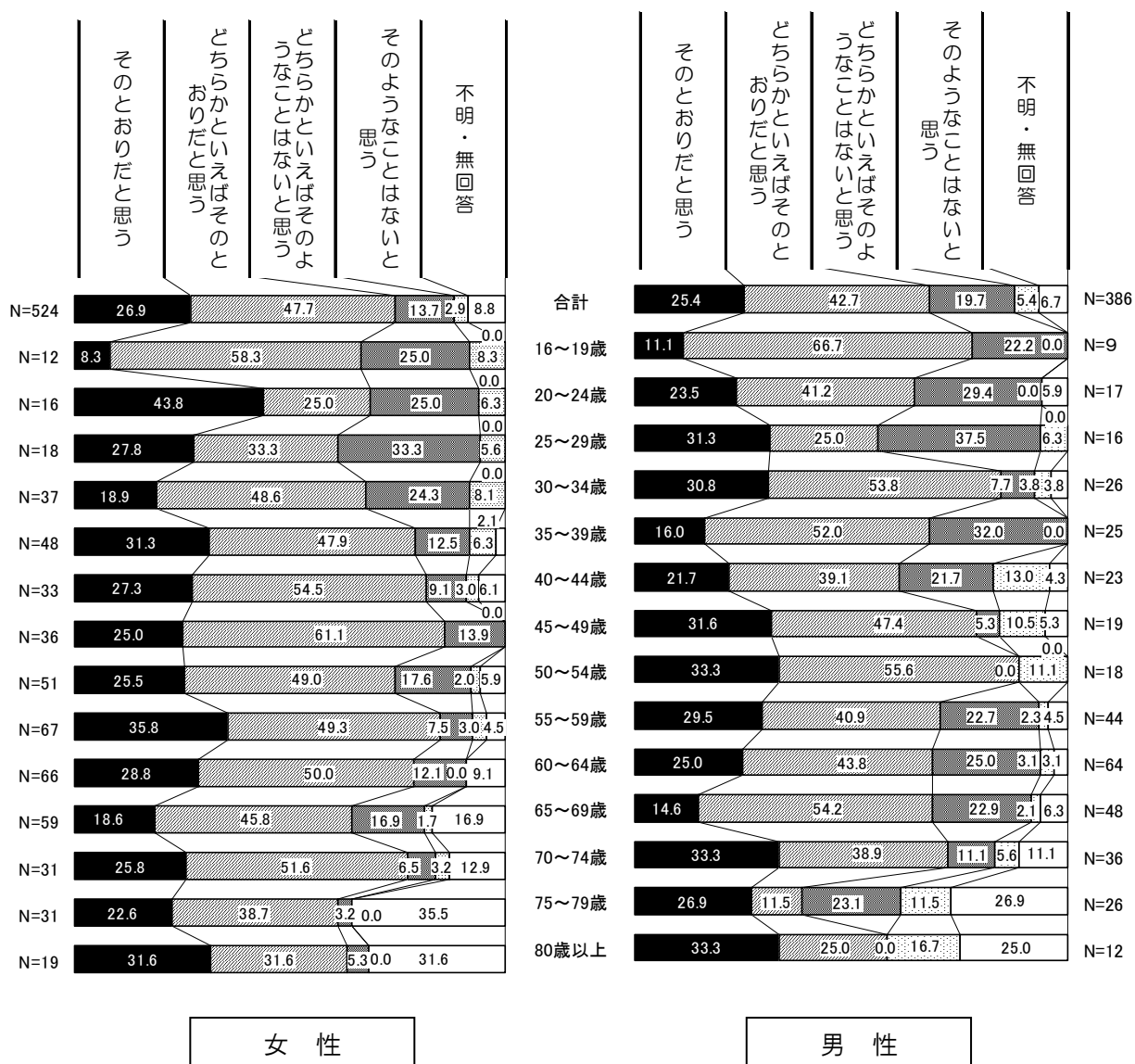


●肯定的な意見は、男性では8割近く、女性では8割を超えている

各メディアによって子どもが性についてゆがんだ意識を持ちやすいと思うかについて、「そのとおりだと思う」「どちらかといえばそのとおりだと思う」を合わせた割合は、女性で82.4%、男性で77.5%となっている。

また、どの年齢階層においても大きな変化は見られない。

(5) 女性や男性に対する偏ったイメージを定着させている



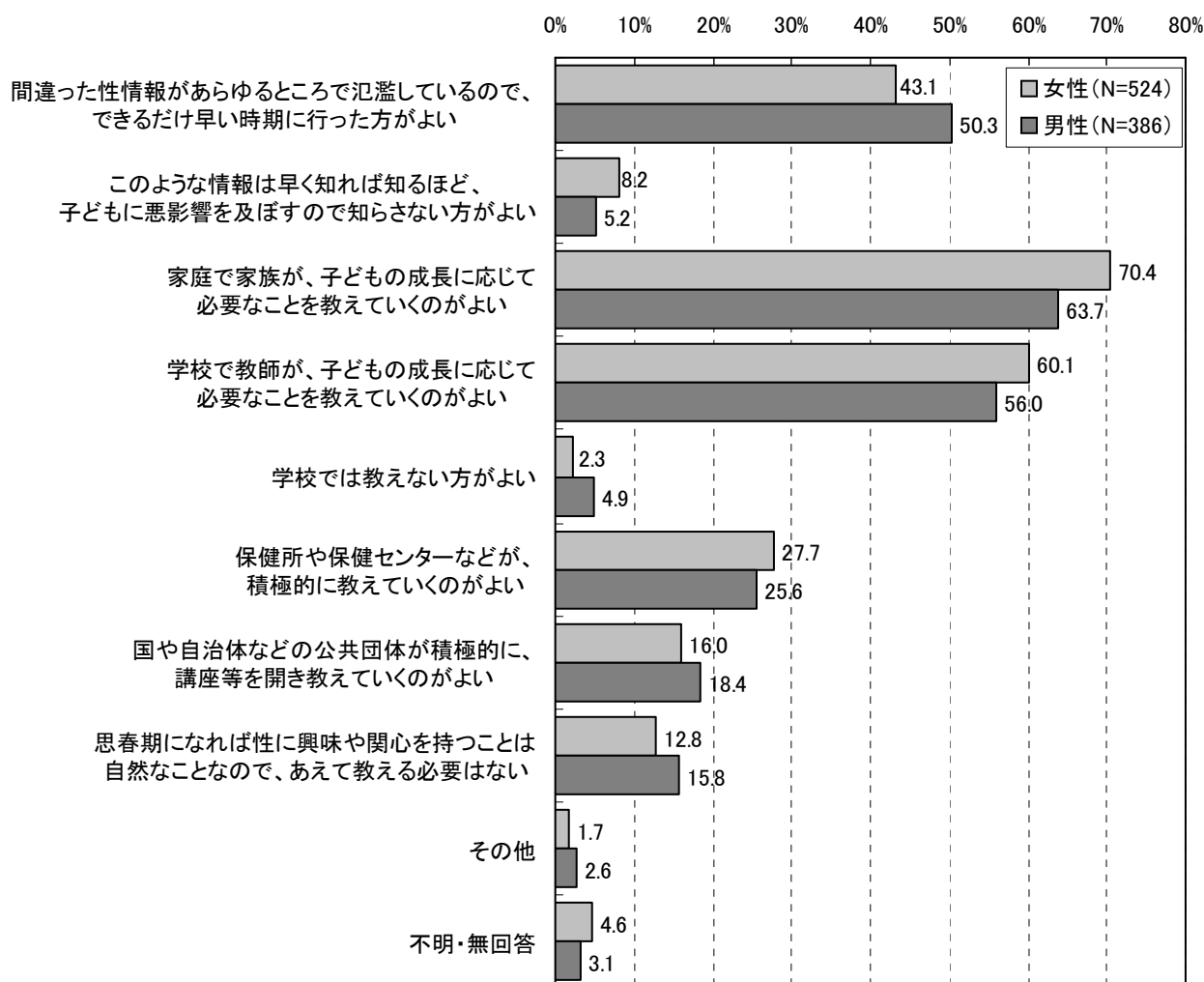
●肯定的な意見は、男性では7割近く、女性では7割を超えている

各メディアが女性や男性に対する偏ったイメージを定着させていると思うかについて、「そのとおりだと思う」「どちらかといえばそのとおりだと思う」を合わせた割合は、女性で74.6%、男性で68.1%となっている。

また、女性はその年齢階層にも変化はないが、男性では年齢階層によってばらつきが見られる。

(4) 子どもへの性教育について

問26 現在、10歳代の子どもたちに人工中絶や性感染症があることは社会問題となっています。その増加をくい止めるためには、性と生殖に関する正しい知識を子どもたちに教えることが重要といわれていますが、このことについてあなたはどのように思われますか。(複数回答)



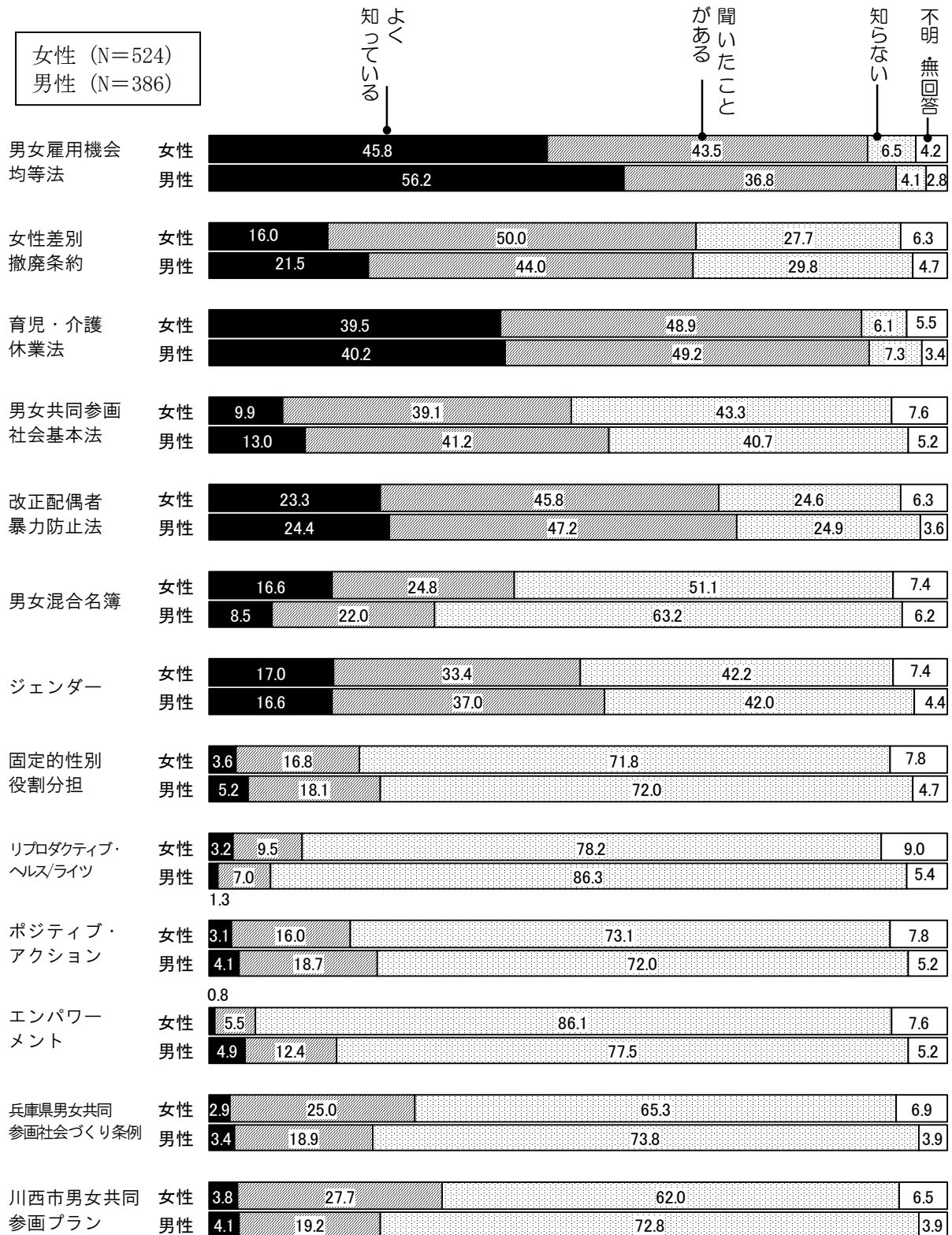
●男女ともに「家庭で家族が、」が最多、次いで「学校で教師が、」と回答

性と生殖に関する正しい知識を子どもたちに教えることについて、男女ともに「家庭で家族が、子どもの成長に応じて必要なことを教えていくのがよい」が最も多く、次いで「学校で教師が、子どもの成長に応じて必要なことを教えていくのがよい」「間違った性情報があらゆるところで氾濫しているので、できるだけ早い時期に行った方がよい」と続いている。

9. 男女共同参画政策について

(1) 「ことがら」や「ことば」の認知度

問27 次の「ことがら」や「ことば」を見たり聞いたりしたことがありますか。



●男女ともに「男女雇用機会均等法」が最多

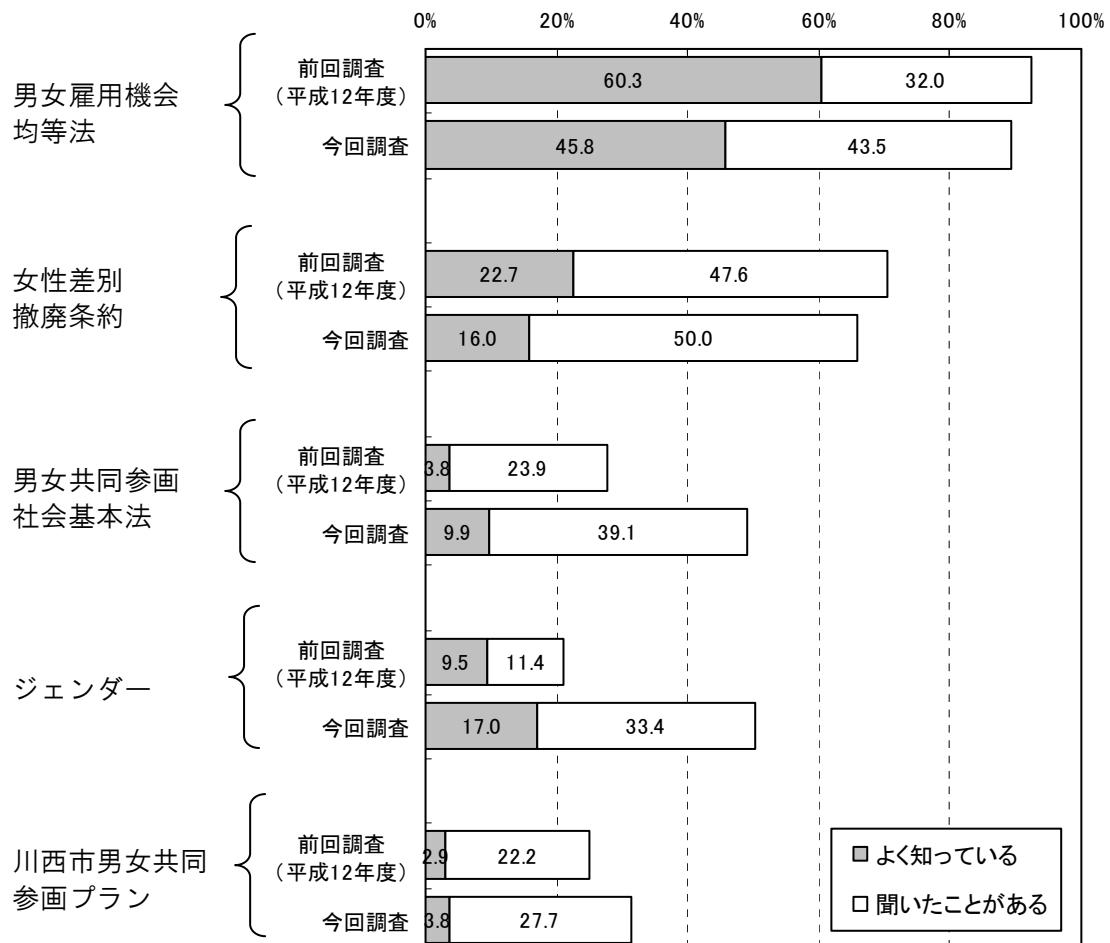
「ことがら」や「ことば」の認知度については、男女ともに「男女雇用機会均等法」が最も多く、女性で45.8%、男性で56.2%となっている。

前回（平成12年度）調査との比較

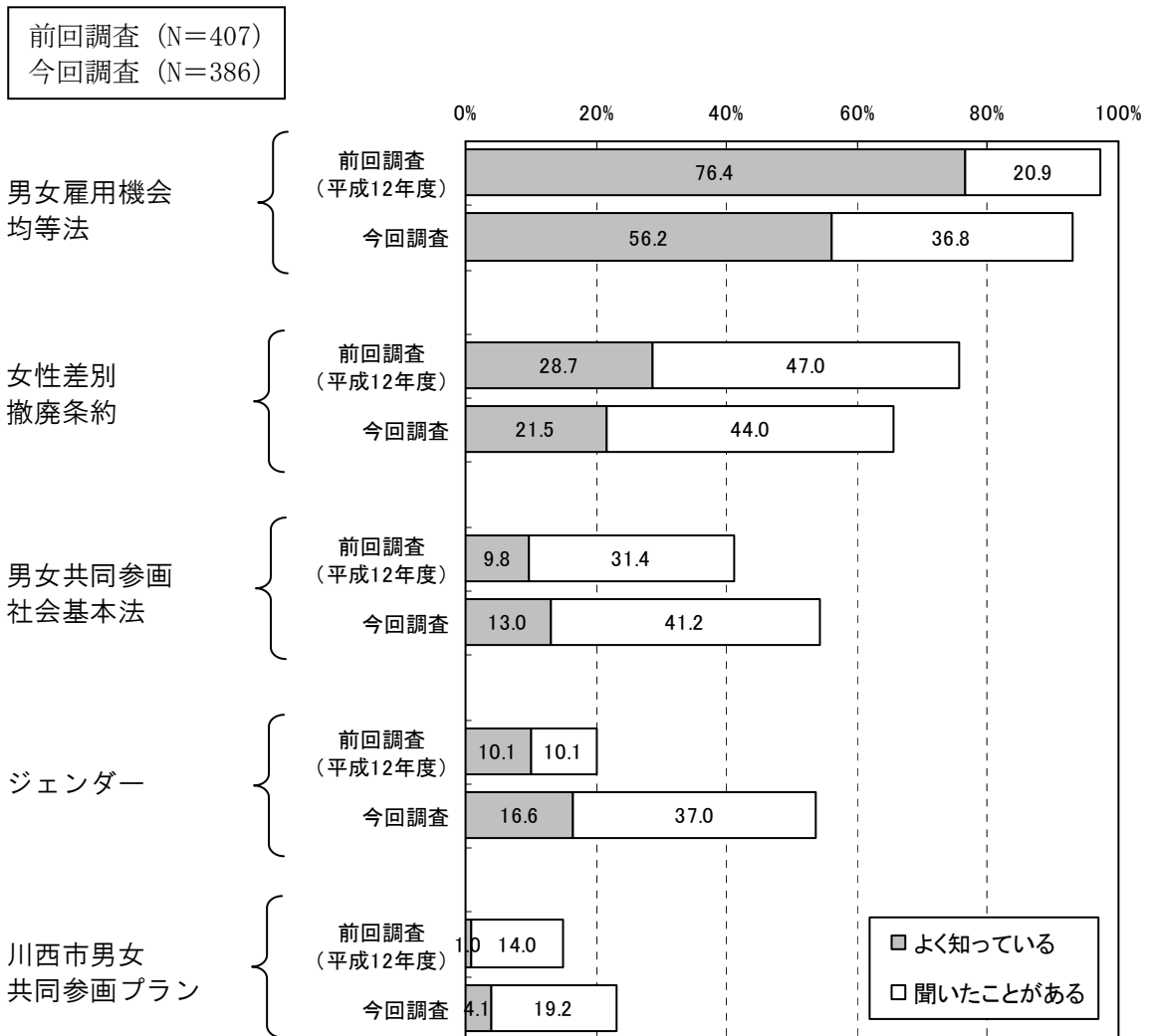
「ことば」や「ことがら」の認知度

【女性】

前回調査（N=612）
今回調査（N=524）



【男性】



●ことばの認知度は、男女とも「ジェンダー」が大幅に増加

ことばの認知度について、前回（平成12年度）と今回を比較すると、「よく知っている」「聞いたことがある」を合わせた数値は「ジェンダー」が女性では20.9%から50.4%と29.5ポイント、男性では20.2%から53.6%と33.4ポイント大幅に増加している。また、「男女共同参画社会基本法」では、女性では27.7%から49.0%と21.3ポイント、男性では41.2%から54.2%と13ポイント増加している。

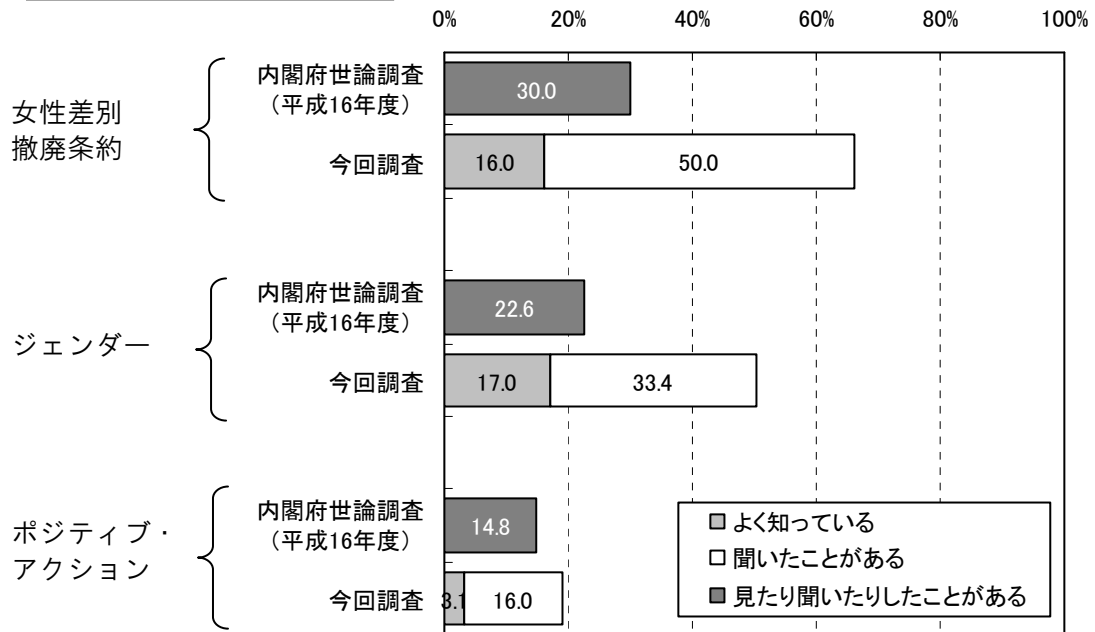
これに反して、「女子差別撤廃条約」では、女性が4.3ポイント、男性が10.2ポイント下がっている。

内閣府世論調査との比較《参考》

「ことば」や「ことがら」の認知度

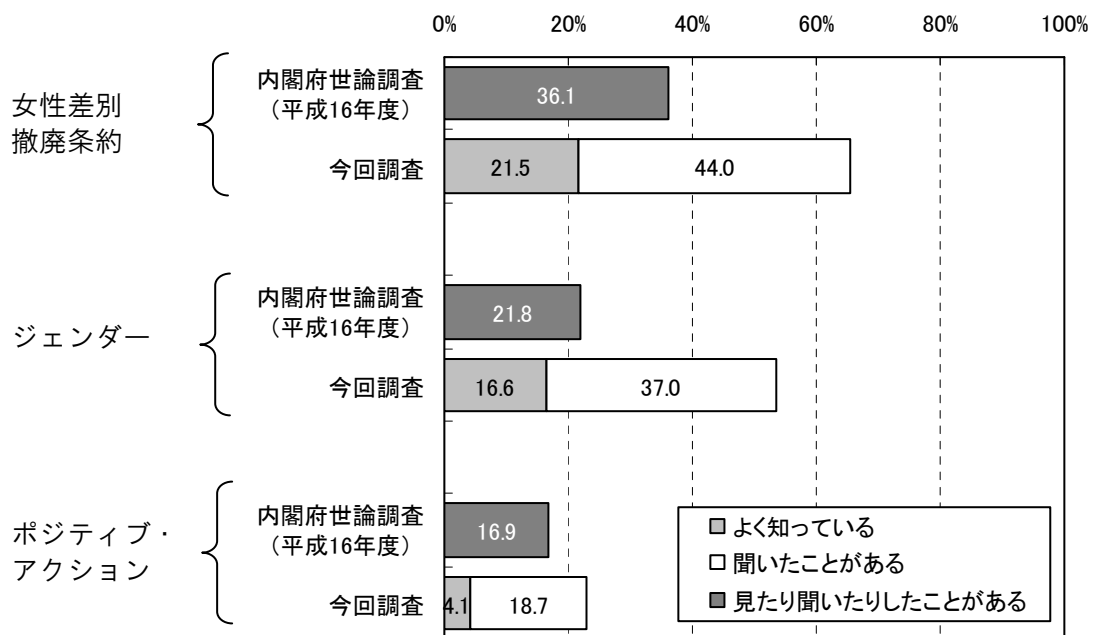
【女性】

内閣府世論調査 (N=1886)
今回調査 (N=524)



【男性】

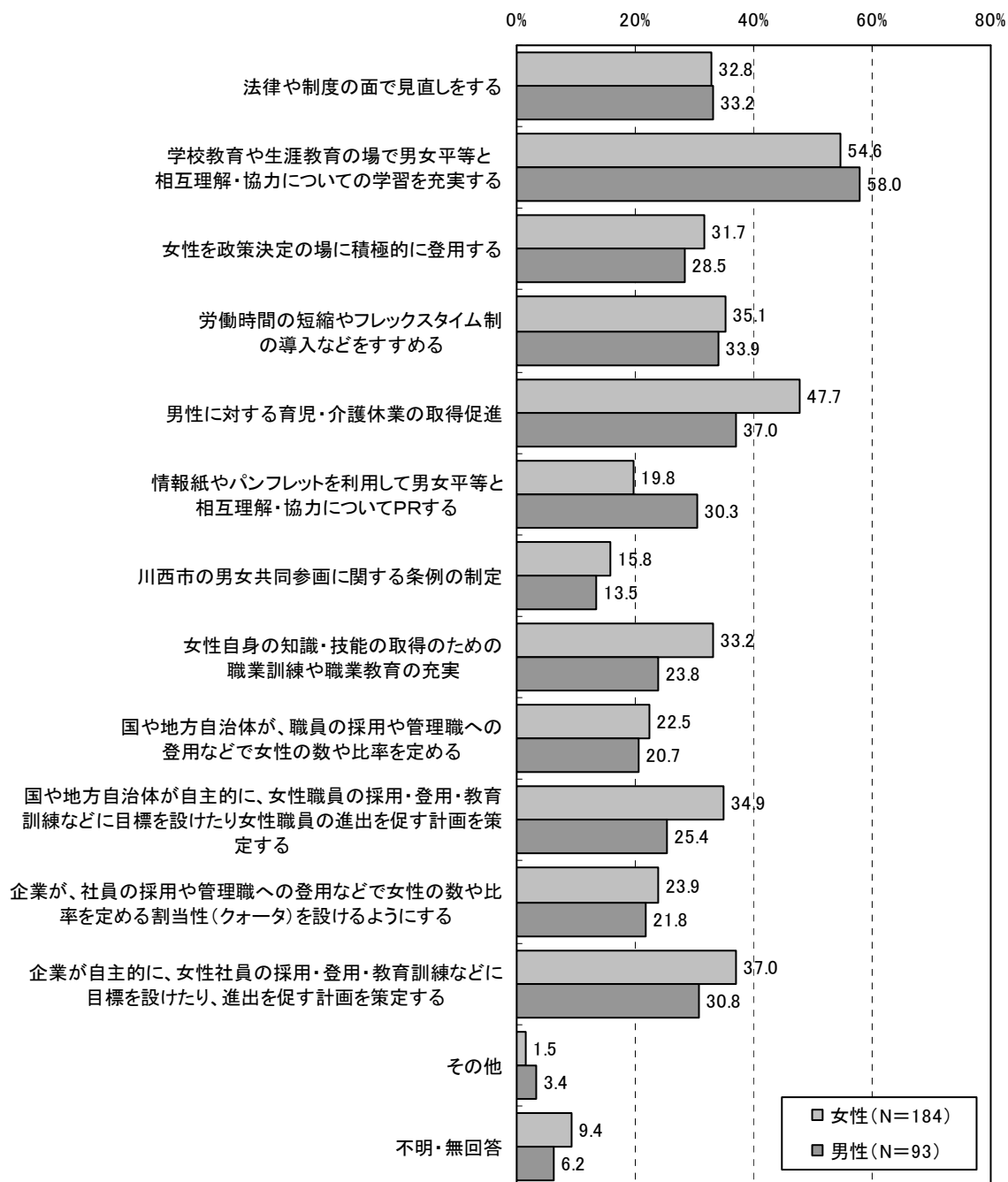
内閣府世論調査 (N=1616)
今回調査 (N=386)



※内閣府世論調査と今回調査で選択肢の表現が異なっている。

(2)「男女共同参画社会」の実現のために

問 28 「男女共同参画社会」の実現に向けて、今後、国や県、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(複数回答)



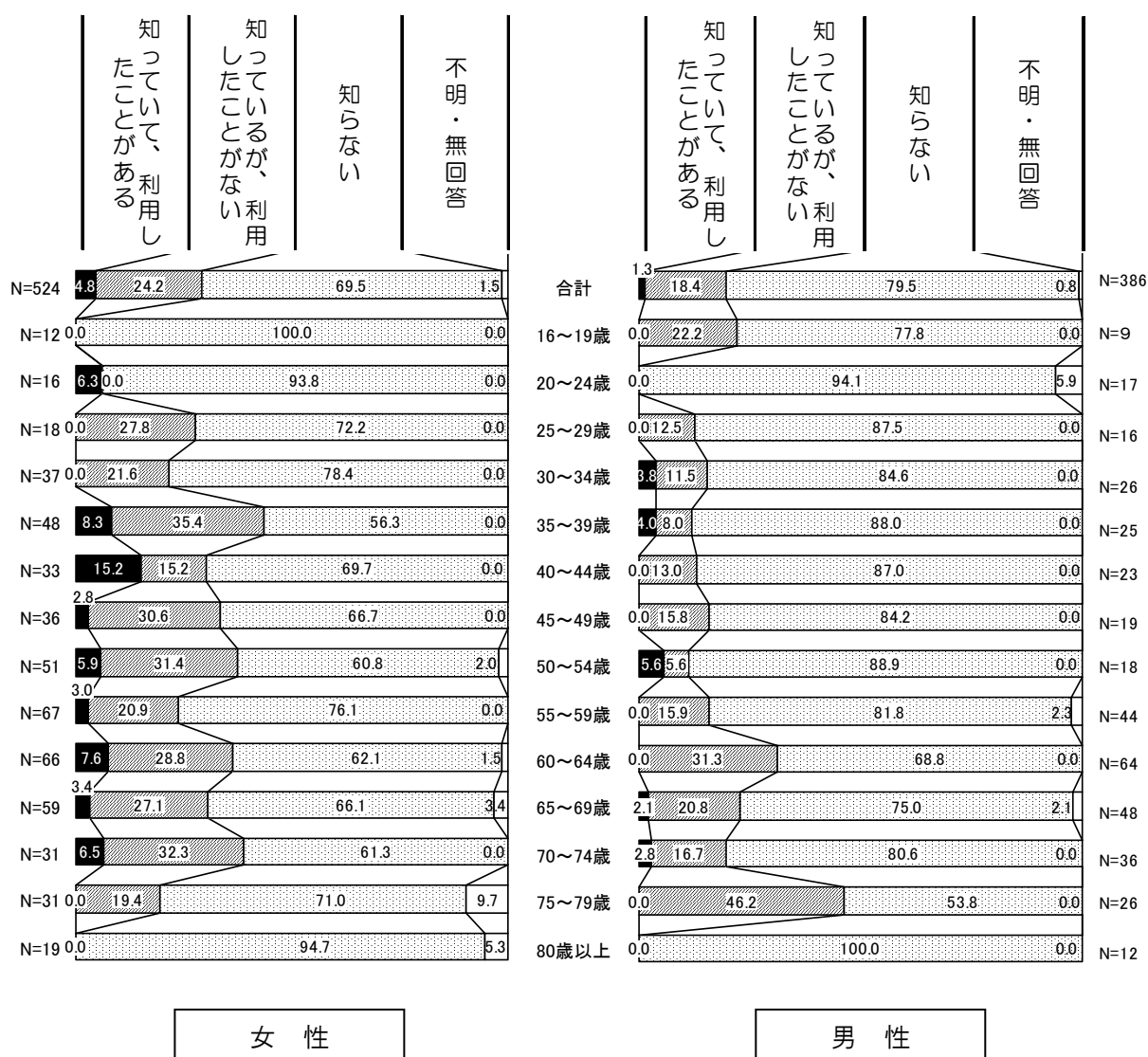
●男女とも「学校教育や生涯教育の場で男女平等と相互理解・協力についての学習を充実する」が最多

「男女共同参画社会」の実現に向けて力を入れていくべきことについては、男女とも「学校教育や生涯教育の場で男女平等と相互理解・協力についての学習を充実する」が最も多く、次いで「男性に対する育児・介護休業の取得促進」となっている。

また、その他の項目についても、男女ともに2割近くから3割を超えている。

(3)「川西市男女共同参画センター」の認知度

問 29 あなたは「川西市男女共同参画センター」を知っていますか。(単数回答)



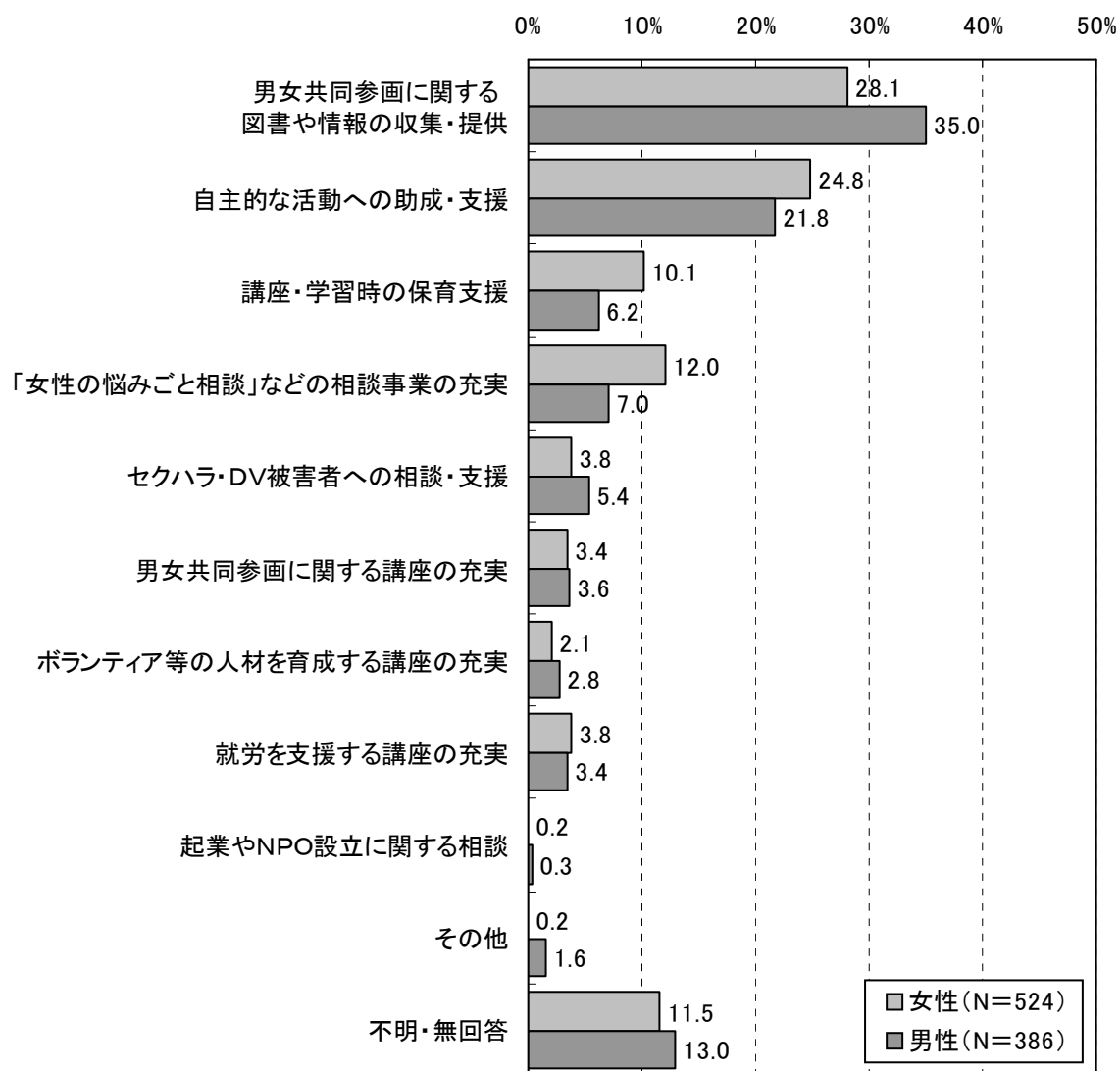
●認知度は、女性で3割弱、男性で2割弱とかなり低い

「川西市男女共同参画センター」の認知度については、「知っていて、利用したことがある」「知っているが、利用したことがない」を合わせた数値は、女性で29.0%、男性で19.7%となっており、女性の方が9.3ポイント高いが、「知らない」が女性で69.5%、男性で79.5%となっており、男女ともかなり低い。

また、「知っていて、利用したことがある」が最も高い年齢階層は、女性の40歳代前半、次いで女性の30歳代後半となっている。

(4)「川西市男女共同参画センター」への希望

問 30 あなたは、この男女共同参画センターにどのようなことを希望しますか。(複数回答)



●男女とも、「男女共同参画に関する図書や情報の収集・提供」が最多

「川西市男女共同参画センター」への希望については、女性、男性ともに「男女共同参画に関する図書や情報の収集・提供」が最も多くなっており、次いで「自主的な活動への助成・支援」と続いている。

Ⅲ. 自由回答

自由回答 (抜粋)

☆ いただいたご意見の中から、男女共同参画社会に関する回答を抜粋して掲載しています。

(1) 男女の地位

- 男は力、女は口のつよさをみがきあい、ともに尊重し合う。
25 歳～29 歳・男性
- 私たちの時代は（働いていた頃は）男性優位は当然でそれが当たり前でした。同期で入社しても男性が先に役付になっても当たり前、子どもができれば女性が家について世話をする。こういうことが自分自身にも染み付いていて、子どもが大きくなり、このことについて話し合ったとき“男性も育児や家事全般に加担するのが当然”の答えにびっくりし少々うろたえたことがありました。よく考えれば今の世の中、男女共同参画は当たり前、しっかり実現してくれそうですように見守っていきたいと思います。施策についての意見にもならず申し訳ございません。
60 歳～64 歳・女性
- 差別と区別の違いがわかりません。当然、性別が違うのだから平等にはなり得ない。互いに役割分担をして適性を活かせればそれでいい。平等の定義が不明！男尊女卑な世の中ではないし、女性の被害意識がクローズアップされ過ぎているような気がする。求めていることがわからないし、正解は一つではないと思う（目標・目的）。貴重な税金を遣って何をしたいの？
40 歳～44 歳・男性
- 男性は男らしく女性は女らしく特長を強化するように共同参画の基本的な考え方を明確にして、特長ある川西風土を助長してもらいたい。単に男性と女性が同じとすべきではない。例えば、体力的なものは男の方が強くて、これらが全く同一に扱われないように！相手を助け、尊重する心などは全く同一にすべきだ。
65 歳～69 歳・男性
- 男女平等は社会ではたてまえで実際には男性優先である。大学を卒業して仕事面で実績があっても、女性管理職への道は非常に狭いと思う。創業 100 年を越える企業に勤務しているが、女性管理職はわずか 1 名です。それが現実という気がします。大学を卒業して 20 年以上経ちますが、その頃から社会の現実は少しも変わっていないと思う。「男女共同参画施策」といっても机上の空論で具体的な方針・施策があるのか疑問です。無意味な気がします。
45 歳～49 歳・男性
- 1 人の人間として、男女平等をうたうのはよいが男女の性の違いを知ったうえで進めるべきだと思う。
40 歳～44 歳・女性
- 男女同様、男女雇用均等法、男女平等等々、戦後特に最近女性の地位向上がさげばれて大変よいことと思っています。民主主義も当たり前になってきました。その結果女性の方が優遇されすぎつつありませんか？電車の女性専用（痴漢対策はよくわかりますが）、サークル活動、買い物優遇等々です。男性の意気地なさや非社交性もありますが、男性や中高老年男性の活躍にも支援してやって下さい。半々の参画を希望します。
70 歳～74 歳・男性
- 男性なりに女性なりに適したのがあると思うので必要以上に「共同」「平等」をうたうことはないと思いますが、個々それぞれに考え方や生活があるのでそれに見合った対処をとるときに男女の差があるというのが問題だと思います。「男女平等」「個人の尊重」という言葉を違う意味でとらえる方が多く、ただの文句の言い合いや個人のわがままになってきて自分さえよければそれでよいという考えの方が増えてきている。一般的道德のほうが今は気になります。
25 歳～29 歳・女性

- あまり男女平等！男女平等！と言わないでほしい。男性には男性の、女性には女性にしかできないこともあるのだからほどほどでいいのでは…。あまり強烈的にやりすぎると、みんな逃げ出すと思います。みんな仲良く、力仕事は男性が、でいいのでは？

40 歳～44 歳・女性

- 最近、男女平等という言葉が新聞やテレビなどでよく聞くが、どうでもいいような事柄まで男女平等というものに縛り付けている気がする。私は男と女は生まれつき体つきなども違って当たり前なのだから、男と女でどうやったってまったく同じにすることは不可能だと考えている。それなのに何でもかんでも女が男と同じにするというのはおかしいと思う。本当の男女平等というのは男は男の特長があつて、女には女の特長があるのだから、お互いが違いをちゃんと理解しあつてはじめて男女が平等＝対等になれるんだと思う。

20 歳～24 歳・女性

- 男女共同参画というが、男女の差を個人の差と考える。全てが個々の差と考えればよいのではないか？男女というよりもその前に人・人間・個人と考えれば差別すらなくなると思います。

55 歳～59 歳・男性

- 一度、医師から「男女の脳」に関する講演を聞いたことがあるが、男性は前頭葉が発達しているので考えが深い、だがそこを通る神経は女性の頭脳に通る数限りなく多い神経と比べると少ない。従って女性が細やかな心配りが行き届くということでした。この男女の特性をよく心得た上で、男性しかできない分野と女性でこそでき得る分野を合体し、物事を推進することは大変望ましく、また、女性を自立させるよい機会になるとも考えられる。

65 歳～69 歳・女性

- 社会がめまぐるしく変化し、男女のあり方が変わらざるを得ないことはわかります。私が幼い頃は、農業・漁業などがほとんどで今のようにサラリーマンが極めて少なかったで

す。そのような環境で育てば自然に親の手伝いをせざるを得ませんでした。体験から力仕事では女は男に比べて負けてしまう。母親の手伝いではやはり女が向いているというように、男女の性差を学んでいました。「平等」とは何もかも同じように行うことではないと私は思います。与えられた立場で精一杯、力を出していけることではと考えます。

60 歳～64 歳・女性

(2) 結婚と家庭生活

- 川西市というより日本全体のわがまま・気ままの心を直していかなければならない。娘の旦那様は、娘と結婚しても仕事につかせ、家事は夫と平等。息子のお嫁さんは仕事を辞め、家事は嫁が、息子が帰ってきたときはあげせんすえぜんを願う母親が男女共同参画を駄目にしている。

50 歳～54 歳・女性

- 現在よりは以前のほうが良かったのではないのでしょうか？バブルがはじけ企業に変化が起き余裕がなくなり、家庭をもつことも困難になった。このような世の中では男女共同参画は難しい気がする。まず、企業に働きかけてゆとりのある生活ができるようにすることが望ましい。周りを見ても独身の男女が多い。政府も日本全体の企業に働きかけ、ゆとりのある生活、平等な生活になるようにすべき。何もしていないのに腹立たしさを覚える。このままでは貧富の差も大きくなり自殺者も後をたたない。郵政民営化よりも早急に上記のことをしなければ日本社会は崩壊してしまう。非常に不安です。

50 歳～54 歳・女性

- 大正生まれの人間が成人して男女対等に働ける職場は少なかったと思う。今は力さえあればこの大学でも勉学ができるし今さら男女共同参画プラン？と思ったりもします。現在の男性は家事や育児も自分の仕事のようになっているように見えるが、それでも仕事をもっている妻の負担が大きいので県や市が積極的に支援して下さい。子を持つ人が

安心して働くことのできる公共施設等(保育所等)川西市ではどうなっていますか？高齢者は役に立たない回答しかできず申し訳ありませんが、50～60 年遅く生まれていればと残念に思っています。

80 歳以上・女性

(3) 子育て

- 少子化になって子どもが生まれても近所に遊ばせる友達がいるか心配です。川西市に来て1年半ぐらいなので、あまり川西市のことは知らないです。

30 歳～34 歳・女性

- 子どもの悩み事相談や無料カウンセリングなどがあれば嬉しいです。

30 歳～34 歳・女性

- 夫婦間に生まれた子どもは2人で育てるとするのが理想であると思うが、実際、2人で子育てをしながら一定の収入を得るということは今の社会では、ほぼ不可能である。今の現状からして労働時間短縮となると給料も減り、結果、生活も苦しくなるような状況では夫婦2人が子育てに専念することは本当に不可能である。女性の社会進出も勿論大切な課題であると思うが、その結果、子どもに対する放任化が進み、犯罪の低年齢化を加速させている事実からは目を背けることはできない。何より子どもが無からいろんな感情や性格等を育むことができるよう、親はその責任を一番に考えないといけないと思う。それができる社会をつくっていくことが望ましいと思う。

30 歳～34 歳・女性

- 男女共同参画となりますと、女性は男性にいろいろなことをフォローしてもらわないと無理ですので、低学年より、男女共に家事・育児をしっかりと学校や家庭で教えていくことをPRしてほしいと思います。

55 歳～59 歳・女性

- 専業主婦でやっていける家計の所帯が今後社会的に減少していかざるを得ない社会変革を統計等を用いて、小中高教育の中で教えていくべきだろう。専業主婦が自分の娘を自分のように育てることがよろしくない風潮を感じる。

40 歳～44 歳・男性

- 最近では男女平等などは強く言わなくても女性の方が強くなっておりますが、中学生などを見ておりますと女性らしさのらしさが欠けているようで、人間性まで欠けているような子どもたちを見ると親の教育はどうなっているのだろうと考えてしまいます。自己主張は結構なので、もっといたわりある心をもった責任感のある子どもたちに成長してほしいです。そのために親の責任感も問われるし、親の問題によって子どもに与える影響は大きなものです。親を教育する学習教室もあるべきではないでしょうか？子どもを愛し教育することは人生の大きな仕事です。永遠に続く仕事であります。女性はもっとそのことを大事にして生活していくべきだと思います。

70 歳～74 歳・女性

- 男性と女性はそれぞれに特長があるように神が創られたものである。その特長を尊重した上で各自が活動すべきである。責任と平等は異なることを理解すべきである。最近の女子高生の態度・言葉づかい等は目にあまるものがあります。女性として最低限のマナーは必要です。また、男性としても最低限のマナーも必要です。何でもかんでも平等というのではなく区別すべきことは区別した上での平等とすべきです。夫婦の場合はトータルで考えるべきで、家事とか育児とか個別に考えた質問は意味がない。要はお互いが協力しているからです。

55 歳～59 歳・男性

- 子どもを産んだり育てたりしやすい社会になるようにしてほしいです。

25 歳～29 歳・女性

(4) 仕事

- 就労に関する女性の地位の向上を目指すのは非常に重要だと思う。

20 歳～24 歳・男性

- 主婦が働こうとすればパート職が主で、それも税金の面で足かせがある。子育て終了後の主婦は正社員で働きたいと思っても数は少なく、年齢が高くなればそれもないような状況だ。こんなことなら子どもを産んでも辞めずにずっと続けていればよかったと思う。その当時は主人や周りの賛同を得られず辞めてしまった自分が悔やまれる。

50 歳～54 歳・女性

- 男はもっと女を尊重し、また女は就労している限り真剣さをもつべき。男であるがゆえにボンクラでも就労している者もあれば、女であるがゆえに男社会に甘えているケースが多い。

60 歳～64 歳・男性

(5) 家庭生活と地域活動

- 主人にももっと地域のことに積極的に参加してほしいと思っています。家事は、私が仕事を始めてから少し手伝ってくれるようになりました。少しずつ変わっていつてくれることを願っています。二人で力を合わせて子育てをして子どもの成長を見守っていきたいと思っています。

35 歳～39 歳・女性

- 現在、小・中・高の各学校の委員会（PTA）役員は会長をはじめ、すべて女性であるように見受けられる。家庭での育児は夫婦共同の仕事とすれば、学校教育についても同じ事であると考えられる。故にPTAの発案・行動は（教師のアドバイスもあると思うが）女性思考に偏りがちと思われる。提案として、保護者の男性が忙しくて参加できなければPTAの第三者的な部外の男性（シルバー）定

年をむかえた人を公募・人選して1学校につき3名程度参加させたらよいのではないかと（OBでもよいと思う）

65 歳～69 歳・女性

(6) 男女共同参画政策

《施策に関する意見》

- 更なる充実を期待しております。

60 歳～64 歳・男性

- かけ声はよく聞いたりパンフレットで見ることが、実際に行われているかは疑問です。

65 歳～69 歳・男性

- その施策がどのようなものなのか承知していない。男女共同参画社会づくりからみて望ましくない事例や社会違反例などをまとめ、メディアや会合の場で発表・説明などをして関心を高めてはどうか。

60 歳～64 歳・男性

- ジェンダーフリーについて誤解や偏見が多いのでその誤解を解く活動をしてほしい。

25 歳～29 歳・女性

- 実は名前を聞いたことがありますが、何をしているか知らないです。

40 歳～44 歳・男性

- みんなが正しい知識をもつことができるように何か手を打たなければならないと思いました。

16 歳～19 歳・男性

- 真の意味での男女平等が実現するよう、より一層の努力をお願いします。

20 歳～24 歳・男性

● 標題の施策に対しご苦勞とご努力された市長さんたちに感謝致します。質問に対する調査票を数多い中から頂くよさに喜んでおります。待ったなしの人口減時代の今日、人間としての幸福は時間でございます。男女共同参画の推進に一層のご搭乗をよろしくお願い致します。(代筆)

80 歳以上・女性

● 「女らしく」「男らしく」ってなんですか？
20 歳～24 歳・男性

● 高齢者が増えている現在、このパワーを活かして男女共同参画施策検討メンバーにも多数入れてもらいたい。ボランティア活動について大いに活用されたい。

65 歳～69 歳・男性

● 男女共にそれぞれ意見はあると思うのでさまざまな年代の男女を集めて話し合いをしたらよいと思います。そしてそれを上手にまとめることができれば少しは男女問題が解決するのではないかな…。

16 歳～19 歳・女性

● 市民にもっとアピールして気軽に参加できるようにしてほしい

65 歳～69 歳・女性

● パンフレット等があればよいです。65 才なのであまり知識がありませんので。

65 歳～69 歳・女性

● 社会人になってから、制度・社会等の知識教育だけでは行動に結びついた本物になり難いのではないかな。実践の場として、学校教育への組入れ、家庭内での家事分担等を通じて培われた体験が重要と思います。男女共同参画施策の 1 つとして、幼少期から成人に至る年齢階層(学校では学年)ごとに知識教育と実践教育のプログラム設定をされ、社会全体(例えば狭い範囲では川西市内)が、それに沿って共同参画社会のレベルアップに取り組む仕組みがあればと提案いたします。

65 歳～69 歳・男性

● 川西市に転居して約 3 年となりますが、男女共同参画について全く知りませんでした。目的等、市民に対してももっと伝えてほしい。知らない人のほうが多いのではないのでしょうか。何らかのイベント等での積極的な広報活動に期待します。ボランティアを活用することも検討下さい。

40 歳～44 歳・男性

● 現在、川西には男女共同参画プランというよいものがあり、内容もよいと思います。表面的な数字の上での達成度を見るのではなく、内容がどれだけ充実してきたか、その点をよく見て更に広く深く進めていってほしい。民間グループをただで使おうとするのは止めて下さい。市長さんは男女共同参画に関しては、他市に比べて頑張っているんじゃないかと思います。今一段内容の濃い事業施策を目指して下さい。

35 歳～39 歳・女性

● 意見の押し付けはよくない。

55 歳～59 歳・女性

● 初めて聞きました。たまたまこのアンケートで知っただけで普通に家と仕事場を行って帰ってしている年代には知らない人の方が多いと思います。私自身そうですが、他県から引っ越してきて昼間に仕事している人が多いのに役所に行く時間なんて取れないのだから「かわにし」を見る機会すら減っていると思います。(独身の 20～30 代は新聞を見る時間がなくてとっていない人も多い)

30 歳～34 歳・女性

● 男女共同施策について何も知らないのでもっと情報提供をしてほしい。

55 歳～59 歳・女性

● 相手に迷惑をかけない、社会に迷惑をかけない、そのような思いやりのある人間形成ができれば楽しい人間生活ができると思うので、パンフレット配布や講座を開けばいいと思います。

65 歳～69 歳・男性

- 家庭内、地域、学校、いずれにおいても男女は平等に何事においても行われるようにより一層の活動をお願いしたいと思います。

40 歳～44 歳 女性

- チグハグのデータだと思います。お許し下さい。男女共同参画の件についてあまり広報誌も読まず無知識です。また教えていただきたいと思います。

70 歳～74 歳 女性

- 市の財源を確保し、実際に活動できる資金がないと草の根運動的な活動ではあまり効果がないと思う。女性は社会的地位が低く、発言も弱いのでなかなか市政に結びつかない。問題の多くは資金格差・経済的自立が困難なことに起因すると思う。ボランティアではなく女性支援に関わる事業を拡充すれば、相互扶助が成り立ち共同参画も進むのではないかな。

35 歳～39 歳 女性

- 共同参画のPRを多くすること。市の一般地区委員に頼み集めてもらい、男女共同参画のことを説明してもらい、一般の人に利用して頂きたい。市民の人は知らない人が多いので、参加しやすいように説明をしてほしい。

65 歳～69 歳 男性

- 色々な企画・企画をされてもやはり実行が一番です。

65 歳～69 歳 男性

- もっとPRしないとわからないのではないのでしょうか。

60 歳～64 歳 男性

- 初めて聞きましたが、これからの時代に必要なことであり、大切なことなのでより有意義なものとなるよう施策を進めていって頂きたいと思っています。

65 歳～69 歳 女性

《男女共同参画センターに関する意見》

- 申しわけありませんが「パレットかわにし」の活動が解かりません。市報みたいに定期的に各家庭に配布をお願いします。年数回でもよろしいのでお願いします。

45 歳～49 歳 女性

- 市民税を払っているのだから、平日に働いている者のために、土日にできる講座を開くべきだ。

35 歳～39 歳 女性

- 私はボランティア活動をしている関係でパレットかわにしを知っていますし、内容も把握していますが、中高年の婦人の多くがあまり存在を知りませんし、男性上位の生活でよいと考えている人が多いようです。ぜひそのような婦人を引っ張り出して、少しでも意識改革をしてほしいと思います。

70 歳～74 歳 女性

- 今回のアンケートでパレットかわにしの存在を知り、男女共同参画センターをもっとよく知り、是非とも一度見てみたいと思い自分にできることがないのか考えたくまりました。

55 歳～59 歳 女性

- 私は今日初めて川西市にこのような共同参画があることを知りました。毎日のニュースを見ていると、この先どのような社会になるのかと心配になります。もっとセンターの皆様の努力によって住みやすい川西市になるよう祈っています。私たち家族も陰ながら応援させていただきます。頑張ってください。かしこ

65 歳～69 歳 女性

- パレットかわにしは知っていますが、ハローワークのパートタイムの仕事を探するときに行ったきりです。後、保育関連で活動されているようでしたが、どんな活動を他にされているのか、今ひとつわかりにくかったです。主に相談事業等で、もっとわかりやすく利用しやすいように情報をいただけると嬉しいです。

25 歳～29 歳 女性

- センターについてあらゆる問題があると思いますが、果たしてこれらの問題に対してわかる人材が揃っているのかという不安があります。また、本能的に体の構造でも女は受け入れ、男は攻めるようにできているので、部分的には平等は難しいと思います。要は、一人一人が男女を問わず、思いやりのある人が増えることを望みます。

45 歳～49 歳・男性

- 目的を明確にすることが大切かと思います。いつも同じ人が集まるようではいけないので、広く意見する場であってほしいです。

60 歳～64 歳・男性

- 参画センターはとてもきれいで交通の便もよいのでもっと多くの人たちが利用できる講座・催しをしてほしい。講座内容を徹底的に調べてから開催して下さい。

40 歳～44 歳・女性

- このような共同参画センターがあることを初めて知りました。今ひとつ目的と具体的目標がわからずアンケートに答えています。

50 歳～54 歳・女性

- センターが今何をしているか？という動きがもっと感じられたらいいのに。

50 歳～54 歳・女性

- 「パレットかわにし」の宣伝と活動の充実化を図るとよいと思います。インターネットでHP公表して下さい。また、退職者も積極的に受け入れることができるようにしてほしい。

55 歳～59 歳・男性

- 問 30 の補足 男女共同参画センターの業務として共同参画の講座・情報・図書などを充実させてもあまり成果が得られないと思う。社会一般的に見て男女共同参画の気運は強くなってきているから、これに関する講座などをもっとも無駄になる。従って講座などより女性が社会進出できるよう公営保育所をさらに充実させたり、川西市役所内で女性をもっと登用して共同参画の成功例を創るべきである。要は共同参画の手法・勉強よりも

環境作り（保育所）や結果（市役所内の女性活用）に重点をおくべきである。このためには男女共同参画センターの枠にとらわれずに市全体の行政を動かすぐらいの熱意で取組んでもらいたい。

60 歳～64 歳・男性

- パレットかわにしは知っているが、何にも市民に対してわかりやすく、市民が簡単に誰でも参加できる環境であるとは思っていない。もっと市の報告書や媒体を使ってPRしてほしい。参加できる環境にしてほしい。

55 歳～59 歳・男性

- パレットかわにしは知っていました。友達が英語教室に行っていますが、男女共同参画センターって知りませんでした。勉強不足です。これだけでなく、もっともっと知らないことが多いと思います。今、地球温暖化で川西でできることを教えてほしいです。

60 歳～64 歳・女性

- センターが具体的にどのように納税者の役にたっているのか全く見えない。

50 歳～54 歳・男性

- 認知度を上げないと存在を知らない人が多い。もっと気軽に利用できるようにアピールした方がよい。

40 歳～44 歳・女性

- 市民に認知されていない施設が活動しても影響力はないと思う。

35 歳～39 歳・男性

(7) 当該アンケートについて

- 私は73才女性です。もともと大阪人、川西市民になって10年ほどにしかありませんので、川西市などのアンケートには、あまりわかりませんので申し訳ありませんでした。すべて自分自身生きてきた上のおこたえです。

75歳～79歳・女性

- 古い年代のため十分な意見も記入できずに申し訳ありません

75歳～79歳・女性

- アンケート自体に性的な言語表現をなぜ使うのか？役員のひとりよがりだ。

80歳以上・男性

- 何のことかはっきりと意味がわからない。

25歳～29歳・男性

- このアンケートは頭の固いお役人の考えのような内容です。従業員数名の小企業が大半の川西市の企業は残業しても残業手当ももらえず、身体を悪くしても医者にも行けない社員、1人の社員にいろいろな仕事をさせている企業側として「休業」を取得されたら、その代役が埋まらず、悪くすると倒産の恐れもある現状で育児や産休や介護休業を取得できると思いますか？このアンケートの回答は理想ばかりに○印を入れました。現実をもっと把握し地に足のついた仕事をして下さい。これでは税金の無駄遣いです。

70歳～74歳・男性

- このようなアンケートは90歳の老人にとって理解しにくいことである。(嫁に説明してもらったが)

80歳以上・女性

- アンケートの内容には、高齢の自身にての望みも含めて記入致しました。

75歳～79歳・男性

- このアンケート郵送のための経費はいくらだったのでしょうか？それに見合う成果を期待します。

25歳～29歳・女性

- このような取組みはいいことだと思うので、これからもどんどん実施して行ってほしいと思います。そして、川西市を素晴らしい町にしてほしいと思います。

20歳～24歳・男性

- このようなアンケートを税金をつかってする限りは「がっかりした」と住民に思わせないようにして頂きたい。市民が川西市民でよかったと思えるよう特に教育について考えるべきだと思う。それが男女共同参画施策の成功にもつながると思います。

40歳～44歳・女性

- 高齢ですから現在の社会生活には自分の思いや考えが十分できないことがたくさんありますので記入に際しても満足していませんがよろしくお願いします。

80歳以上・女性

(8) 市行政

- 民間ではデメリットを排除し利益追求をする。女性だからと有能な人材を排除しない。女性及び障害者を民間のデメリットを補うために税金を投入すべき競争社会で弱肉強食が現実、弱者を排除させないよう公的資金で守るのが公の仕事だと思う。

55 歳～59 歳・男性

- 財政難の川西市でもあり、また安全・福祉・教育などやらねばならぬことが多いので大変だと思いますが、地方自治の重要さはますます大きくなってきていると思います。新興地の川西市としては、なかなか近所付き合いがうまく行き難いと思いますが、自治会等を通じて隣り組の機能を充実させ、長寿な日本人の知恵と力を出していけるような市政を期待しております。

80 歳以上・男性

- 同和事業にしてもこの男女共同参画事業にしても、言葉や行動に行きすぎのないように本質にそって丁寧にやっていかないと間違った方向へいったり、誤解をまねいたり反感をかったりすることになってはいけないと思います。

65 歳～69 歳・女性

- 役所の人間はいらない。民間の人の為にすべきである。小さな役所です。

55 歳～59 歳・男性

男女共同参画に関する市民意識調査の結果と課題

京都大学名誉教授 上 杉 孝 實

1. 回収率の低下

あらゆる分野で男女共同参画がなされることによって、女も男も個性が発揮される社会を築くことをめざして、平成 11 (1999) 年には男女共同参画社会基本法が制定され、兵庫県でも平成 14 (2002) 年に男女共同参画社会づくり条例がつくられた。この間、川西市にあって、平成 5 (1993) 年につくられた川西市女性プランの後を受けて、平成 15 (2003) 年に川西市男女共同参画プランを策定した。これらに基づいて取組を進めるためにも市民の実態や考えを知ることが重要であるので、調査が積み重ねられてきている。

今回の調査の回収率は 46.9%であり、郵送法としては決して低くはないが、前回の平成 12 年調査の 51.0%に比べ低くなっている。平成 8 年の調査では 60.5%の回収率であったから、回を重ねるごとに、回収率が減少していることになる。男性の回収率は、41.5%、40.7%、38.6%と推移しているのに対し、女性のそれは、78.7%、61.2%、52.4%と変化が大きい。以前は、女性問題として扱われることが多かったが、今日では男女共同参画となっていることが影響しているのだろうか。自由回答の中には、男女共同参画では女性のことがばかり取り上げられているといった受け取り方も見られるが、逆のとらえ方もあるのだろうか。男女双方の問題であるが、その間にある格差是正は必要で、法でも、積極的改善措置が規定されているのである。

標本は、母集団を代表するかたちで選ばれているが、回収率は年齢の高い方で高くなっているのので、合計のデータは、そのことを考慮して解釈する必要がある。また、年齢を 10 歳刻みにすると、人生周期で重要な時期が隠れてしまうこともあるので、5 歳刻みで男女それぞれのデータが出されているが、その場合、標本数が少なくなると、統計的に意味を見出すことが難しくなっている面もある。かなりの差がないと、統計上意味のある差とはいえないのである。それでも、おおよその傾向はうかがわれるし、必要に応じて年齢をくくれば、意味のある差を見出すこともできる。

2. 性別役割分担についての揺れ

川西市にあっては、性別役割分担意識を示す回答が、女性では少数であるが男性では多数である。国の平成 16 年調査に比べ男性で若干多く、女性でやや少ない傾向がある。それだけ、川西では、

性別役割分担意識について男女差があるということになる。国レベルでは、男性も性別役割分担意識を示す人は減り、平成 16 年では 50%である。もっとも、川西市のデータが高年齢に偏って出ていることも斟酌しなければならない。以前の調査とは問い方や回答の選択肢が異なるため、比較はできない。以前は、「どちらともいえない」を選択肢にいていたため、そこに半数近くの回答が固まっていたのである。

それでも、男女ともに、子どもができて女性も職業を継続することを肯定する人が、前回より多くなり、女性で 32%、男性で 27%が肯定意見を示している。男性でも、働き盛りの 30 歳代後半、40 歳代前半、さらに 50 歳代で、この答えを選んでいる人が多いのが注目される。子育て期等で中断後の職業復帰をとった選択肢を採る人は、女性で 38%、男性で 36%である。

子育てにおいて、父母以外の多くの人が関わることを肯定する人が、女性で 78%、男性で 67%ある一方、3 歳まで母親が子育てに専念すべきとする回答が女性で 78%、男性で 75%あって、上記の職業継続についての回答とずれが見られる。ただ、40 歳代前半より若い女性や、20 歳代前半まで、30 歳代後半から 40 歳代にかけての男性では、「そう思う」は少なく、「どちらかといえばそう思う」という回答が多い。育児休業・介護休業についても、「どちらかといえば妻が取るのがよい」が女性で 56%、男性で 67%あり、「夫も妻も同じように取るのがよい」が女性で 37%、男性で 26%である。後者では、男女とも 9 割以上の人が、子育ては夫婦で行うものであることを理由としてあげている。

子育ては、夫も妻も等分に関わるのがよいとする人も、女性で 88%、男性で 83%あり、男女とも経済的自立ができるように育てることを肯定する答えも、女性で 94%、男性で 89%ある。男女とも家事・育児ができるように育てることを肯定する人が女性で 92%、男性で 84%であり、個性を伸ばし、個人を尊重する育て方を肯定する人は、女性で 93%、男性で 90%である。それでも男女で異なった育て方を肯定する人が多いのであり、介護者についての希望でも、男女とも配偶者に次いで娘をあげているのである。家庭生活・地域活動・仕事のバランスを重視する人は、女性で 63%、男性で 55%と多い。

3. 男女共同参画についての周知の課題

男女共同参画社会基本法、ジェンダー、川西市男女共同参画プランについては、前回調査より知っている人が増えているが、男女雇用機会均等法、女性差別撤廃条約については、知っている人が前回は下回っている。もっとも、前の 3 つは後の 2 つに比べ、周知度は低い。「パレットかわにし」にある男女共同参画センターについても、知っている人は女性で 29%、男性で 20%である。前回調査の時には、別の場所に女性センターがあり、女性の 57%、男性の 29%が知っていたのに比べ、かなり知らない人が多くなっている。場所の移転や複合施設の中にあるといった事情が反映していると考えられるが、周知徹底を図る必要がある。

ジェンダー問題や男女共同参画について学んだり教えられたりしたことがあると答えた人は、女性で 22%、男性で 25%と少ない。特に年齢の高い層で少ない。男性の場合、職場で学んだという人が多く、職場での教育機会の重要性が示されている。女性は、マスメディアに次いで大学が多く、男性では大学は女性の 3 分の 1 程度である。自治体等での講座での学びは男女とも少ないといった問題がある。このことが、自由回答の中にも見られる男女共同参画についてのとらえ方の混乱にもつながっている面がある。セクシュアルハラスメントを自分自身が受けたり、周りの人が受けたり、相談を受けたと答えた女性が 30%あり、20 歳代後半ではこの答えが 61%にもなっている。男女とも多くの人メディアの中の性表現に問題を感じている。安全で人権の尊重される社会づくりの点でも、男女共同参画社会の実現が課題となっているのである。

男女共同参画社会は、男女が社会の対等な構成員として、個性と能力を十分に発揮し、自らの意思により、社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が保障され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を受け、かつ、共に責任を担う社会である。「参画」は、単に参加するだけにとどまらず、方針決定、企画立案の過程に積極的に参加することを意味する。人間の性別は、生物学的に規定されるだけでなく、社会的にも規定されていて、そのありようは時代・社会によって異なるのであり、このような社会的性別はジェンダーとよばれ、国際的に用いられているものである。

社会的性別の視点でとらえられる対象には、性差別や性別による固定的な役割分担、偏見等、男女共同参画社会の形成を妨げると考えられるものがあるが、対象の中には、男女共同参画社会の形成を阻害しないと考えられるものもある。そのあたりを見きわめながら、社会制度や慣行の見直しを行い、一人一人の違いや多様な生き方を認め合う、住みよい社会を築くことが課題となっているのであって、そのための学習や活動を支える施策を展開することが求められるのである。

川西市男女共同参画に関する市民意識調査

ご協力のお願い

盛夏の候、皆さまには、日頃から市政にご理解とご協力いただきありがとうございます。

本市では、平成 15 年より「川西市男女共同参画プラン～男女の自立と平等による共同参画をめざして～」がスタートし、男女が性別に関わらず個性と能力を発揮し、いきいきと暮らすことができる社会の実現に向けて、さまざまな取り組みを進めてきました。

今回の調査は、平成 18 年度にこのプランの見直しをするにあたり、市民の皆さまのお考えをお聞かせいただくために行うものです。満 16 歳以上の女性 1,000 人、男性 1,000 人あわせて 2,000 人の方を無作為に選ばせていただきました。

調査をするにあたっては、調査票は無記名であり、ご回答いただいた内容は、統計的に取りまとめを行いますので、個人が特定されるなど、ご回答された方にご迷惑をおかけするようなことはございません。

お忙しいところ誠に恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

平成 17（2005）年 7 月

川西市長 柴生 進

調査票にご記入いただくうえでのご注意

- 回答は、あて名のご本人のお考えでご記入ください。
- ご記入は黒のボールペン、または濃い鉛筆でお願いします。
- 回答は、設問ごとに用意してある選択肢の中から、あなたのお考えにあてはまる番号に○印を付けてください。または、記入欄にあてはまる番号をご記入ください。
- ご記入後、同封の返信用封筒に入れて、平成 17 年8月1日（月）までにポストにご投函くださいますようお願いいたします。

お 問 い
合 わ せ

川西市 市民生活部 市民参画室 男女共同参画課

電 話：072（740）1109

FAX：072（740）1322

■ 男女の地位についてお聞きします。

問 1 (1)～(8)のそれぞれについて、男女の地位が平等になっていると思いますか。
(1～6の中であてはまるもの1つに○)

	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば 男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば 女性の方が優遇されている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない
(1) 家庭生活では	1	2	3	4	5	6
(2) 学校では	1	2	3	4	5	6
(3) 雇用機会や職場での 賃金・待遇では	1	2	3	4	5	6
(4) 地域活動の場では	1	2	3	4	5	6
(5) 法律や制度上では	1	2	3	4	5	6
(6) 社会通念・習慣・ しきたりなどでは	1	2	3	4	5	6
(7) 政治・経済活動への 参加では	1	2	3	4	5	6
(8) 社会全体では	1	2	3	4	5	6

ジェンダーとは、社会的・文化的につくられた性差のことであり、生物学的な性
(セックス)と区別して使われています。

問 2 あなたは、ジェンダー問題や男女共同参画ということがどういうものなのかということを、
学んだり、教えられたりしたことがありますか。
(どちらか1つに○)

1. ある

→

問3へ

2. ない

→

問4へ

問3 問2で「1. ある」と答えた方だけに質問します。

それはどこですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 家庭で
2. 小学校で
3. 中学校で
4. 高等学校で
5. 大学で
6. 職場で
7. 自主的な学習グループで
8. 新聞やテレビなどマス・メディアで
9. 民間のカルチャーセンターで
10. 公民館などの講座で
11. 川西市男女共同参画センターが主催する講座で
12. 県や他市の男女共同参画（女性）センターなどが主催する講座で
13. その他（具体的に： _____）

■ 結婚と家庭生活についてお聞きます。

問4 あなたは結婚・離婚・家庭についてどう思いますか。
 ((1)～(9)のそれぞれについて、1～4の中であてはまるもの1つに○)

		そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう 思わない
結婚・離婚について	(1) 人間の幸福は結婚にあるのだから結婚した方がよい	1	2	3	4
	(2) 結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもどちらでもよい	1	2	3	4
	(3) 結婚しても相手に満足できない時は離婚すればよい	1	2	3	4
	(4) 結婚しても夫婦別姓の方がよい	1	2	3	4
	(5) 入籍せずパートナーとして暮らすのがよい	1	2	3	4
家庭について	(6) 夫は外で仕事をし、妻は家事・育児など家庭を守るべきである	1	2	3	4
	(7) 夫と妻は仕事も家事育児も等しく分担して家庭を守るのがよい	1	2	3	4
	(8) 家庭では、なにごとにも妻は夫を立て夫に従う方がうまくいく	1	2	3	4
	(9) 結婚しても自分自身(夫、妻)を大切に大人だけの家庭がよい	1	2	3	4

問5 あなたの家庭では、次のような家事を主に誰が担当していますか。
 ((1)～(10)のそれぞれについて、1～4の中であてはまるもの1つに○)

	主として夫	夫婦同程度	主として妻	その他の人 (夫婦以外の家族など)
(1) 洗濯	1	2	3	4
(2) 食事のしたく	1	2	3	4
(3) 食事の後片付け	1	2	3	4
(4) 家のそうじ	1	2	3	4
(5) 日常のゴミ捨て	1	2	3	4
(6) 風呂場のそうじ	1	2	3	4
(7) 生活費の確保	1	2	3	4
(8) 日常の家計管理	1	2	3	4
(9) 日常の買い物	1	2	3	4
(10) 家庭における重要な決定	1	2	3	4

■ 子育てについてお聞きします。

問6 子育てについてあなたはどのように思いますか。

((1)～(7)のそれぞれについて、1～4の中であてはまるもの1つに○)

	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう 思わない
(1) 祖父母、保育士等父母以外の多くの 人々が子育てに関わるのがよい	1	2	3	4
(2) 3歳までは、母親が子育てに専念 するべきである	1	2	3	4
(3) 子育ては夫も妻も等分に関わるの がよい	1	2	3	4
(4) 男女とも、経済的自立ができる ように育てるのがよい	1	2	3	4
(5) 男女とも、家事・育児ができる ように育てるのがよい	1	2	3	4
(6) 個性を伸ばし、個人を尊重する 育て方がよい	1	2	3	4
(7) 女の子は女らしく、男の子は 男らしく育てるのがよい	1	2	3	4

■ 介護についてお聞きします。

問7 あなたは今、家族の誰かを介護していますか。または介護をしたことがありますか。
(どちらか1つに○)

- | | | |
|-------------------|---|-------|
| 1. している(したことがある) | → | 問8・9へ |
| 2. していない(したことがない) | → | 問10へ |

問8 問7で「1. している(したことがある)」と答えた方だけに質問します。
介護した相手は誰ですか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------|------------|
| 1. 配偶者 | 2. 親 |
| 3. 子 | 4. きょうだい |
| 5. 祖父母 | 6. 配偶者の親 |
| 7. 配偶者の子 | 8. 配偶者の祖父母 |
| 9. その他() | |

問9 問7で「1. している(したことがある)」と答えた方だけに質問します。
介護はどのように行っていますか(または行っていましたか)。
(あてはまるもの1つに○)

- | |
|--|
| 1. 主に自分一人で介護している |
| 2. 主に自分が介護しているが、配偶者、子ども、その他の家族などの協力がある |
| 3. 主に他の人が介護しているのを手伝っている |
| 4. サービスなどを利用しながら介護している |
| 5. その他() |

問10 あなた自身が介護されるとしたら、主に誰に介護してもらいたいですか。
(希望する相手上位3つまでを順番に番号で記入)

- | |
|--------------------------|
| 1. 配偶者 |
| 2. 娘 |
| 3. 娘の夫 |
| 4. 息子 |
| 5. 息子の妻 |
| 6. 介護を仕事とする女性(ホームヘルパーなど) |
| 7. 介護を仕事とする男性(ホームヘルパーなど) |
| 8. その他(具体的に:) |

1 番	
2 番	
3 番	

■ 仕事についてお聞きします。

問11 あなたは、現在、収入をとまなう仕事についていますか。産前・産後、育児介護休暇中の人は働いているものとみなします。(どちらか1つに○)

1. 仕事をしている

2. 仕事をしていない

問12 配偶者やパートナーと一緒に暮らしていらっしゃる方に質問します。

あなたの配偶者やパートナーは収入を得る仕事をしていますか。(どちらか1つに○)

1. 仕事をしている

2. 仕事をしていない

問13-1 問11で「1. 仕事をしている」と答えた方だけに質問します。

どのようなお仕事をしていますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 営業主・会社経営

2. 家業手伝い(農林漁業を含む)

3. 自由業者(弁護士・開業医・個人教師等)

4. 内職など(在宅で受託)

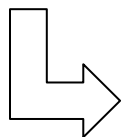
5. 公務員等(私立学校教師含む)

6. 正社員・正職員

7. 臨時雇用・パート・アルバイト

8. 派遣社員

9. その他()



問13-2 今後も仕事を続けたいと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 働けるかぎり働きたい

2. 当分の間は働きたい

3. 仕事をやめたい

4. わからない

問14-1 問11で「2. 仕事をしていない」と答えた方だけに質問します。

仕事をしていない理由はなんですか。(あてはまるもの1つに○)

1. 学校に通っているから

2. 家事・育児・介護に専念したいから

3. 家事・育児・介護を担わざるを得ないから

4. 経済的に必要としないから

5. やりがいのある仕事がないから

6. リストラにあったから

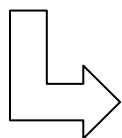
7. 定年・高齢のため

8. 健康や体力に自信がないから

9. 趣味やボランティア等の活動をしているから

10. 仕事を持たないほうが、自由に生きられるから

11. その他()



問14-2 今後、仕事をしたいと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 今すぐにでも働きたい

2. できれば働きたい

3. いずれは働きたい

4. 働きたくない

5. わからない

問 15 一般的に女性が収入をとまなう仕事をもつことについて、あなたはどのように思いますか。
(あてはまるもの1つに○)

1. 子どもができて、育児休業をとるなどして仕事はずっと続ける方がよい
2. 結婚や出産で退職し、子育てを終えてから再び仕事をもつ方がよい
3. 結婚や出産までは仕事をもつ方がよい
4. 仕事は家計の補助程度の働きでよい
5. 女性は仕事をもたない方がよい
6. その他 ()

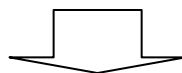
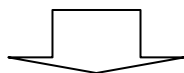
問 16 家庭で育児や介護が必要なとき、共働き夫婦が育児休業や介護休業を取るとしたらどうするのがよいと思いますか。(育児休業、介護休業それぞれについてあてはまるもの1つに○) また、どうしてそう思われましたか。(その選択理由それぞれについて1つに○)

●育児休業 (あてはまるもの1つに○)

1. どちらかといえば夫が取るのがよい
2. どちらかといえば妻が取るのがよい
3. 夫も妻も同じように取るのがよい
4. その他 ()

●介護休業 (あてはまるもの1つに○)

1. どちらかといえば夫が取るのがよい
2. どちらかといえば妻が取るのがよい
3. 夫も妻も同じように取るのがよい
4. その他 ()



●選択理由 (あてはまるもの1つに○)

1. 子育ては、夫婦で行うものだから
2. 子育ては、夫が行う方が適しているから
3. 子育ては、妻が行う方が適しているから
4. 生活のため、収入の少ない方が取る方がよいから
5. 育児休業を取ると昇進に差しさわりがあると思うから
6. 仕事にやりがいを感じているから
7. 育児をしたくないから
8. その他 ()

●選択理由 (あてはまるもの1つに○)

1. 親の介護は、夫婦で行うものだから
2. 自分の親の介護は、自分で行いたいから
3. 親の介護は、夫が行う方が適しているから
4. 親の介護は、妻が行う方が適しているから
5. 生活のため、収入の少ない方が取る方がよいから
6. 介護休業を取ると昇進に差しさわりがあると思うから
7. 仕事にやりがいを感じているから
8. 親の介護をしたくないから
9. その他 ()

■ 家庭生活と地域活動についてお聞きします。

問17 仕事との関係において、あなたは家庭生活または自治会やPTA活動などの地域活動をどのように位置づけるのが望ましいと思いますか。また、実際はどうか。
(望ましいと思うこと、実際について、それぞれあてはまるものの番号を1つ記入)

1. 家庭生活または地域活動よりも仕事に専念する
2. 家庭生活または地域活動にもたずさわるが、あくまでも仕事を優先する
3. 家庭生活・地域活動・仕事をバランスよく行う
4. 仕事にもたずさわるが、家庭生活または地域活動を優先する
5. 仕事よりも、家庭生活または地域活動に専念する

望ましいと思う
こと（理想）

實際（現実）

問18 あなたは、男女がともに家事、子育て、介護、地域活動など、あらゆる分野に積極的に参加していくために、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるもの3つまでに○)

1. 男性が家事等へ参加することへの男性自身の抵抗感をなくす
2. 男性が家事等へ参加することへの女性自身の抵抗感をなくす
3. 女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、習慣、しきたりを改めること
4. 女性自身が経済力をつけたり、知識・技術を習得するなど、積極的に力の向上を図ること
5. まわりの人（年配者等）が夫婦の考え方を尊重する
6. 労働時間の短縮、休暇制度の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようにする
7. 男性が家事、子育て、介護、地域活動への関心が高まるよう研修や情報提供を行う
8. 女性が地域活動において企画づくりや方針決定の場に参画する
9. 男性の家事や子育て介護等の技能を高める
10. その他（ ）

■ 性と人権についてお聞きします。

問19 セクシュアル・ハラスメントやドメスティック・バイオレンスは、男女互いの性に対する人権侵害だと思いますか。(どちらか1つに○)

1. 思う

セクシュアル・ハラスメント（セクハラ・性的嫌がらせ）とは、職場、学校、地域活動等において、相手の意に反した攻撃的で屈辱的な性的言動や勧誘により、仕事をしていくうえで、一定の不利益を与えたり、環境を悪化させることを言います。

問20 あなたやあなたのまわりの方が学校・職場・地域活動等でセクシュアル・ハラスメント（セクハラ、性的嫌がらせ）の被害にあわれたことがありますか。
（あてはまるもの1つに○）

1. 自分自身が被害にあったことがある
2. 友人や職場の仲間など、自分のまわりに被害にあった人がいる
3. 具体的に相談を受けたことがある
4. 見たり聞いたりしたことはない
5. その他（

ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）とは、配偶者や恋人などのパートナーから、殴る、蹴る、物を投げつけるなどの身体的暴力、レイプなどの性的暴力、ののしる、おどす、無視をするなどの精神的暴力、生活費を渡さないなどの経済的暴力を受けることを言います。

問21 ドメスティック・バイオレンス（DV）の被害者は女性であることが多いのですが、あなたやあなたのまわりの方がDVの被害にあわれたことがありますか。
(あてはまるもの1つに○)

1. 自分自身が被害にあったことがある
2. 自分自身に加害経験がある
3. 自分のまわりの女性が被害にあったことがある
4. 自分のまわりの男性が被害にあったことがある
5. 具体的に相談を受けたことがある
6. 見たたり聞いたたりしたことはない
7. その他（

→ 問22・23へ

→ 問24^

問22 問21で1～5のいずれかを選んだ方だけに質問します。

あなたが経験したり見聞きしたドメスティック・バイオレンス（DV）はどのような内容ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 「おれがいるときは外出しないように」と言う
2. 「誰のおかげで、おまえは食べられるんだ」と言う
3. 意に反して、性的行為を強要する
4. 殴ったり、蹴ったり、平手で打つなどする
5. 交友関係や電話を細かく監視する
6. 話しかけても無視して返事をしない
7. 生活していけないほどの小額なお金しか渡さない
8. その他（

問23 あなた自身やまわりの方がセクハラやDVの被害にあわれた経験のある方に質問します。

あなたやあなたのまわりの方がセクシュアル・ハラスメントや DV の被害にあわれたとき、あなたはどのような対応しましたか。

(それぞれあてはまるものすべてに○)

その他 ()	何もできなかった	警察に訴えた	裁判所に訴えた	弁護士に相談した	民間の相談機関に相談した	公的な相談機関に相談した	職場や学校の苦情処理機関や上司・教師などに訴えた	家族や友人に相談した	セクハラやDVを行った相手に直接抗議した	
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	セクハラの場合
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	DVの場合

問24 では、セクハラやDVをなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 配偶者・恋人からの暴力や性的嫌がらせに関する広報・啓発活動を進め、社会的関心を高める
2. 男女平等や性に関する教育を充実する
3. 被害を受け悩んでいる人に対する情報提供や相談体制を充実する
4. 加害者に対するカウンセリングや教育などを進める
5. 早期発見・対応に向けた地域や社会におけるネットワークの構築と内容の充実を図る
6. その他（ ）

問25 テレビ、新聞、雑誌や出版物、インターネットなどのメディア（広告を含む）における、性（セックス）に関する表現について、あなたはどのように考えますか。
 （（１）～（５）のそれぞれについて、１～４の中であてはまるもの１つに○）

	そのとおりだ と思う	どちらかとい えばそのとお りだと思う	どちらかとい えばそのよう なことはない と思う	そのようなこと はないと 思う
（１）女性の身体・姿態が強調され 商品化した表現が多い	1	2	3	4
（２）社会全体の性に関する道徳観・ 倫理観を損なっている	1	2	3	4
（３）女性に対する犯罪を助長する おそれがある	1	2	3	4
（４）子どもが性についてゆがんだ 意識を持ちやすい	1	2	3	4
（５）女性や男性に対する偏った イメージを定着させている	1	2	3	4

問26 現在、10歳代の子どもたちに人工中絶や性感染症があることは社会問題となっています。その増加をくい止めるためには、性と生殖に関する正しい知識を子どもたちに教えることが重要といわれていますが、このことについてあなたはどのように思われますか。
 （あてはまるものすべてに○）

1. 間違った性情報があらゆるところで氾濫しているので、できるだけ早い時期に行った方がよい
2. このような情報は早く知れば知るほど、子どもに悪影響を及ぼすので知らさない方がよい
3. 家庭で家族が、子どもの成長に応じて必要なことを教えていくのがよい
4. 学校で教師が、子どもの成長に応じて必要なことを教えていくのがよい
5. 学校では教えない方がよい
6. 保健所や保健センターなどが、積極的に教えていくのがよい
7. 国や自治体などの公共団体が積極的に、講座等を開き教えていくのがよい
8. 思春期になれば性に興味や関心を持つことは自然なことなので、あえて教える必要はない
9. その他（ ）

■ 男女共同参画政策についてお聞きします。

問 27 次の「ことがら」や「ことば」を見たり聞いたりしたことがありますか。

((1)～(13)のそれぞれについて、1～3の中であてはまるもの1つに○)

	よく 知っている	聞いたこ とがある	知らない
(1) 男女雇用機会均等法(1986年施行)	1	2	3
(2) 女性差別撤廃条約(1979年採択)	1	2	3
(3) 育児・介護休業法(1992年施行)	1	2	3
(4) 男女共同参画社会基本法(1999年施行)	1	2	3
(5) 改正配偶者暴力(DV)防止法(2004年施行)	1	2	3
(6) 男女混合名簿	1	2	3
(7) ジェンダー(社会的、文化的性差)	1	2	3
(8) 固定的性別役割分担	1	2	3
(9) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	1	2	3
(10) ポジティブ・アクション	1	2	3
(11) エンパワーメント	1	2	3
(12) 兵庫県男女共同参画社会づくり条例(2002年施行)	1	2	3
(13) 川西市男女共同参画プラン(2003年策定)	1	2	3

問 28 「男女共同参画社会」の実現に向けて、今後、国や県、市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 法律や制度の面で見直しをする
2. 学校教育や生涯教育の場で男女平等と相互理解・協力についての学習を充実する
3. 女性を政策決定の場に積極的に登用する
4. 労働時間の短縮やフレックスタイム制の導入などをすすめる
5. 男性に対する育児・介護休業の取得促進
6. 情報紙やパンフレットを利用して男女平等と相互理解・協力についてPRする
7. 川西市の男女共同参画に関する条例の制定
8. 女性自身の知識・技能の取得のための職業訓練や職業教育の充実
9. 国や地方自治体が、職員の採用や管理職への登用などで女性の数や比率を定める割合制(クォータ)を設けるようにする
10. 国や地方自治体が自主的に、女性職員の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性職員の進出を促す計画を策定する
11. 企業が、社員の採用や管理職への登用などで女性の数や比率を定める割当性(クォータ)を設けるようにする
12. 企業が自主的に、女性社員の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性社員の進出を促す計画を策定する
13. その他()

問29 あなたは「川西市男女共同参画センター」を知っていますか。

(あてはまるもの1つに○)

1. 知っていて、利用したことがある
2. 知っているが、利用したことがない
3. 知らない

複合施設「パレットかわにし」にある男女共同参画センターは、男女が社会のあらゆる分野に共に参画し、いきいきと生きることができる男女共同参画社会の実現をめざし、設置された施設です。

問30 あなたは、この男女共同参画センターにどのようなことを希望しますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 男女共同参画に関する図書や情報の収集・提供
2. 自主的な活動への助成・支援
3. 講座・学習時の保育支援
4. 「女性の悩みごと相談」などの相談事業の充実
5. セクハラ・DV被害者への相談・支援
6. 男女共同参画に関する講座の充実
7. ボランティア等の人材を育成する講座の充実
8. 就労を支援する講座の充実
9. 起業やNPO設立に関する相談
10. その他（

）

川西市の男女共同参画施策について、ご意見、ご要望等がございましたら、ご自由にお書きください。

■ 最後にあなた自身についてお聞きします。

※すべてについてあてはまるもの1つに○

◆あなたの性別は。（自認する性でもけっこうです）

1. 女性

2. 男性

◆あなたのお年は満何歳ですか。

1. 16歳～19歳

2. 20歳～24歳

3. 25歳～29歳

4. 30歳～34歳

5. 35歳～39歳

6. 40歳～44歳

7. 45歳～49歳

8. 50歳～54歳

9. 55歳～59歳

10. 60歳～64歳

11. 65歳～69歳

12. 70歳～74歳

13. 75歳～79歳

14. 80歳以上

◆あなたは結婚していらっしゃいますか。

1. 結婚している

2. 結婚していないがパートナーと暮らしている

3. 結婚していたが死別した

4. 結婚していたが離別した

5. 結婚していない

6. その他（ ）

◆あなたが同居している家族の構成は。

1. 単身世帯（一人暮らし）

2. 1世代世帯（夫婦のみ）

3. 2世代世帯（親と子）

4. 3世代世帯（親と子と孫等）

5. その他

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

調査票は同封の返信用封筒に入れ、封をして切手を貼らずに
8月1日（月）までにポストにご投函ください。

川西市男女共同参画に関する
市民意識調査 報告書

平成 18（2006）年 3月

発行 川西市 市民生活部 市民参画室 男女共同参画課

〒666-8501 川西市中央町 12-1

TEL 072-740-1109

FAX 072-740-1322
